第13節 動物

対象道路事業実施区域及びその周辺には重要な種及び注目すべき生息地※が確認されており、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在及び換気塔の存在に係る動物への影響が考えられるため、動物の調査、予測及び評価を行いました。

※注目すべき生息地：学術上若しくは希少性の観点から重要である生息地又は地域の象徴であることや、その他の理由により重要性が高いと考えられる生息地を示します。

13.1 工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在及び換気塔の存在に係る動物

1） 調査

(1) 調査の手法

① 調査した情報

a） 動物の生息の状況

動物相(哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、魚類、昆虫類・クモ類、陸産貝類、底生動物)の状況について調査しました。

b） 重要な種及び注目すべき生息地の状況

重要な種及び注目すべき生息地の状況について調査しました。

② 調査の手法

既存資料調査及び現地調査により動物相の状況、重要な種及び注目すべき生息地の状況の調査を行いました。

a） 動物の生息の状況

動物の生息状況の調査は、表 8-13-1 に示す手法により現地調査を実施しました。

表 8-13-1　現地調査の手法

項目	調査手法	調査手法の解説
哺乳類	直接観察	調査地域を任意に踏査し、目視等により生息種の確認・記録を行った。
	フィールドサイン法	調査地域を任意に踏査し、糞、足跡、食痕、爪痕、営巣の跡等により生息種の確認・記録を行った。
	トラップによる捕獲	調査地域に、主にネズミ等の小型哺乳類を対象に、生け捕り用罠（シャーマントラップ）等を設置し、捕獲することにより生息種の確認・記録を行った。
鳥類	直接観察	調査地域を任意に踏査し、目視又は鳴き声等により生息種の確認・記録を行った。
	ラインセンサス法	調査地域に調査ルートを設定し、一定速度で歩きながら、一定範囲内において出現した鳥類を目視や鳴き声により生息種の確認・記録を行った。
	定点観察法	調査地域の見通しがきく場所等に観察地点を定め、そこからの観察により生息種の確認・記録を行った。
猛禽類	定点観察法	調査地域に観察地点(定点)を設置し、各地点の可視範囲内に出現する猛禽類を識別し、生息種の確認・記録を行った。各地点間は無線機により連携を図り、出現した猛禽類の飛翔の経路を記録した。また、定点観察を補足するため、任意踏査による確認を行った。
爬虫類	直接観察及び採取	調査地域を任意に踏査し、目視等により生息種の確認・記録を行った。
	トラップによる捕獲	調査地域の主要な河川及び池において、主にカメ類を対象に、かご罠を設置し、捕獲することにより生息種の確認・記録を行った。
両生類	直接観察及び採取	調査地域を任意に踏査し、目視又は鳴き声により生息種の確認・記録を行った。
魚類	直接観察及び採取	調査地域の主要な河川及び池において、投網、タモ網等を用いて採取することにより生息種の確認・記録を行った。
	トラップによる捕獲	調査地域の主要な河川及び池において、セルびん、刺し網、かご罠等を用いて捕獲することにより生息種の確認・記録を行った。
昆虫類・クモ類	直接観察及び採取	調査地域を任意に踏査し、見つけ採り、スウィーピング、ビーティング等による任意採集（クモ類を含む）により生息種の確認・記録を行った。
	ライトトラップ法	調査地域に設定した地点において、夜間に光源(地面に対して垂直に張った白布に光を反射させたもの)を置き、これに集まる種（主にガ類、コウチュウ類等の走光性昆虫）を採集することにより生息種の確認・記録を行った。
	ベイトトラップ法	調査地域の複数の地点において、誘因餌（ベイト）を入れたプラスチックカップを地中に埋めて一晩放置し、翌日誘引された種（主にオサムシ類、ゴミムシ類、アリ類等の地表徘徊性昆虫）を採集することにより生息種の確認・記録を行った。
陸産貝類	直接観察及び採取	調査地域を任意に踏査し、目視等により生息種の確認・記録を行った。
底生動物	直接観察及び採取	調査地域の主要な河川及び池において、タモ網等を用いて採取することにより生息種の確認・記録を行った。
	コドラート法	調査地域の主要な河川及び池において、エクマン・バージ型採泥器を用いた定量採取を行い、分析室に持ち帰り、分析することにより、生息種の確認・記録を行った。

b) 重要な種の状況

(a) 重要な種の生態

重要な種の生態については、表 8-13-2 に示す図鑑、研究論文、その他の資料の収集により整理しました。

表 8-13-2 既存資料一覧

資料名	発行者	発行年月又は資料確認時点
日本の哺乳類〔改訂版〕	東海大学出版会	平成 6 年 12 月
原色日本野鳥生態図鑑＜水鳥編＞	(株)保育社	平成 7 年 3 月
原色日本野鳥生態図鑑＜陸鳥編＞	(株)保育社	平成 7 年 2 月
図鑑 日本のワシタカ類	(株)文一総合出版	平成 7 年 8 月
オオタカの営巣地における森林施業 生息環境の管理と間伐等における対応	(社)日本林業技術協会	平成 10 年 7 月
大阪市立自然史博物館研究報告 64 号「トウヨシノボリ縞鰭型の再定義と新標準和名の提唱」	大阪市立自然史博物館	平成 22 年 3 月
山渓カラー名鑑 日本の淡水魚	(株)山と渓谷社	昭和 64 年 11 月
検索入門 セミ・バッタ	(株)保育社	平成 4 年 5 月
原色昆虫大図鑑〔第 3 巻〕	(株)北隆館	昭和 40 年 5 月
原色日本昆虫図鑑（上）・甲虫編	(株)保育社	平成 4 年 9 月
原色日本甲虫図鑑（Ⅱ）	(株)保育社	昭和 60 年 1 月
原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑	北海道大学図書刊行会	平成 11 年 7 月
写真・日本クモ類大図鑑	(株)偕成社	昭和 64 年 10 月
日本産クモ類	東海大学出版会	平成 21 年 8 月
日本のクモ	文一総合出版	平成 18 年 11 月
干潟ベントスフィールド図鑑	日本国際湿地保全連合	平成 25 年 5 月
レッドデータブック 2014－日本の絶滅のおそれのある野生動物	(株)ぎょうせい	平成 26 年 9 月 平成 27 年 2 月
近畿地区・鳥類レッドデータブック-絶滅危惧種判定システムの開発	京都大学学術出版会	平成 14 年 3 月
大阪府における保護上重要な野生生物－大阪府レッドデータブック－	大阪府	平成 12 年 3 月
兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック 2014（貝類・その他無籍椎動物）	(財)ひょうご環境創造協会	平成 26 年 3 月
兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック 2013（鳥類）	(財)ひょうご環境創造協会	平成 25 年 3 月
兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック 2012（昆虫類）	(財)ひょうご環境創造協会	平成 24 年 3 月
改訂・兵庫の貴重な自然－兵庫県版レッドデータブック 2003－	(財)ひょうご環境創造協会	平成 15 年 3 月
京都府レッドデータブック上巻 野生生物編	京都府	平成 14 年 4 月
大切にしたい奈良県の野生動植物～奈良県版レッドデータブック～脊椎動物編	奈良県	平成 18 年 3 月
滋賀県で大切にすべき野生生物－滋賀県レッドデータブック 2010 年版－	滋賀県	平成 23 年 3 月
保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－	和歌山県	平成 13 年 3 月
保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012 年改訂版】	和歌山県	平成 24 年 3 月

(b) 重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況

重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況については、表 8-13-3 に示す選定基準に該当する種について、「a) 動物の生息の状況」の調査と併せて行いました。

表 8-13-3　重要な動物種の選定基準

番号	文献及び法律名等	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号） 「大阪府文化財保護条例」（昭和 44 年大阪府条例第 5 号） 「大阪市文化財保護条例」（平成 11 年大阪市条例第 5 号）	国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 府天：府指定天然記念物 市天：市指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年法律第 75 号）	国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
③	「レッドデータブック 2014　1 哺乳類」 「レッドデータブック 2014　2 鳥類」 「レッドデータブック 2014　3 爬虫類・両生類」 「レッドデータブック 2014　6 貝類」 「レッドデータブック 2014　7 その他無脊椎動物」 （平成 26 年 9 月、環境省） 「レッドデータブック 2014　4 汽水・淡水魚類」 「レッドデータブック 2014　5 昆虫類」 （平成 27 年 2 月、環境省）	EX：我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW：野生絶滅（飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種） CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類（絶滅の危機に瀕している種） CR：絶滅危惧ⅠA 類（ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種） EN：絶滅危惧ⅠB 類（ⅠA 類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種） VU：絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種） NT：準絶滅危惧（現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種） DD：情報不足（評価するだけの情報が不足している種） LP：絶滅のおそれのある地域個体群（地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群）
④	「大阪府レッドリスト 2014」 （平成 26 年 3 月、大阪府）	絶滅：絶滅（本府ではすでに絶滅したと考えられる種） Ⅰ類：絶滅危惧Ⅰ類（絶滅の危機に瀕している種） Ⅱ類：絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種） 準絶：準絶滅危惧（存続基盤が脆弱な種） 不足：情報不足（評価するだけの情報が不足している種） 要注：要注目（注目を要する種）
⑤	「近畿地区･鳥類レッドデータブックー絶滅危惧種判定システムの開発」 （平成 14 年、京都大学学術出版会）	繁殖：繁殖個体群 越冬：越冬個体群 通過：通過個体群 夏季：夏季滞在個体群 1：ランク 1－危機的絶滅危惧種 2：ランク 2－絶滅危惧種 3：ランク 3－準絶滅危惧種 4：ランク 4－要注目種（特に危険なしの種を除く）

c) 注目すべき生息地の状況

注目すべき生息地の状況については、文献その他の資料により法令又は条例、条約等による生息地の指定状況を調査しました。

また、注目すべき生息地の選定にあたっては、最新の法律や文献により判断するものとし、表 8-13-4 に示す選定基準を用いました。

表 8-13-4　注目すべき生息地の選定基準

番号	文献及び法律名	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号） 「大阪府文化財保護条例」（昭和 44 年大阪府条例第 5 号） 「大阪市文化財保護条例」（平成 11 年大阪市条例第 5 号） 「守口市文化財保護条例」（平成 9 年守口市条例第 15 号）※	国指定特別天然記念物 国指定天然記念物 府指定天然記念物 市指定天然記念物
②	「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」（昭和 55 年条約第 28 号）	指定湿地
③	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年法律第 75 号）	生息地等保護区（動物に係るもの）
④	「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」（平成 4 年条約第 7 号）	自然遺産の登録基準に該当するもの
⑤	「第 4 回自然環境保全基礎調査　自然環境情報図」（平成 7 年、環境庁）に示された鳥類の集団繁殖地・集団ねぐら	地域の象徴であること等の理由により注目される生息地
⑥	「昆虫類の多様性保護のための重要地域第 3 集」（平成 14 年 12 月、日本昆虫学会自然保護委員会）	昆虫類の生物多様性保護の観点から選定された重要地域

※「守口市文化財保護条例」（平成 9 年守口市条例第 15 号）に基づく、天然記念物の指定はありません。

③ 調査地域

調査地域は、対象道路事業実施区域及びその端部から概ね 250ｍの範囲を目安としました。全域を踏査した上で、地表を改変しない又は自然度が低い都市域は対象外とし、調査地域を 2 地区（豊崎、鶴見）設定しました。

なお、動物の特性及び地形や植生の連続性を考慮しながら適宜拡大・縮小しました。

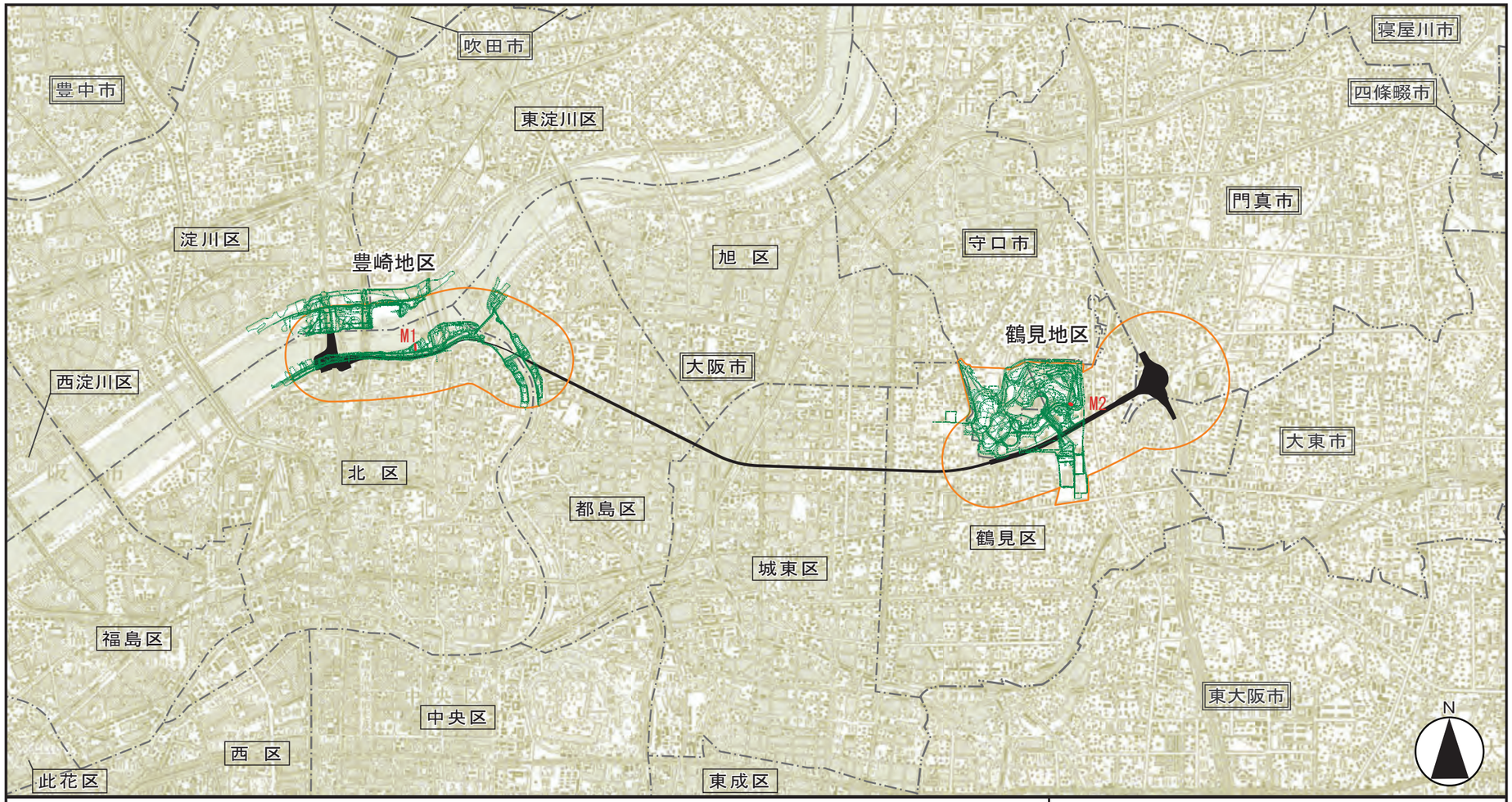
特に、猛禽類については、猛禽類の出現状況、生態的特性（行動圏）を踏まえ、調査地域を拡大しました。

調査地域を、図 8-13-1～図 8-13-9 に示します。

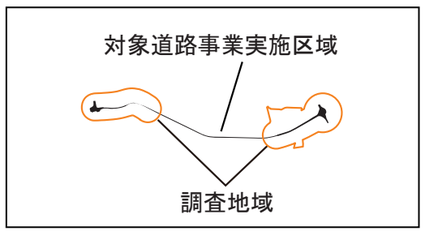
④ 調査地点

調査地点及び調査ルートは、調査対象動物の生態的な特性、周辺の地形状況、植生の連続性を踏まえ、調査地域に生息する動物を効率よく把握できる場所を設定しました。

調査地点及び調査ルートを、図 8-13-1～図 8-13-9 に示します。



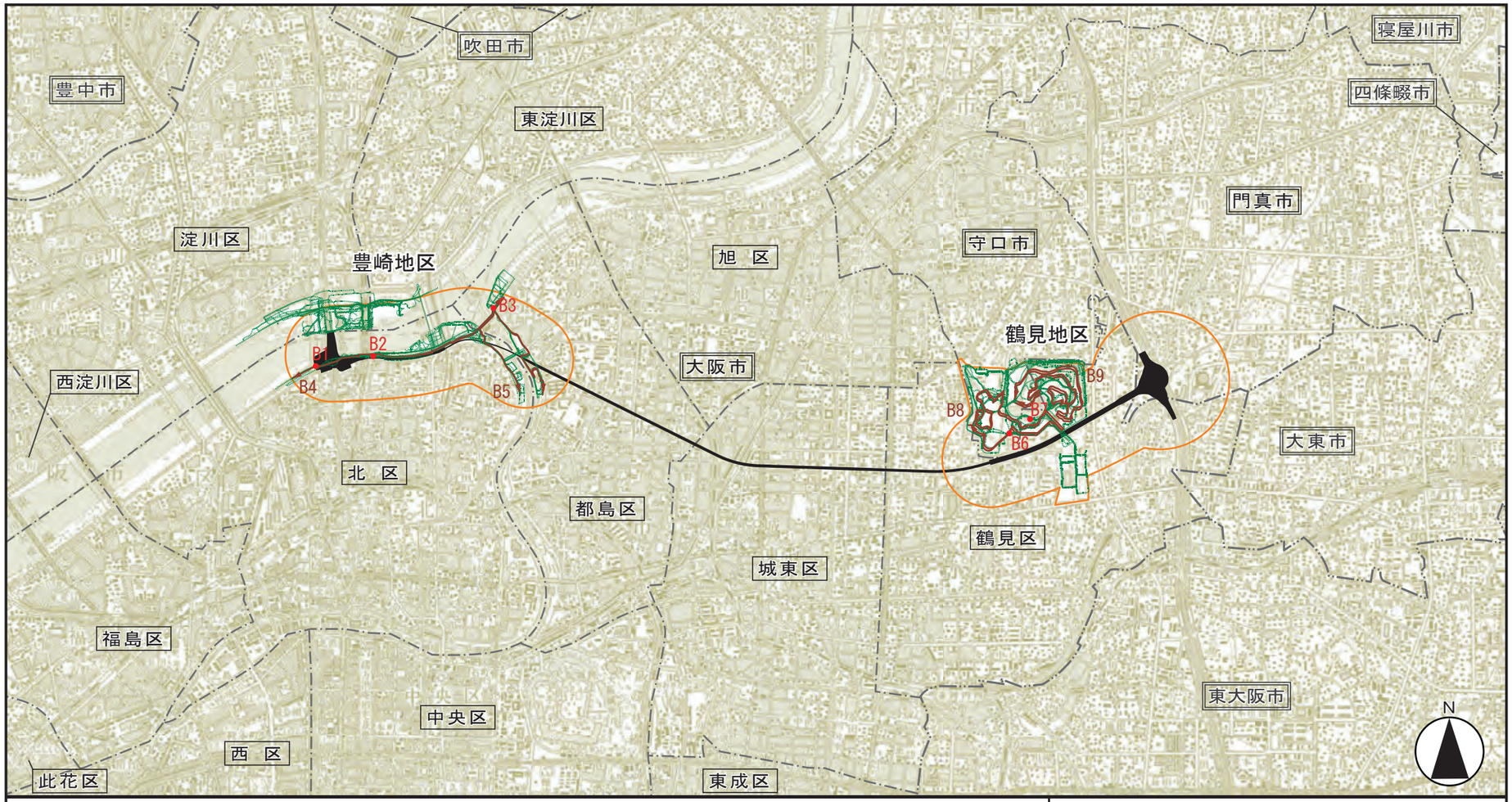
凡　　例		
記 号	名　　称	備 考
.....	踏査ルート	
■	トラップ調査地点	M1, M2



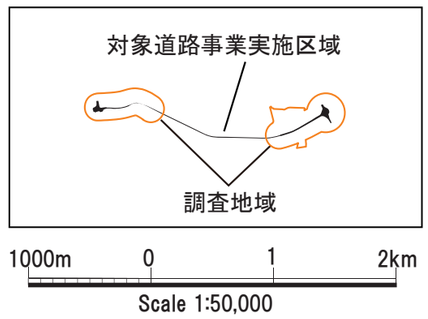
1000m　0　1　2km

Scale 1:50,000

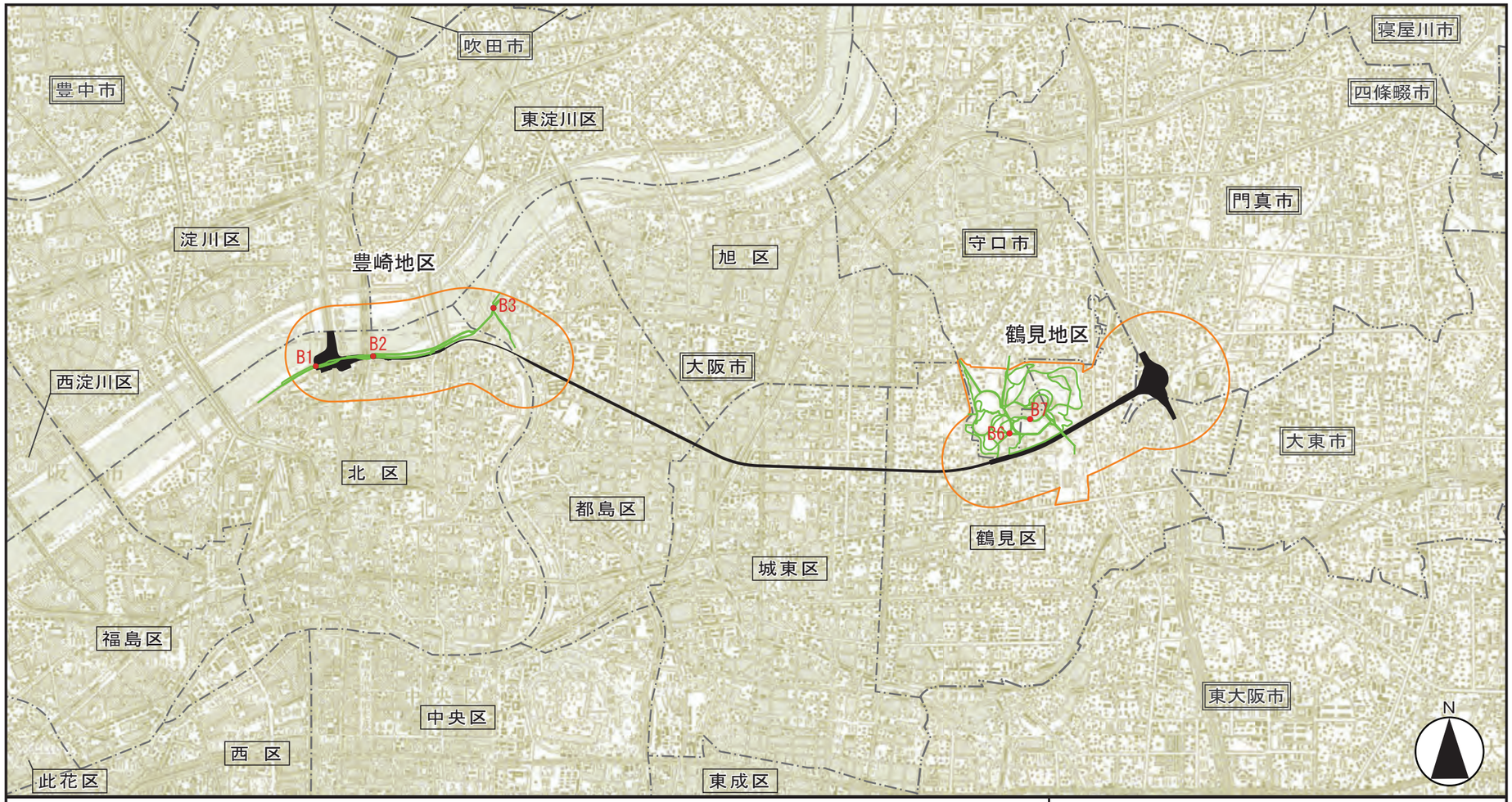
図名	図8-13-1　哺乳類調査位置図



凡　　例		
記 号	名　　称	備 考
●	定点調査地点	B1～B3, B6, B7
◆—◆	ラインセンサスルート	B4, B5, B8, B9
·····	踏査ルート	

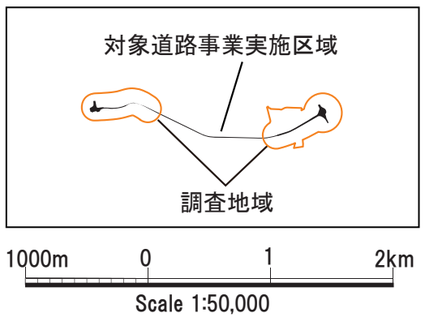


図名	図8-13-2　鳥類（猛禽類以外）調査位置図

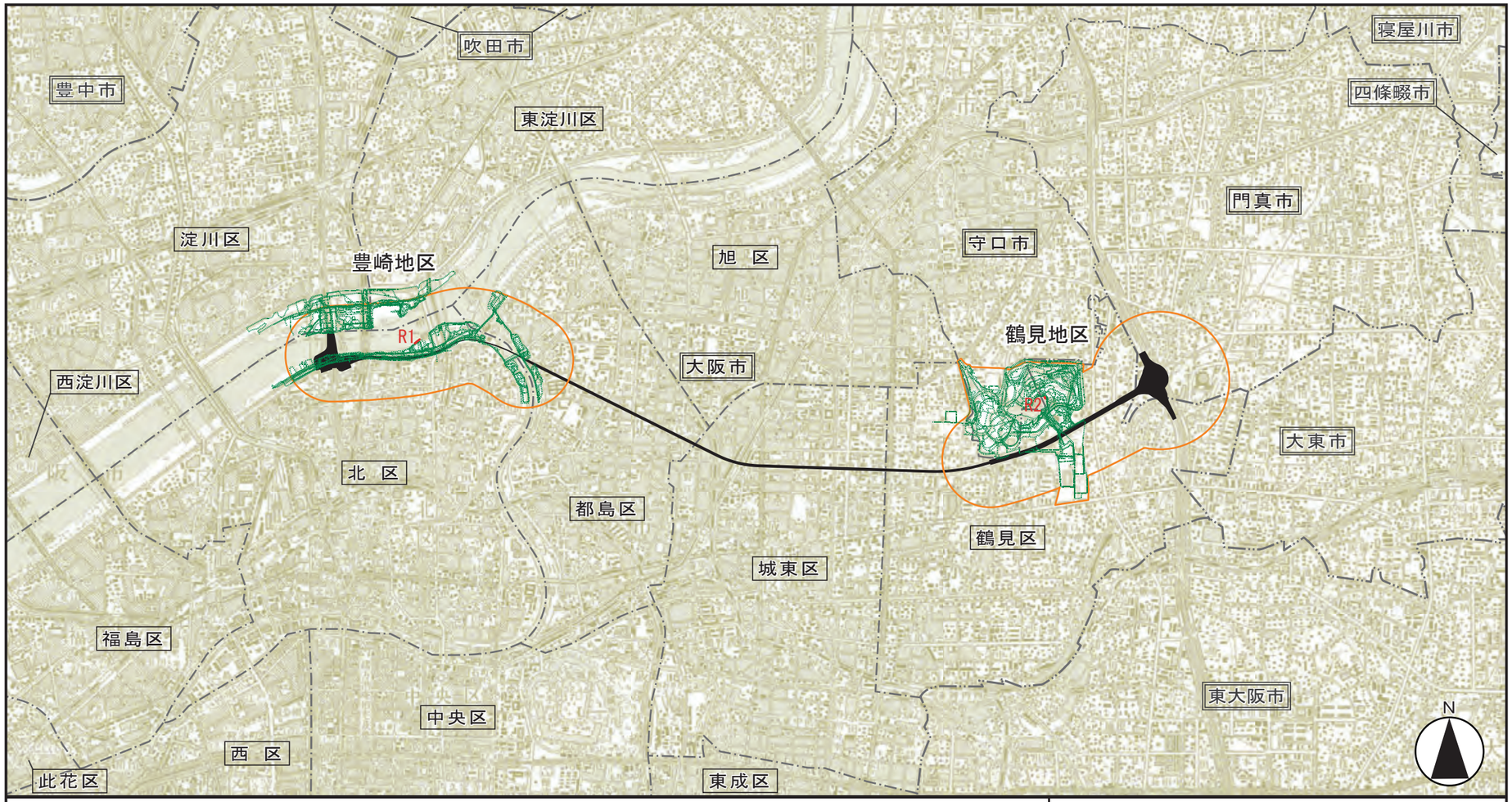


凡　　例		
記 号	名　　称	備 考
●	定点調査地点	B1～B3, B6, B7
———	踏査ルート	

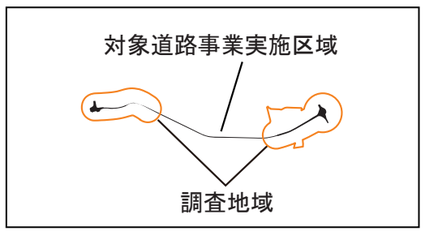
※調査地域は猛禽類の出現状況等をふまえ、適宜拡大しました。



図名　図8-13-3　鳥類（猛禽類）調査位置図



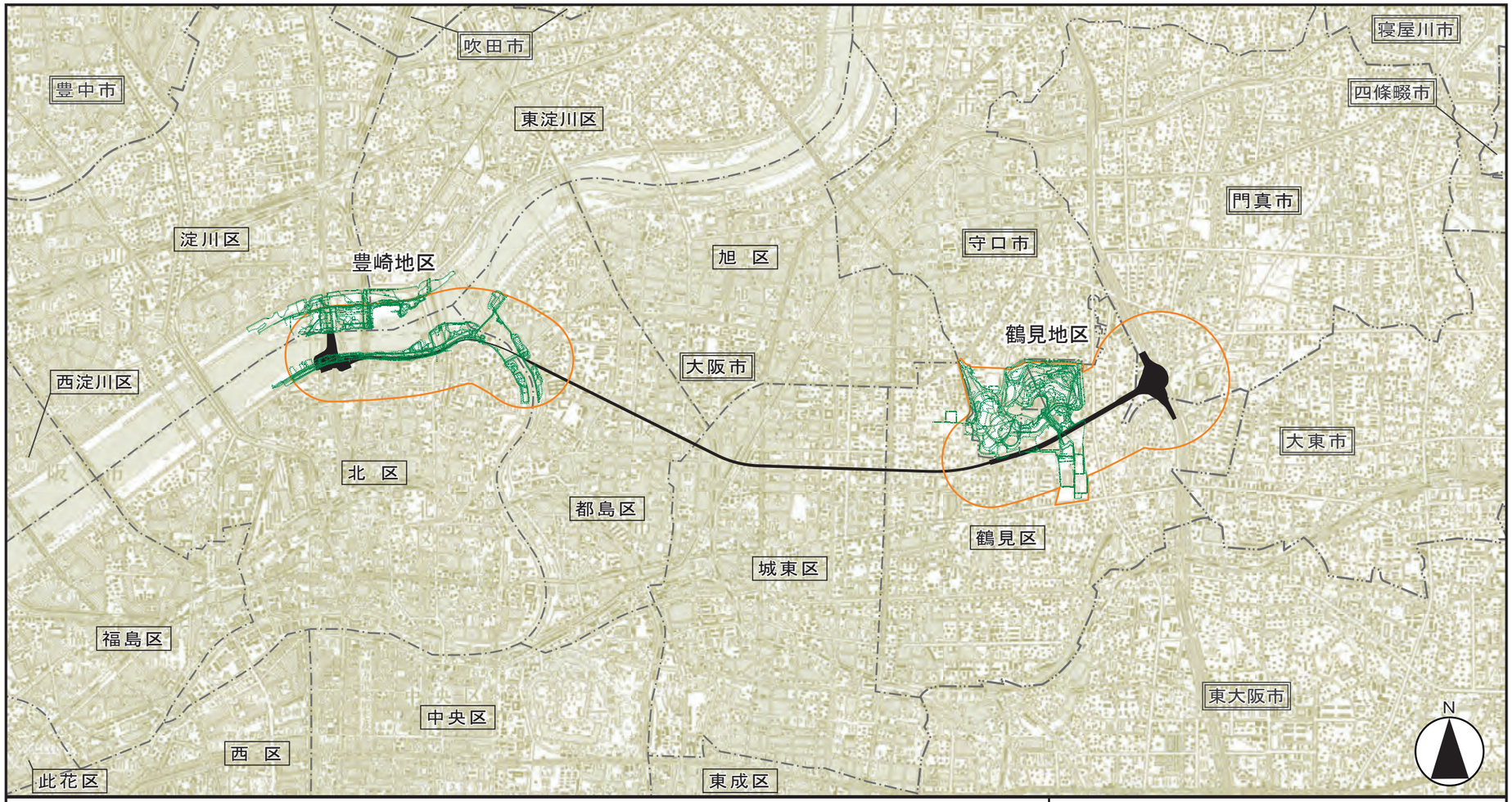
凡　　例		
記 号	名　　称	備 考
.....	踏査ルート	
■	トラップ調査地点	R1, R2



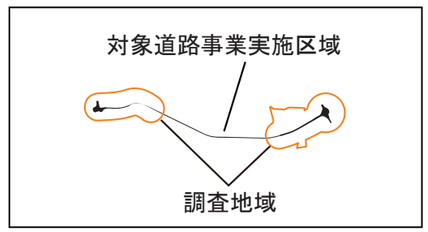
1000m　0　1　2km

Scale 1:50,000

図名	図8-13-4　爬虫類調査位置図



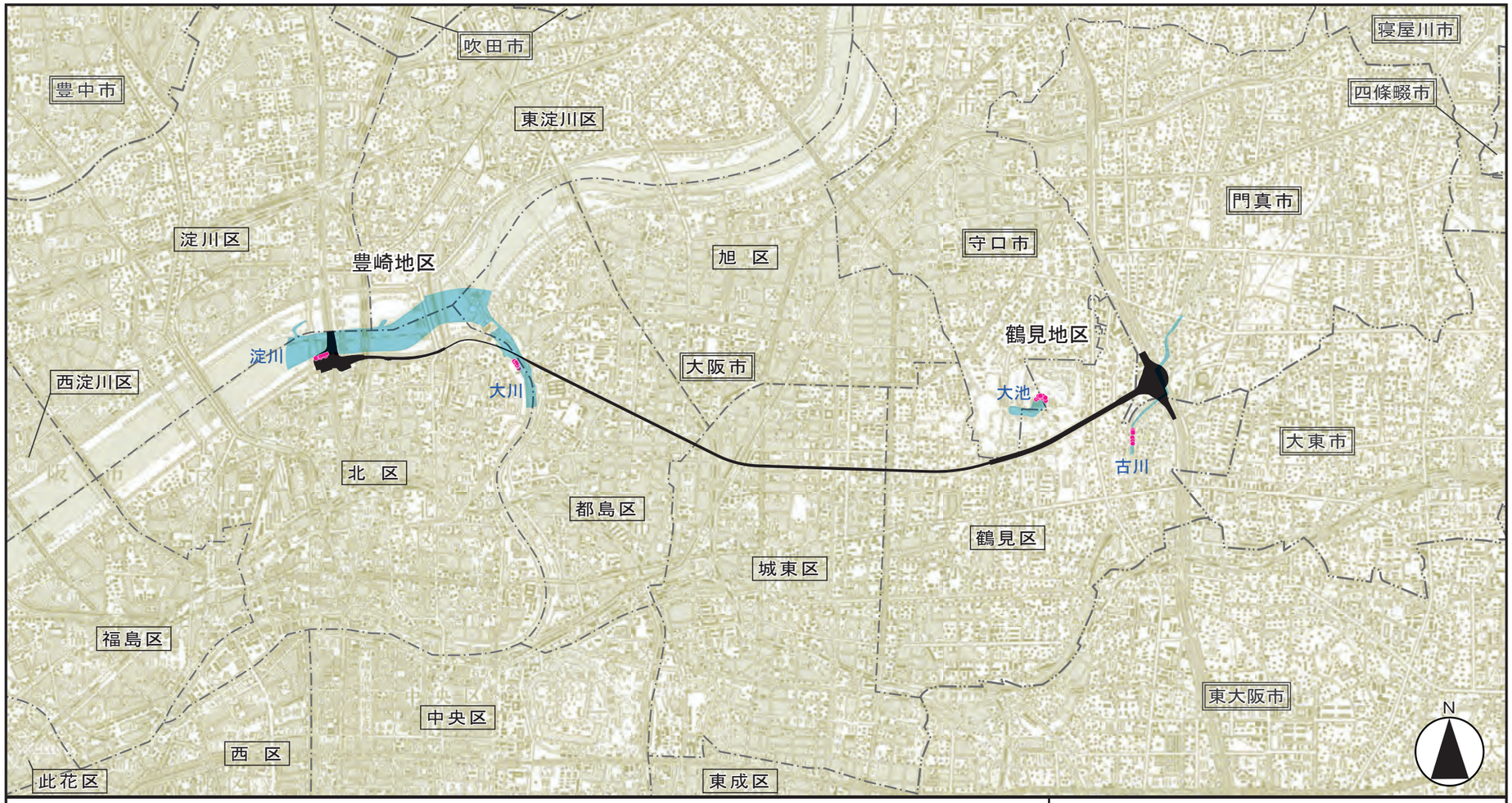
凡　　例		
記 号	名　　称	備 考
.....	踏査ルート	



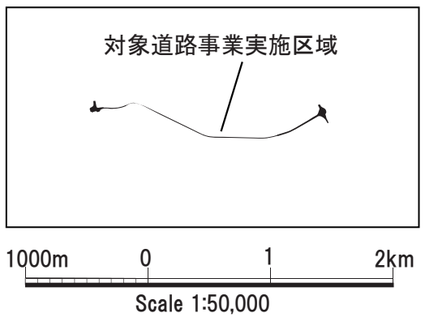
1000m　0　1　2km

Scale 1:50,000

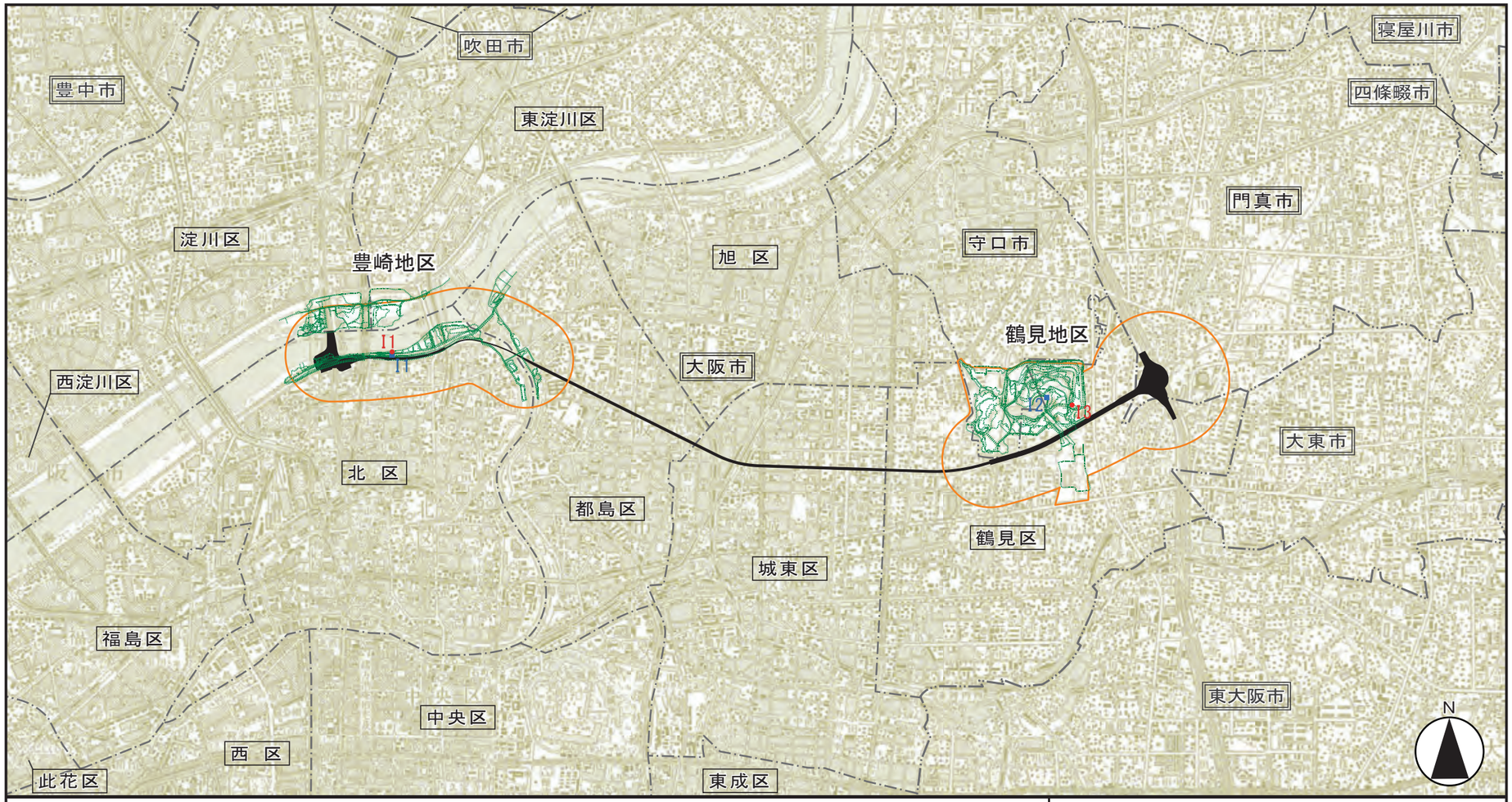
図名	図8-13-5　両生類調査位置図



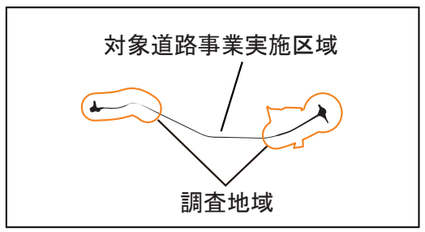
凡　　例		
記 号	名　　称	備 考
●	トラップ調査地点	
▬	調査対象河川	



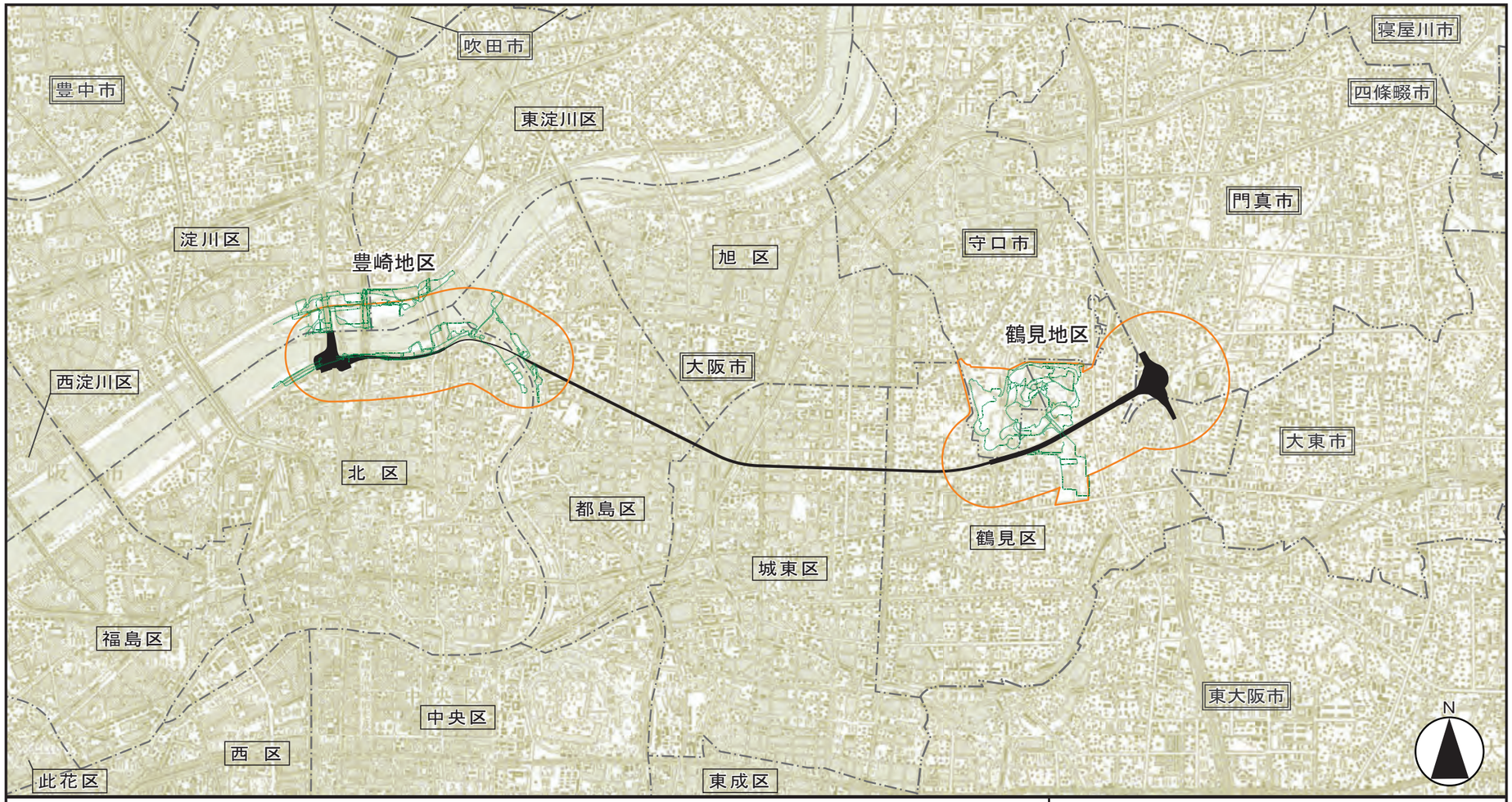
図名	図8-13-6　魚類調査位置図



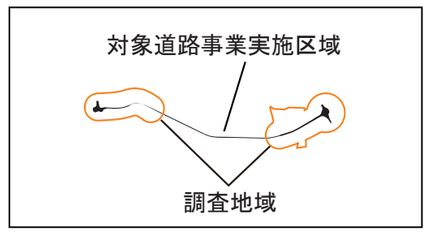
凡　　例		
記 号	名　　称	備 考
●	ベイトトラップ	I1, I3
■	ライトトラップ	I1, I2
.....	踏査ルート	



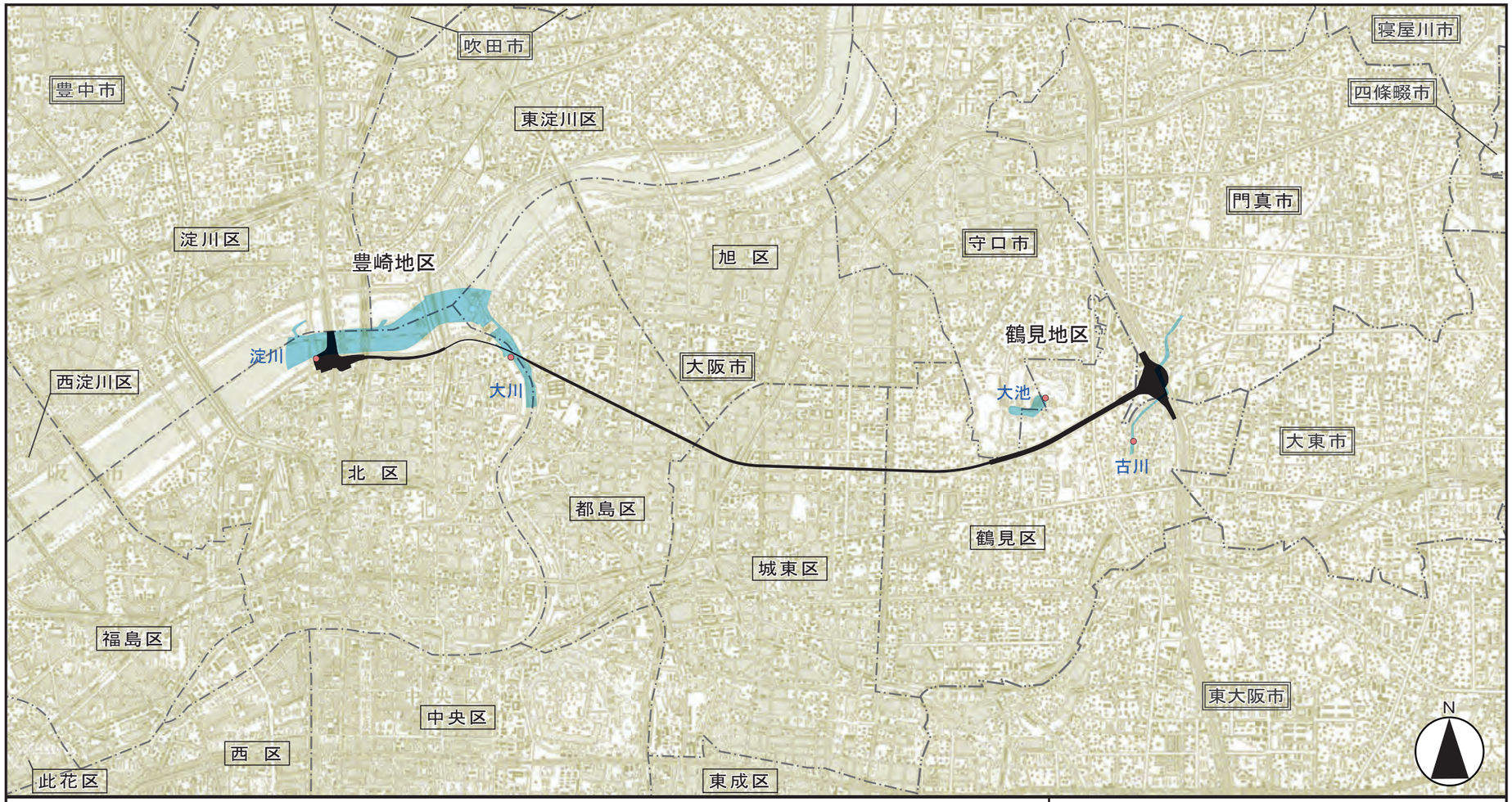
図名	図8-13-7　昆虫類・クモ類調査位置図



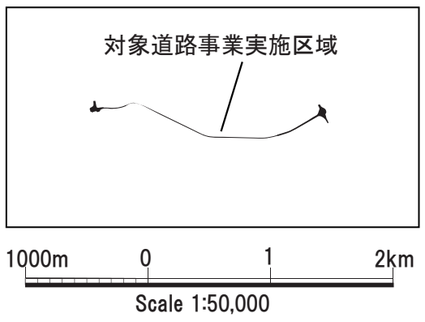
凡　　例		
記 号	名　　称	備 考
.....	踏査ルート	



図名	図8-13-8　陸産貝類調査位置図



凡　　例		
記 号	名　　称	備 考
●	定量調査地点	
▬	調査対象河川	



図名	図8-13-9　底生動物調査位置図

⑤ 調査期間及び時期

調査期間は、平成 24 年 10 月～平成 26 年 9 月までとしました。

調査時期等は、春・夏・秋・冬季を基本とし、調査対象となる動物の生態的な特性を考慮し効率よく確認できる時期としました。

猛禽類については、生態的特性から、より詳細な調査が必要であるため、繁殖期、渡り時期及び越冬期等を考慮して 2 営巣期の調査を実施しました。

各項目の調査時期は、表 8-13-5(1)～(2)に示すとおりです。

表 8-13-5(1)　調査時期

項目	調査手法	調査実施日
哺 乳 類	直接観察、 フィールドサイン法	秋季：平成 24 年 10 月 22～26 日、29 日 冬季：平成 25 年 1 月 21～22 日 春季：平成 25 年 5 月 20～22 日 夏季：平成 25 年 6 月 27～28 日、7 月 1 日
	トラップによる捕獲	秋季：平成 24 年 10 月 22～26 日 冬季：平成 25 年 1 月 23～25 日 春季：平成 25 年 5 月 20～22 日 夏季：平成 25 年 6 月 27～28 日、7 月 1～2 日
鳥　　類	直接観察	秋季：平成 24 年 10 月 15～18 日 冬季：平成 25 年 1 月 23～25 日 春季：平成 25 年 5 月 23～24 日 夏季：平成 25 年 7 月 16～17 日 補足：平成 26 年 8 月 28～29 日※
	ラインセンサス法	秋季：平成 24 年 10 月 16、17 日 冬季：平成 25 年 1 月 23～25 日 春季：平成 25 年 5 月 23～24 日 夏季：平成 25 年 7 月 16～17 日
	定点観察法	秋季：平成 24 年 10 月 16、18 日 冬季：平成 25 年 1 月 23～25 日 春季：平成 25 年 5 月 23～24 日 夏季：平成 25 年 7 月 16～17 日
猛 禽 類	定点観察法	【1 営巣期目】 2 月：平成 25 年 2 月 20～22 日 3 月：平成 25 年 3 月 12～14 日 4 月：平成 25 年 4 月 22～24 日 5 月：平成 25 年 5 月 13～15 日 6 月：平成 25 年 6 月 18～20 日 7 月：平成 25 年 7 月 16～17 日 【2 営巣期目】 1 月：平成 26 年 1 月 21 日～1 月 23 日 2 月：平成 26 年 2 月 12 日～2 月 13 日、27 日 3 月：平成 26 年 3 月 3 日～3 月 4 日、6 日 4 月：平成 26 年 4 月 21 日～4 月 23 日 5 月：平成 26 年 5 月 19 日～21 日 6 月：平成 26 年 6 月 3 日、4 日、6 日、16 日～18 日

※「大阪府レッドリスト 2014」（平成 26 年 3 月、大阪府）の公表に伴い、新たに重要な種とした種を対象とした補足調査。

表 8-13-5(2)　調査時期

項目	調査手法	調査実施日
爬 虫 類	直接観察及び採取	秋季：平成 24 年 10 月 22～26、29 日 春季：平成 25 年 5 月 20～22 日 夏季：平成 25 年 6 月 27～28 日、7 月 1 日
	トラップによる捕獲	秋季：平成 24 年 10 月 22～25 日 春季：平成 25 年 5 月 20～21 日 夏季：平成 25 年 6 月 27～28 日
両 生 類	直接観察及び採取	秋季：平成 24 年 10 月 22～26、29 日 春季：平成 25 年 5 月 20～22 日 夏季：平成 25 年 6 月 27～28 日、7 月 1 日
魚　　類	直接観察及び採取	秋季：平成 24 年 10 月 10～12 日 春季：平成 25 年 5 月 8～10 日、5 月 20 日 夏季：平成 25 年 7 月 10～12 日
	トラップによる捕獲	秋季：平成 24 年 10 月 10～12 日 春季：平成 25 年 5 月 8～10 日、5 月 20 日 夏季：平成 25 年 7 月 10～12 日
昆 虫 類 ・クモ類	直接観察及び採取	秋季：平成 24 年 10 月 22～24 日 春季：平成 25 年 5 月 16～17 日 夏季：平成 25 年 7 月 22～23 日 補足：平成 26 年 8 月 25～26 日※1
	ライトトラップ法	秋季：平成 24 年 10 月 22、24 日 春季：平成 25 年 5 月 16 日 夏季：平成 25 年 7 月 22 日
	ベイトトラップ法	秋季：平成 24 年 10 月 22～23 日 春季：平成 25 年 5 月 16～17 日 夏季：平成 25 年 7 月 22～23 日
陸産貝類	直接観察及び採取	夏季：平成 25 年 6 月 27～28 日、7 月 1 日
底生動物	直接観察及び採取	冬季：平成 25 年 2 月 25～26 日 春季：平成 25 年 5 月 8～10 日、5 月 20 日 補足：平成 26 年 1 月 30 日～1 月 31 日※2 補足：平成 26 年 9 月 16 日※1
	コドラート法	冬季：平成 25 年 2 月 25～26 日 春季：平成 25 年 5 月 8～10 日、5 月 20 日

※1　「大阪府レッドリスト 2014」（平成 26 年 3 月、大阪府）の公表に伴い、新たに重要な種とした種を対象とした補足調査。

※2　重要な種の分布状況の詳細把握のため、実施した補足調査。

(2) 調査の結果

現地調査結果の概要は、表 8-13-6 に示すとおりです。

なお、猛禽類の現地調査結果については鳥類として、底生動物の現地調査結果については水生昆虫類を昆虫類、水生昆虫類以外を底生動物として整理しました。

表 8-13-6 現地調査結果の概要

項目	確認種数	重要な種
哺乳類	4目 6科 7種	カヤネズミ、キツネ、イタチ属の一種の 3 種
鳥類	13目 34科111種	カンムリカイツブリ、ササゴイ、オシドリ、ミサゴ、ハヤブサ、クイナ、コチドリ、ハマシギ、ウミネコ、コミミズク、カワセミ、ヒバリ、ビンズイ、ヒレンジャク、コルリ、オオヨシキリ、キビタキ、サンコウチョウ、ホオアカ等の 56 種
爬虫類	2目 7科 8種	ニホンスッポンの 1 種
両生類	1目 2科 4種	トノサマガエルの 1 種
魚類	7目 14科 35種	ニホンウナギ、シロヒレタビラ、ワタカ、ハス、アユ、ミナミメダカ、シマヒレヨシノボリ、旧トウヨシノボリの 8 種
昆虫類	17目174科620種	キイトトンボ、アオサナエ、コフキトンボ、ウスヒラタゴキブリ、ミスジチョウ、ウスアオリンガ、ハマベミズギワゴミムシ、スジヒラタガムシ、ドウガネブイブイ、ジュウクホシテントウ、モンスズメバチ、キアシハナダカバチモドキ、キバラハキリバチ等の 20 種
クモ類	1目 17科 58種	キシノウエトタテグモ、コガネグモ、カコウコモリグモ、テジロハリゲコモリグモの 4 種
陸産貝類	1目 3科 5種	重要な陸産貝類は確認されなかった
底生動物	10綱23目 39科 69種	ハベカワニナ、クロダカワニナ、カワグチツボ、カワザンショウガイ、ウミゴマツボ、ミズゴマツボ、ドブガイ、トンガリササノハガイ、イシガイ、ヤマトシジミ、ヨツバコツブムシの 11 種

① 哺乳類

a) 哺乳類の生息状況

現地調査の結果、表 8-13-7 に示すとおり、4 目 6 科 7 種の哺乳類が確認されました。

確認された哺乳類は、コウベモグラ、アブラコウモリ、カヤネズミ、ハツカネズミ、ヌートリア、キツネ、チョウセンイタチでした。

表 8-13-7　哺乳類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期			
				H24	H25		
				秋季	冬季	春季	夏季
1	ﾓｸﾞﾗ目	ﾓｸﾞﾗ科	ｺｳﾍﾞﾓｸﾞﾗ		○		
			ﾓｸﾞﾗ属の一種	○			
2	ｺｳﾓﾘ目	ﾋﾅｺｳﾓﾘ科	ｱﾌﾞﾗｺｳﾓﾘ			○	
		－	ｺｳﾓﾘ目の一種	○			
3	ﾈｽﾞﾐ目	ﾈｽﾞﾐ科	ｶﾔﾈｽﾞﾐ	○	○	○	○
4			ﾊﾂｶﾈｽﾞﾐ		○	○	○
5		ﾇｰﾄﾘｱ科	ﾇｰﾄﾘｱ	○	○	○	○
6	ﾈｺ目	ｲﾇ科	ｷﾂﾈ		○		
7		ｲﾀﾁ科	ﾁｮｳｾﾝｲﾀﾁ			○	
			ｲﾀﾁ属の一種	○	○	○	○
合計	4 目	6 科	7 種	5 種	6 種	5 種	4 種

注1）同一種の可能性がある種は、種数をカウントしていません。
注2）分類（目名・科名・種名）は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　平成26年度生物リスト」（国土交通省、平成27年）に準拠しています。

b) 重要な哺乳類

現地調査で確認された種のうち、重要な哺乳類はカヤネズミ、キツネ、イタチ属の一種の 3 種でした。

現地調査で確認された重要な哺乳類を表 8-13-8 に示します。

表 8-13-8　現地調査により確認された重要な哺乳類

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	ﾈｽﾞﾐ目	ﾈｽﾞﾐ科	ｶﾔﾈｽﾞﾐ				準絶
2	ﾈｺ目	ｲﾇ科	ｷﾂﾈ				Ⅰ類
3		ｲﾀﾁ科	ｲﾀﾁ属の一種				Ⅱ類※
合計	2 目	3 科	3 種	0 種	0 種	0 種	3 種

注）選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表8-13-3に示すとおりです。
※イタチのランクを示しています。

② 鳥類

a) 鳥類の生息状況

現地調査の結果、表 8-13-9(1)～(3)に示すとおり、13 目 34 科 111 種※の鳥類が確認されました。

確認された鳥類は、カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、オシドリ、ミサゴ、キジ、クイナ、コチドリ、ドバト、コミミズク、カワセミ、コゲラ、ヒバリ等でした。

※猛禽類の現地調査結果を含む

表 8-13-9(1)　鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期						
				H24	H25			H26		
				秋季	冬季	春季	夏季	冬季	春季	夏季
1	ｶｲﾂﾌﾞﾘ目	ｶｲﾂﾌﾞﾘ科	ｶｲﾂﾌﾞﾘ	○	○	○		○	○	○
2			ｶﾝﾑﾘｶｲﾂﾌﾞﾘ	○	○	○	○	○	○	
3	ﾍﾟﾘｶﾝ目	ｳ科	ｶﾜｳ	○	○	○	○	○	○	○
4	ｺｳﾉﾄﾘ目	ｻｷﾞ科	ｺﾞｲｻｷﾞ	○		○	○	○		
5			ｻｻｺﾞｲ			○	○		○	○
6			ｱﾏｻｷﾞ			○			○	○
7			ﾀﾞｲｻｷﾞ	○	○	○	○	○	○	○
8			ﾁｭｳｻｷﾞ			○			○	○
9			ｺｻｷﾞ	○	○	○	○	○	○	○
10			ｱｵｻｷﾞ	○	○	○	○	○	○	○
11	ｶﾓ目	ｶﾓ科	ｵｼﾄﾞﾘ						○	
12			ﾏｶﾞﾓ	○	○	○	○	○	○	
			ｱﾋﾙ※	○		○	○			
13			ｶﾙｶﾞﾓ	○	○	○	○	○	○	○
14			ｺｶﾞﾓ	○	○	○		○	○	
15			ﾖｼｶﾞﾓ		○	○		○	○	
16			ｵｶﾖｼｶﾞﾓ		○			○	○	
17			ﾋﾄﾞﾘｶﾞﾓ	○	○	○		○	○	
18			ｱﾒﾘｶﾋﾄﾞﾘ					○		
19			ｵﾅｶﾞｶﾞﾓ	○	○	○		○	○	
20			ﾊｼﾋﾞﾛｶﾞﾓ			○				
21			ﾎｼﾊｼﾞﾛ		○	○	○	○	○	○
22			ｷﾝｸﾛﾊｼﾞﾛ		○	○	○	○	○	○
23			ｽｽﾞｶﾞﾓ		○			○		
24			ﾎｵｼﾞﾛｶﾞﾓ		○			○		
25			ﾐｺｱｲｻ		○					
26	ﾀｶ目	ﾀｶ科	ﾐｻｺﾞ	○	○	○		○	○	
27			ﾄﾋﾞ			○		○	○	○
28			ｵｵﾀｶ	○	○	○		○	○	
29			ﾊｲﾀｶ		○			○	○	
30			ﾉｽﾘ					○	○	
31			ﾁｭｳﾋ		○	○		○	○	
32		ﾊﾔﾌﾞｻ科	ﾊﾔﾌﾞｻ	○	○	○	○	○	○	○
33			ﾁｮｳｹﾞﾝﾎﾞｳ	○	○	○	○	○	○	○
34	ｷｼﾞ目	ｷｼﾞ科	ｷｼﾞ						○	

※ アヒルはマガモの品種であり、種数をカウントしていません。

注）分類（目名・科名・種名）は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　平成26年度生物リスト」（国土交通省、平成27年）に準拠しています。

表 8-13-9(2)　鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期						
				H24	H25			H26		
				秋季	冬季	春季	夏季	冬季	春季	夏季
35	ﾂﾙ目	ｸｲﾅ科	ｸｲﾅ						○	
36			ﾋｸｲﾅ			○				
37			ﾊﾞﾝ	○	○	○		○	○	
38			ｵｵﾊﾞﾝ		○	○		○	○	
39	ﾁﾄﾞﾘ目	ﾁﾄﾞﾘ科	ｺﾁﾄﾞﾘ			○			○	
40			ｲｶﾙﾁﾄﾞﾘ				○			
41			ｼﾛﾁﾄﾞﾘ		○	○		○	○	
42			ｹﾘ		○	○	○	○	○	○
43		ｼｷﾞ科	ﾊﾏｼｷﾞ			○				
44			ﾂﾙｼｷﾞ	○						
45			ｱｵｱｼｼｷﾞ			○				
46			ｷｱｼｼｷﾞ			○			○	
47			ｲｿｼｷﾞ	○	○	○	○	○	○	○
48			ｿﾘﾊｼｼｷﾞ			○				
49			ﾁｭｳｼｬｸｼｷﾞ			○				
50		ｶﾓﾒ科	ﾕﾘｶﾓﾒ	○	○	○		○	○	
51			ｾｸﾞﾛｶﾓﾒ	○	○	○		○	○	○
52			ｵｵｾｸﾞﾛｶﾓﾒ		○	○		○		
53			ｶﾓﾒ		○	○		○	○	
54			ｳﾐﾈｺ		○		○			
55			ｺｱｼﾞｻｼ			○	○		○	○
56	ﾊﾄ目	ﾊﾄ科	ﾄﾞﾊﾞﾄ	○	○	○	○	○	○	○
57			ｷｼﾞﾊﾞﾄ	○	○	○	○	○	○	○
58			ｱｵﾊﾞﾄ					○	○	
59	ﾌｸﾛｳ目	ﾌｸﾛｳ科	ｺﾐﾐｽﾞｸ		○					
60	ﾌﾞｯﾎﾟｳｿｳ目	ｶﾜｾﾐ科	ｶﾜｾﾐ	○	○	○	○			○
61	ｷﾂﾂｷ目	ｷﾂﾂｷ科	ｺｹﾞﾗ	○	○	○	○	○	○	○
62	ｽｽﾞﾒ目	ﾋﾊﾞﾘ科	ﾋﾊﾞﾘ	○	○	○	○	○	○	○
63		ﾂﾊﾞﾒ科	ﾂﾊﾞﾒ			○	○		○	○
64		ｾｷﾚｲ科	ｷｾｷﾚｲ	○						
65			ﾊｸｾｷﾚｲ	○	○	○	○	○	○	○
66			ｾｸﾞﾛｾｷﾚｲ	○	○	○	○	○	○	○
67			ﾋﾞﾝｽﾞｲ		○					
68		ﾋﾖﾄﾞﾘ科	ﾋﾖﾄﾞﾘ	○	○	○	○	○	○	○
69		ﾓｽﾞ科	ﾓｽﾞ	○	○	○		○	○	
70		ﾚﾝｼﾞｬｸ科	ﾋﾚﾝｼﾞｬｸ		○					
71		ﾂｸﾞﾐ科	ｺﾙﾘ							○
72			ﾙﾘﾋﾞﾀｷ		○					
73			ｼﾞｮｳﾋﾞﾀｷ		○	○		○	○	
74			ﾉﾋﾞﾀｷ	○						
75			ｲｿﾋﾖﾄﾞﾘ	○	○			○	○	○
76			ｼﾛﾊﾗ		○	○		○		
77			ﾂｸﾞﾐ		○	○		○	○	

注）　分類（目名・科名・種名）は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　平成26年度生物リスト」（国土交通省、平成27年）に準拠しています。

表 8-13-9(3)　鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期						
				H24	H25			H26		
				秋季	冬季	春季	夏季	冬季	春季	夏季
78	(ｽｽﾞﾒ目)	ｳｸﾞｲｽ科	ｳｸﾞｲｽ	○	○	○		○	○	
79			ｵｵﾖｼｷﾘ			○	○		○	○
80			ﾒﾎﾞｿﾑｼｸｲ	○		○				
81			ｴｿﾞﾑｼｸｲ	○						○
82			ｾﾝﾀﾞｲﾑｼｸｲ	○						○
83			ｷｸｲﾀﾀﾞｷ		○					
84			ｾｯｶ		○	○	○	○	○	○
85		ﾋﾀｷ科	ｷﾋﾞﾀｷ	○		○				
86			ｵｵﾙﾘ	○		○			○	
87			ｻﾒﾋﾞﾀｷ	○						
88			ｴｿﾞﾋﾞﾀｷ	○						○
89			ｺｻﾒﾋﾞﾀｷ	○						
90		ｶｻｻｷﾞﾋﾀｷ科	ｻﾝｺｳﾁｮｳ			○				
91		ｴﾅｶﾞ科	ｴﾅｶﾞ	○	○	○		○		○
92		ﾂﾘｽｶﾞﾗ科	ﾂﾘｽｶﾞﾗ		○					
93		ｼｼﾞｭｳｶﾗ科	ﾋｶﾞﾗ		○					
94			ﾔﾏｶﾞﾗ	○	○					○
95			ｼｼﾞｭｳｶﾗ	○	○	○	○	○	○	○
96		ﾒｼﾞﾛ科	ﾒｼﾞﾛ	○	○	○	○	○	○	○
97		ﾎｵｼﾞﾛ科	ﾎｵｼﾞﾛ		○	○		○	○	
98			ﾎｵｱｶ		○					
99			ｶｼﾗﾀﾞｶ						○	
100			ｱｵｼﾞ		○	○		○	○	
101			ｵｵｼﾞｭﾘﾝ		○	○		○	○	
102		ｱﾄﾘ科	ｶﾜﾗﾋﾜ	○	○	○	○	○	○	○
103			ﾏﾋﾜ		○					
104			ﾍﾞﾆﾏｼｺ		○					
105			ｲｶﾙ			○				
106			ｼﾒ		○					
107		ﾊﾀｵﾘﾄﾞﾘ科	ｽｽﾞﾒ	○	○	○	○	○	○	○
108		ﾑｸﾄﾞﾘ科	ﾑｸﾄﾞﾘ	○	○	○	○	○	○	○
109			ﾊｯｶﾁｮｳ	○	○	○	○	○	○	○
110		ｶﾗｽ科	ﾊｼﾎﾞｿｶﾞﾗｽ	○	○	○	○	○	○	○
111			ﾊｼﾌﾞﾄｶﾞﾗｽ	○	○	○	○	○	○	○
合計	13目	34科	111種	52種	73種	75種	37種	63種	69種	44種

注)　分類（目名・科名・種名）は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　平成26年度生物リスト」（国土交通省、平成27年）に準拠しています。

b) 重要な鳥類

現地調査で確認された種のうち、重要な鳥類はカンムリカイツブリ、ササゴイ等 56 種でした。

現地調査で確認された重要な鳥類を表 8-13-10(1)～(2)に示します。

表 8-13-10 (1)　現地調査により確認された重要な鳥類

No.	目名	科名	種名	重要種の選定基準				
				①	②	③	④	⑤
1	ｶｲﾂﾌﾞﾘ目	ｶｲﾂﾌﾞﾘ科	ｶﾝﾑﾘｶｲﾂﾌﾞﾘ					繁殖3
2	ｺｳﾉﾄﾘ目	ｻｷﾞ科	ｻｻｺﾞｲ					繁殖3
3			ｱﾏｻｷﾞ				Ⅱ類	
4			ﾁｭｳｻｷﾞ			NT		繁殖3
5	ｶﾓ目	ｶﾓ科	ｵｼﾄﾞﾘ			DD		繁殖3
6			ﾏｶﾞﾓ					繁殖3
7			ﾖｼｶﾞﾓ					越冬3
8			ｱﾒﾘｶﾋﾄﾞﾘ					越冬3
9			ﾎｵｼﾞﾛｶﾞﾓ					越冬3
10			ﾐｺｱｲｻ					越冬3
11	ﾀｶ目	ﾀｶ科	ﾐｻｺﾞ			NT		繁殖2
12			ｵｵﾀｶ		国内	NT	準絶	繁殖3
13			ﾊｲﾀｶ			NT		繁殖4
14			ﾉｽﾘ				準絶	越冬3
15			ﾁｭｳﾋ			EN	Ⅰ類	繁殖1
16		ﾊﾔﾌﾞｻ科	ﾊﾔﾌﾞｻ		国内	VU		繁殖3
17			ﾁｮｳｹﾞﾝﾎﾞｳ					越冬3
18	ﾂﾙ目	ｸｲﾅ科	ｸｲﾅ				準絶	越冬2
19			ﾋｸｲﾅ			NT	Ⅱ類	繁殖2
20			ｵｵﾊﾞﾝ					繁殖3
21	ﾁﾄﾞﾘ目	ﾁﾄﾞﾘ科	ｺﾁﾄﾞﾘ				準絶	繁殖3
22			ｲｶﾙﾁﾄﾞﾘ				Ⅱ類	繁殖3
23			ｼﾛﾁﾄﾞﾘ			VU	Ⅱ類	繁殖3
24			ｹﾘ			DD	準絶	
25		ｼｷﾞ科	ﾊﾏｼｷﾞ			NT		越冬3
26			ﾂﾙｼｷﾞ			VU	Ⅱ類	通過3
27			ｱｵｱｼｼｷﾞ				Ⅱ類	通過3
28			ｷｱｼｼｷﾞ				準絶	通過3
29			ｲｿｼｷﾞ				準絶	繁殖2
30			ｿﾘﾊｼｼｷﾞ				Ⅱ類	通過3
31			ﾁｭｳｼｬｸｼｷﾞ				準絶	通過3
32		ｶﾓﾒ科	ｳﾐﾈｺ					繁殖4
33			ｺｱｼﾞｻｼ		国際	VU	Ⅰ類	繁殖2
34	ﾌｸﾛｳ目	ﾌｸﾛｳ科	ｺﾐﾐｽﾞｸ				Ⅱ類	越冬2
35	ﾌﾞｯﾎﾟｳｿｳ目	ｶﾜｾﾐ科	ｶﾜｾﾐ					繁殖3
36	ｽｽﾞﾒ目	ﾋﾊﾞﾘ科	ﾋﾊﾞﾘ				準絶	
37		ｾｷﾚｲ科	ﾋﾞﾝｽﾞｲ					繁殖4
38		ﾚﾝｼﾞｬｸ科	ﾋﾚﾝｼﾞｬｸ					越冬4

注）選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表8-13-3に示すとおりです。

表 8-13-10(2)　現地調査により確認された重要な鳥類

No.	目名	科名	種名	重要種の選定基準				
				①	②	③	④	⑤
39	(ｽｽﾞﾒ目)	ﾂｸﾞﾐ科	ｺﾙﾘ					繁殖3
40			ﾙﾘﾋﾞﾀｷ					繁殖3
41			ﾉﾋﾞﾀｷ					繁殖3
42		ｳｸﾞｲｽ科	ｵｵﾖｼｷﾘ				準絶	繁殖3
43			ﾒﾎﾞｿﾑｼｸｲ					繁殖3
44			ｴｿﾞﾑｼｸｲ					繁殖3
45			ｾﾝﾀﾞｲﾑｼｸｲ				準絶	繁殖3
46			ｷｸｲﾀﾀﾞｷ					越冬3
47			ｾｯｶ				準絶	
48		ﾋﾀｷ科	ｷﾋﾞﾀｷ					繁殖3
49			ｵｵﾙﾘ					繁殖3
50			ｴｿﾞﾋﾞﾀｷ					通過3
51			ｺｻﾒﾋﾞﾀｷ				Ⅱ類	
52		ｶｻｻｷﾞﾋﾀｷ科	ｻﾝｺｳﾁｮｳ					繁殖3
53		ﾎｵｼﾞﾛ科	ﾎｵｱｶ				準絶	繁殖3
54			ｶｼﾗﾀﾞｶ				準絶	
55			ｱｵｼﾞ					繁殖3
56			ｵｵｼﾞｭﾘﾝ				準絶	
合計	9目	19科	56種	0種	3種	13種	26種	49種

注）選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表8-13-3に示すとおりです。

③ 爬虫類

a) 爬虫類の生息状況

現地調査の結果、表 8-13-11 に示すとおり、2 目 7 科 8 種の爬虫類が確認されました。

確認された爬虫類は、クサガメ、アカミミガメ、ニホンスッポン、ニホンヤモリ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウでした。

表 8-13-11　爬虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期		
				H24	H25	
				秋季	春季	夏季
1	ｶﾒ目	ｲｼｶﾞﾒ科	ｸｻｶﾞﾒ	○	○	○
2		ﾇﾏｶﾞﾒ科	ｱｶﾐﾐｶﾞﾒ	○	○	○
3		ｽｯﾎﾟﾝ科	ﾆﾎﾝｽｯﾎﾟﾝ		○	○
		－	ｶﾒ目の一種	○		
4	有鱗目	ﾔﾓﾘ科	ﾆﾎﾝﾔﾓﾘ	○	○	○
5		ﾄｶｹﾞ科	ﾆﾎﾝﾄｶｹﾞ		○	○
6		ｶﾅﾍﾋﾞ科	ﾆﾎﾝｶﾅﾍﾋﾞ	○	○	○
7		ﾅﾐﾍﾋﾞ科	ｼﾏﾍﾋﾞ		○	○
8			ｱｵﾀﾞｲｼｮｳ			○
			ﾅﾐﾍﾋﾞ科の一種	○		
合計	2 目	7 科	8 種	5 種	7 種	8 種

注1）同一種の可能性がある種は、種数をカウントしていません。
注2）分類（目名・科名・種名）は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　平成26年度生物リスト」（国土交通省、平成27年）に準拠しています。

b) 重要な爬虫類

現地調査で確認された種のうち、重要な爬虫類は、ニホンスッポンの 1 種です。

現地調査で確認された重要な爬虫類を表 8-13-12 に示します。

表 8-13-12　現地調査により確認された重要な爬虫類

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	ｶﾒ目	ｽｯﾎﾟﾝ科	ﾆﾎﾝｽｯﾎﾟﾝ			DD	
合計	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	1 種	0 種

注）選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表8-13-3に示すとおりです。

④ 両生類

a) 両生類の生息状況

現地調査の結果、表 8-13-13 に示すとおり、1 目 2 科 4 種の両生類が確認されました。

確認された両生類は、ニホンアマガエル、トノサマガエル、ウシガエル、ヌマガエルでした。

表 8-13-13　両生類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期		
				H24	H25	
				秋季	春季	夏季
1	無尾目	ｱﾏｶﾞｴﾙ科	ﾆﾎﾝｱﾏｶﾞｴﾙ		○	○
2		ｱｶｶﾞｴﾙ科	ﾄﾉｻﾏｶﾞｴﾙ	○	○	○
3			ｳｼｶﾞｴﾙ	○	○	○
4			ﾇﾏｶﾞｴﾙ	○	○	○
合計	1 目	2 科	4 種	3 種	4 種	4 種

注）分類（目名・科名・種名）は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　平成26年度生物リスト」（国土交通省、平成27年）に準拠しています。

b) 重要な両生類

現地調査で確認された種のうち、重要な両生類はトノサマガエルの 1 種でした。

現地調査で確認された重要な両生類を表 8-13-14 に示します。

表 8-13-14　現地調査により確認された重要な両生類

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	無尾目	ｱｶｶﾞｴﾙ科	ﾄﾉｻﾏｶﾞｴﾙ			NT	準絶
合計	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	1 種	1 種

注）選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表8-13-3に示しています。

⑤ 魚類

a) 魚類の生息状況

現地調査の結果、表 8-13-15(1)～(2)に示すとおり、7 目 14 科 35 種の魚類が確認されました。

確認された魚類は、ニホンウナギ、コノシロ、オイカワ、アユ、カダヤシ、ミナミメダカ、スズキ、コトヒキ、ブルーギル、ヒイラギ、クロダイ、ボラ、カワアナゴ等でした。

表 8-13-15(1)　魚類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期		
				H24	H25	
				秋季	春季	夏季
1	ｳﾅｷﾞ目	ｳﾅｷﾞ科	ﾆﾎﾝｳﾅｷﾞ		○	
2	ﾆｼﾝ目	ﾆｼﾝ科	ｺﾉｼﾛ		○	
3	ｺｲ目	ｺｲ科	ｺｲ		○	○
			ｷﾝｷﾞｮ※		○	
4			ｷﾞﾝﾌﾞﾅ	○		
			ﾌﾅ属の一種		○	
5			ｼﾛﾋﾚﾀﾋﾞﾗ			○
6			ﾜﾀｶ			○
7			ﾊｽ	○		
8			ｵｲｶﾜ	○	○	○
9			ﾓﾂｺﾞ	○	○	○
10			ﾋﾞﾜﾋｶﾞｲ			○
11			ｶﾏﾂｶ			○
12			ｺｳﾗｲﾆｺﾞｲ	○	○	
			ﾆｺﾞｲ属の一種			○
13			ｺｳﾗｲﾓﾛｺ	○	○	○
14	ｻｹ目	ｱﾕ科	ｱﾕ		○	
15	ｶﾀﾞﾔｼ目	ｶﾀﾞﾔｼ科	ｶﾀﾞﾔｼ	○	○	○
16	ﾀﾞﾂ目	ﾒﾀﾞｶ科	ﾐﾅﾐﾒﾀﾞｶ	○	○	○
17	ｽｽﾞｷ目	ｽｽﾞｷ科	ｽｽﾞｷ	○	○	○
18		ｼﾏｲｻｷ科	ｺﾄﾋｷ	○		○
19			ｼﾏｲｻｷ	○		○
20		ｻﾝﾌｨｯｼｭ科	ﾌﾞﾙｰｷﾞﾙ	○	○	○
21			ｵｵｸﾁﾊﾞｽ		○	○
22		ﾋｲﾗｷﾞ科	ﾋｲﾗｷﾞ		○	
23		ﾀｲ科	ｸﾛﾀﾞｲ		○	○
24		ﾎﾞﾗ科	ﾎﾞﾗ	○	○	○
25			ﾒﾅﾀﾞ	○		
26		ｶﾜｱﾅｺﾞ科	ｶﾜｱﾅｺﾞ		○	○
27		ﾊｾﾞ科	ｳﾛﾊｾﾞ	○	○	○
28			ﾏﾊｾﾞ	○	○	○
29			ﾋﾒﾊｾﾞ		○	
30			ﾋﾅﾊｾﾞ	○	○	
31			ｱﾍﾞﾊｾﾞ	○	○	○

※ キンギョはフナの品種であり、種数をカウントしていません。

注1) 同一種の可能性がある種は、種数をカウントしていません。

注2) 分類（目名・科名・種名）は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　平成26年度生物リスト」（国土交通省、平成27年）に準拠しています。

表 8-13-15(2)　魚類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期		
				H24	H25	
				秋季	春季	夏季
32	(ｽｽﾞｷ目)	(ﾊｾﾞ科)	ｺﾞｸﾗｸﾊｾﾞ		○	
33			ｼﾏﾋﾚﾖｼﾉﾎﾞﾘ	○	○	
			旧ﾄｳﾖｼﾉﾎﾞﾘ			○
34			ﾇﾏﾁﾁﾌﾞ		○	
35			ﾁﾁﾌﾞ	○	○	○
			ﾁﾁﾌﾞ属の一種		○	
合計	7 目	14 科	35 種	20 種	27 種	24 種

注1) 同一種の可能性がある種は、種数をカウントしていません。
注2) 分類（目名・科名・種名）は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　平成26年度生物リスト」（国土交通省、平成27年）に準拠しています。

b) 重要な魚類

現地調査で確認された種のうち、重要な魚類は、ニホンウナギ、シロヒレタビラ、ワタカ、ハス、アユ、ミナミメダカ、シマヒレヨシノボリ、旧トウヨシノボリの 8 種です。

現地調査で確認された重要な魚類を表 8-13-16 に示します。

表 8-13-16　現地調査により確認された重要な魚類

No.	目名	科名	種名	重要種の選定基準			
				①	②	③	④
1	ｳﾅｷﾞ目	ｳﾅｷﾞ科	ﾆﾎﾝｳﾅｷﾞ			EN	Ⅱ類
2	ｺｲ目	ｺｲ科	ｼﾛﾋﾚﾀﾋﾞﾗ			EN	Ⅰ類
3			ﾜﾀｶ			CR	Ⅰ類
4			ﾊｽ			VU	準絶
5	ｻｹ目	ｱﾕ科	ｱﾕ				準絶
6	ﾀﾞﾂ目	ﾒﾀﾞｶ科	ﾐﾅﾐﾒﾀﾞｶ			VU	Ⅱ類
7	ｽｽﾞｷ目	ﾊｾﾞ科	ｼﾏﾋﾚﾖｼﾉﾎﾞﾘ			NT	準絶
8			旧ﾄｳﾖｼﾉﾎﾞﾘ				不足※
合計	5 目	5 科	8 種	0 種	0 種	6 種	8 種

注）選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表8-13-3に示しています。
※トウヨシノボリのランクを示しています。未熟個体のため同定が困難であったため、型不明の旧トウヨシノボリとしました。

⑥ 昆虫類

a) 昆虫類の生息状況

現地調査の結果、表8-13-17に示すとおり、17目174科620種の昆虫類※が確認されました。

確認された昆虫類は、シリナガマダラカゲロウ、アオモンイトトンボ、モリチャバネゴキブリ、ハラビロカマキリ、ハマベハサミムシ、ツユムシ、ヒメチャタテ、アワダチソウグンバイ、ヨツボシクサカゲロウ、コガタシマトビケラ、ツバメシジミ、ルリミズアブ、アトワアオゴミムシ、ウメマツオオアリ等でした。

※底生動物の現地調査で確認された昆虫類を含む

表 8-13-17　昆虫類確認種数一覧

No.	目名	科数	種数	調査時期						
				H24	H25			H26		
				秋季	冬季	春季	夏季	冬季	夏季	秋季
1	ﾄﾋﾞﾑｼ目	2	2	2						
2	ｶｹﾞﾛｳ目	4	4		4	1				
3	ﾄﾝﾎﾞ目	7	29	4	5	16	16		13	2
4	ｺﾞｷﾌﾞﾘ目	2	4	3		1	1			
5	ｶﾏｷﾘ目	1	4	3			1			
6	ｼﾛｱﾘ目	1	1			1				
7	ﾊｻﾐﾑｼ目	2	3	3		1	2			
8	ｶﾜｹﾞﾗ目	2	2		2					
9	ﾊﾞｯﾀ目	12	42	37		4	18		10	
10	ﾁｬﾀﾃﾑｼ目	2	2	1			1			
11	ｶﾒﾑｼ目	31	110	51	1	49	63	1	11	1
12	ｱﾐﾒｶｹﾞﾛｳ目	2	6	1		5	1			
13	ﾄﾋﾞｹﾗ目	2	3		1	2			1	
14	ﾁｮｳ目	20	72	38		29	30		17	
15	ﾊｴ目	27	70	35	18	30	12		2	
16	ｺｳﾁｭｳ目	35	189	60		108	89		6	
17	ﾊﾁ目	22	77	36		33	46		8	
合計	17 目	174 科	620 種	115 科 274 種	14 科 31 種	99 科 280 種	103 科 280 種	1 科 1 種	34 科 68 種	3 科 3 種

注1）分類（目名）は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　平成26年度生物リスト」（国土交通省、平成27年）に準拠しています。

注2）調査時期の数値は、種数を示しています。

b） 重要な昆虫類

現地調査で確認された種のうち、重要な昆虫類は、キイトトンボ、ホンサナエ等 20 種です。

現地調査で確認された重要な昆虫類を表 8-13-18 に示します。

表 8-13-18　現地調査により確認された重要な昆虫類

No.	目名	科名	種名	重要種の選定基準			
				①	②	③	④
1	ﾄﾝﾎﾞ目(蜻蛉目)	ｲﾄﾄﾝﾎﾞ科	ｷｲﾄﾄﾝﾎﾞ				準絶
2			ｾｽｼﾞｲﾄﾄﾝﾎﾞ				準絶
3		ｻﾅｴﾄﾝﾎﾞ科	ｱｵｻﾅｴ				準絶
4			ﾎﾝｻﾅｴ				Ⅱ類
5			ｳﾁﾜﾔﾝﾏ				準絶
6			ｵｵｻｶｻﾅｴ			VU	Ⅱ類
7		ﾄﾝﾎﾞ科	ｺﾌｷﾄﾝﾎﾞ				準絶
8			ﾖﾂﾎﾞｼﾄﾝﾎﾞ				準絶
9			ｱｷｱｶﾈ				準絶
10			ﾉｼﾒﾄﾝﾎﾞ				準絶
11	ｺﾞｷﾌﾞﾘ目	ﾁｬﾊﾞﾈｺﾞｷﾌﾞﾘ科	ｳｽﾋﾗﾀｺﾞｷﾌﾞﾘ				不足
12	ﾁｮｳ目(鱗翅目)	ﾀﾃﾊﾁｮｳ科	ﾐｽｼﾞﾁｮｳ				準絶
13		ｺﾌﾞｶﾞ科	ｳｽｱｵﾘﾝｶﾞ				準絶
14	ｺｳﾁｭｳ目(鞘翅目)	ｵｻﾑｼ科	ﾊﾏﾍﾞﾐｽﾞｷﾞﾜｺﾞﾐﾑｼ				準絶
15		ｶﾞﾑｼ科	ｽｼﾞﾋﾗﾀｶﾞﾑｼ			NT	準絶
16		ｺｶﾞﾈﾑｼ科	ﾄﾞｳｶﾞﾈﾌﾞｲﾌﾞｲ				準絶
17		ﾃﾝﾄｳﾑｼ科	ｼﾞｭｳｸﾎｼﾃﾝﾄｳ				準絶
18	ﾊﾁ目(膜翅目)	ｽｽﾞﾒﾊﾞﾁ科	ﾓﾝｽｽﾞﾒﾊﾞﾁ			DD	
19		ﾄﾞﾛﾊﾞﾁﾓﾄﾞｷ科	ｷｱｼﾊﾅﾀﾞｶﾊﾞﾁﾓﾄﾞｷ			VU	
20		ﾊｷﾘﾊﾞﾁ科	ｷﾊﾞﾗﾊｷﾘﾊﾞﾁ			NT	
合計	5 目	13 科	20 種	0 種	0 種	5 種	17 種

注）選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表8-13-3に示すとおりです。

⑦ クモ類

a) クモ類の生息状況

現地調査の結果、表 8-13-19(1)～(2)に示すとおり、1 目 17 科 58 種のクモ類が確認されました。

確認されたクモ類は、キシノウエトタテグモ、ニホンヒメグモ、ニセアカムネグモ、チュウガタシロカネグモ、コガネグモ、ハラクロコモリグモ、アズマキシダグモ、ササグモ、シボグモ、コクサグモ、アシハグモ、シモフリヤチグモ、カバキコマチグモ、ヒゲナガツヤグモ、キンイロエビグモ、ハナグモ、ヤサアリグモ等でした。

表 8-13-19(1)　クモ類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期			
				H24	H25		H26
				秋季	春季	夏季	夏季
1	ｸﾓ目	ﾄﾀﾃｸﾞﾓ科	ｷｼﾉｳｴﾄﾀﾃｸﾞﾓ	○			
2		ﾋﾒｸﾞﾓ科	ﾆﾎﾝﾋﾒｸﾞﾓ			○	
3			ｵｵﾋﾒｸﾞﾓ		○		
4			ﾏﾀﾞﾗﾋﾒｸﾞﾓ		○		
5		ｻﾗｸﾞﾓ科	ﾆｾｱｶﾑﾈｸﾞﾓ		○		
6		ｱｼﾅｶﾞｸﾞﾓ科	ﾁｭｳｶﾞﾀｼﾛｶﾈｸﾞﾓ		○	○	
7			ｼﾞｮﾛｳｸﾞﾓ	○		○	
8			ﾋﾒｱｼﾅｶﾞｸﾞﾓ			○	
9			ﾄｶﾞﾘｱｼﾅｶﾞｸﾞﾓ	○	○		
10			ﾔｻｶﾞﾀｱｼﾅｶﾞｸﾞﾓ		○	○	
11			ﾋｶﾘｱｼﾅｶﾞｸﾞﾓ		○	○	
12			ｱｼﾅｶﾞｸﾞﾓ		○	○	
13			ｳﾛｺｱｼﾅｶﾞｸﾞﾓ		○	○	
			Tetragnatha 属の一種	○			
			ｱｼﾅｶﾞｸﾞﾓ科の一種	○			
14		ｺｶﾞﾈｸﾞﾓ科	Araneus 属の一種	○			
15			ｺｶﾞﾈｸﾞﾓ		○		
16			ﾅｶﾞｺｶﾞﾈｸﾞﾓ				○
17			ﾖﾂﾎﾞｼｼｮｳｼﾞｮｳｸﾞﾓ		○	○	
18			ｺｶﾞﾈｸﾞﾓﾀﾞﾏｼ	○			
19			ｾｷｸﾞﾁｺｶﾞﾈｸﾞﾓﾀﾞﾏｼ			○	
			ｺｶﾞﾈｸﾞﾓ科の一種	○			
20		ｺﾓﾘｸﾞﾓ科	ﾊﾗｸﾛｺﾓﾘｸﾞﾓ	○	○	○	
21			ｳﾂﾞｷｺﾓﾘｸﾞﾓ		○	○	○
22			ｶｺｳｺﾓﾘｸﾞﾓ		○		
23			ｷｸﾂﾞｷｺﾓﾘｸﾞﾓ		○		
24			ﾃｼﾞﾛﾊﾘｹﾞｺﾓﾘｸﾞﾓ		○		
25			ｱﾗｲﾄｺﾓﾘｸﾞﾓ	○			
			ｺﾓﾘｸﾞﾓ科の一種	○			
26		ｷｼﾀﾞｸﾞﾓ科	ｱｽﾞﾏｷｼﾀﾞｸﾞﾓ	○			
27		ｻｻｸﾞﾓ科	ｻｻｸﾞﾓ	○		○	
28		ｼﾎﾞｸﾞﾓ科	ｼﾎﾞｸﾞﾓ		○		
29		ﾀﾅｸﾞﾓ科	ｸｻｸﾞﾓ		○		
30			ｺｸｻｸﾞﾓ			○	

注)　分類（目名・科名・種名）は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　平成26年度生物リスト」（国土交通省、平成27年）に準拠しています。

表 8-13-19(2)　クモ類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期			
				H24	H25		H26
				秋季	春季	夏季	夏季
31	(ｸﾓ目)	ﾊｸﾞﾓ科	ｱｼﾊｸﾞﾓ		○		
32		ｶﾞｹｼﾞｸﾞﾓ科	ｼﾓﾌﾘﾔﾁｸﾞﾓ	○	○		
33		ﾌｸﾛｸﾞﾓ科	ｶﾊﾞｷｺﾏﾁｸﾞﾓ	○			
34			ｺﾌｸﾛｸﾞﾓ		○	○	
35			ﾏﾀﾞﾗﾌｸﾛｸﾞﾓ		○		
36			ﾊﾏｷﾌｸﾛｸﾞﾓ		○	○	
37			ｶｷﾞﾌｸﾛｸﾞﾓ			○	
			ﾌｸﾛｸﾞﾓ科の一種	○			
38		ﾜｼｸﾞﾓ科	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾂﾔｸﾞﾓ		○		
39		ｴﾋﾞｸﾞﾓ科	ｷﾝｲﾛｴﾋﾞｸﾞﾓ		○		
40			ﾔﾄﾞｶﾘｸﾞﾓ		○		
41		ｶﾆｸﾞﾓ科	ｺﾊﾅｸﾞﾓ	○	○		
42			ﾊﾅｸﾞﾓ	○	○	○	
43			ｱｽﾞﾁｸﾞﾓ			○	
44			ﾄﾗﾌｶﾆｸﾞﾓ		○		
45			ｱｽﾞﾏｶﾆｸﾞﾓ			○	
46			ﾖｺﾌｶﾆｸﾞﾓ			○	
			Xysticus 属の一種	○			
			ｶﾆｸﾞﾓ科の一種	○			
47		ﾊｴﾄﾘｸﾞﾓ科	ﾈｺﾊｴﾄﾘ	○	○		
48			ﾏﾐｼﾞﾛﾊｴﾄﾘ	○	○		
49			ﾁｸﾆﾊｴﾄﾘ		○	○	
50			ｵｽｸﾛﾊｴﾄﾘ	○	○	○	
51			ﾔﾊｽﾞﾊｴﾄﾘ	○	○	○	
52			ﾔｻｱﾘｸﾞﾓ	○	○	○	
53			ｱﾘｸﾞﾓ	○			
54			ﾒｶﾞﾈｱｻﾋﾊｴﾄﾘ			○	
55			ﾐｽｼﾞﾊｴﾄﾘ		○		
56			ｲﾅﾂﾞﾏﾊｴﾄﾘ		○		
57			ｱｵｵﾋﾞﾊｴﾄﾘ		○		
58			ｼﾗﾎｼｺｹﾞﾁｬﾊｴﾄﾘ			○	
			ﾊｴﾄﾘｸﾞﾓ科の一種	○			
合計	1 目	17 科	58 種	20 種	38 種	27 種	2 種

注1) 同一種の可能性がある種は、種数をカウントしていません。
注2) 分類（目名・科名・種名）は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　平成26年度生物リスト」（国土交通省、平成27年）に準拠しています。

b） 重要なクモ類

現地調査で確認された種のうち、重要なクモ類は、キシノウエトタテグモ、コガネグモ、カコウコモリグモ、テジロハリゲコモリグモの 4 種です。

現地調査で確認された重要なクモ類を表 8-13-20 に示します。

表 8-13-20　現地調査により確認された重要なクモ類

No.	目名	科名	種名	重要種の選定基準			
				①	②	③	④
1	ｸﾓ目	ﾄﾀﾃｸﾞﾓ科	ｷｼﾉｳｴﾄﾀﾃｸﾞﾓ			NT	準絶
2		ｺｶﾞﾈｸﾞﾓ科	ｺｶﾞﾈｸﾞﾓ				準絶
3		ｺﾓﾘｸﾞﾓ科	ｶｺｳｺﾓﾘｸﾞﾓ				準絶
4			ﾃｼﾞﾛﾊﾘｹﾞｺﾓﾘｸﾞﾓ				Ⅱ類
合計	1 目	3 科	4 種	0 種	0 種	1 種	4 種

注）選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表8-13-3に示すとおりです。

⑧ 陸産貝類

a） 陸産貝類の生息状況

現地調査の結果、表 8-13-21 に示すとおり、1 目 3 科 5 種の陸産貝類が確認されました。

確認された陸産貝類は、ミジンマイマイ、チャコウラナメクジ、ウスカワマイマイ、オナジマイマイ、ナミマイマイでした。

表 8-13-21　陸産貝類確認種一覧

No.	綱名	目名	科名	種名	調査時期
					H25
					夏季
1	ﾏｷｶﾞｲ綱	ﾏｲﾏｲ目	ﾐｼﾞﾝﾏｲﾏｲ科	ﾐｼﾞﾝﾏｲﾏｲ	○
2			ｺｳﾗﾅﾒｸｼﾞ科	ﾁｬｺｳﾗﾅﾒｸｼﾞ	○
3			ｵﾅｼﾞﾏｲﾏｲ科	ｳｽｶﾜﾏｲﾏｲ	○
4				ｵﾅｼﾞﾏｲﾏｲ	○
5				ﾅﾐﾏｲﾏｲ	○
合計	1 綱	1 目	3 科	5 種	5 種

注）　分類（目名・科名・種）は、「日本産野生生物目録－本邦産野生動植物の種の現状－（無脊椎動物編Ⅲ）」（環境庁、平成10年）に準拠しています。

b） 重要な陸産貝類

現地調査で確認された種のうち、重要な陸産貝類に該当する種はありませんでした。

⑨ 底生動物

a) 底生動物の生息状況

現地調査の結果、表 8-13-22 に示すとおり、10 綱 23 目 39 科 69 種※が確認されました。

確認された底生動物は、アメリカナミウズムシ、イシマキガイ、ヒメタニシ、ハベカワニナ、サカマキガイ、カワヒバリガイ、イシガイ、イガイダマシ、アシナガゴカイ、ヤマトスピオ、エラミミズ、ヌマビル、タテジマフジツボ、キスイタナイス、フロリダマミズヨコエビ、ミズムシ、テナガエビ等でした。　※底生動物の現地調査で確認された昆虫類を除く

表 8-13-22　底生動物確認種数一覧

No.	綱名	目数	科数	種数	調査時期			
					H25		H26	
					冬季	春季	冬季	秋季
1	普通海綿綱	1	1	1		1		
2	渦虫綱	1	1	2	1	1		
3	有針綱	1	1	1	1			
4	腹足綱	4	9	13	7	11	5	2
5	二枚貝綱	3	4	9	7	8	3	2
6	ｺﾞｶｲ綱	3	3	6	5	5	4	2
7	ﾐﾐｽﾞ綱	3	3	11	5	10	1	
8	ﾋﾙ綱	2	2	4	3	4		
9	顎脚綱	1	1	3	3	3	3	2
10	軟甲綱	4	14	19	13	17	6	6
合計	10 綱	23 目	39 科	69 種	20 目 30 科 45 種	22 目 36 科 60 種	11 目 17 科 22 種	10 目 12 科 14 種

注1）分類（目名・科名・種名）は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　平成26年度生物リスト」（国土交通省、平成27年）に準拠しています。
注2）調査時期の数値は、種数を示しています。

b） 重要な底生動物

現地調査で確認された種のうち、重要な底生動物は、ハベカワニナ、クロダカワニナ等 11 種です。

現地調査で確認された重要な底生動物を表 8-13-23 に示します。

表 8-13-23　現地調査により確認された重要な底生動物（昆虫類を除く）

No.	綱名	目名	科名	種名	重要種の選定基準			
					①	②	③	④
1	腹足綱	盤足目	ｶﾜﾆﾅ科	ﾊﾍﾞｶﾜﾆﾅ				準絶
2				ｸﾛﾀﾞｶﾜﾆﾅ			NT	Ⅱ類
3			ｶﾜｸﾞﾁﾂﾎﾞ科	ｶﾜｸﾞﾁﾂﾎﾞ			NT	準絶
4			ｶﾜｻﾞﾝｼｮｳｶﾞｲ科	ｶﾜｻﾞﾝｼｮｳｶﾞｲ				準絶
5			ﾐｽﾞｺﾞﾏﾂﾎﾞ科	ｳﾐｺﾞﾏﾂﾎﾞ			NT	準絶
6				ﾐｽﾞｺﾞﾏﾂﾎﾞ			VU	Ⅱ類
7	二枚貝綱	ｲｼｶﾞｲ目	ｲｼｶﾞｲ科	ﾄﾞﾌﾞｶﾞｲ				Ⅱ類
8				ﾄﾝｶﾞﾘｻｻﾉﾊｶﾞｲ			NT	Ⅱ類
9				ｲｼｶﾞｲ				準絶
10		ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ目	ｼｼﾞﾐ科	ﾔﾏﾄｼｼﾞﾐ			NT	準絶
11	軟甲綱	ﾜﾗｼﾞﾑｼ目	ｺﾂﾌﾞﾑｼ科	ﾖﾂﾊﾞｺﾂﾌﾞﾑｼ				準絶
合計	3 綱	4 目	7 科	11 種	0 種	0 種	6 種	11 種

注）選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表8-13-3に示すとおりです。

⑩ 注目すべき生息地の状況

既存資料調査の結果、調査地域では表 8-13-24 に示す、「コアジサシの集団繁殖地」(「第 4 回自然環境保全基礎調査　自然環境情報図　大阪府」(平成 7 年、環境庁))、「淀川(西中島)」(「昆虫類の多様性保護のための重要地域第 3 集」(平成 14 年 12 月、日本昆虫学会自然保護委員会))が記録されています(分布は図 4-1-12 を参照)。

現地調査の結果、「コアジサシの集団繁殖地」周辺においてコアジサシの飛翔等は確認されたものの、本種の繁殖は確認されませんでした。

また、調査地域内における「淀川(西中島)」周辺では、ウチワヤンマ、コフキトンボ等の昆虫、ヤマトシジミ等の底生動物が確認されましたが、ヒヌマイトトンボは確認されませんでした。

表 8-13-24　注目すべき生息地の状況

番号	注目すべき生息地	所在	概要
A	コアジサシの集団繁殖地	大阪市東淀川区	調査年月日：平成 4 年 6 月 18 日 環境種類：中州 面積：500m^2 地形：平地 個体数：10～19 羽
B	淀川(西中島)	大阪市淀川区	淀川区西中島のヨシ原にはヒヌマイトトンボが広範囲にわたり生息している。城北公園の北側のワンド群や本流に近接したところは、トンボ類や水生昆虫が豊富である。

注) 分布位置は図4-1-12参照。

2） 予測

（1） 予測の手法

① 予測手法

動物の重要な種及び注目すべき生息地について、「道路環境影響評価の技術手法」に基づき、分布又は生息環境の改変の程度を踏まえた解析により行いました。

工事施工ヤード及び工事用道路等の設置位置、道路構造別の道路の存在位置、換気塔の存在位置と重要な種の生息地及び注目すべき生息地の分布範囲から、生息環境が消失・縮小する区間及びその程度を把握しました。

また、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路の存在及び換気塔の存在による対象種の生態を踏まえた生息環境の質的変化（移動経路の分断、工事作業、濁水※、地下水位の変化等）の程度についても把握しました。

次に、それらが重要な種等の生息に及ぼす影響の程度を、科学的知見を参考に定性的に予測しました。

予測手順を図 8-13-10 に示します。

※濁水による環境変化については、以下の工事計画を基に予測を行いました。
- 河川内における橋梁基礎工事においては、改変面積を極力抑え、止水性の高い仮締切工法を採用するとともに、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行います。
- 土工事及びトンネル工事（開削工法）に伴う裸地等の表土から降雨等により発生する濁水については、必要に応じて裸地の整形、仮設沈砂池の設置、モニタリング等を行うことにより適切に管理・処理し、公共下水道へ排水します。
- シールド工法によるトンネル工事に伴って発生する濁水及び湧水については、濁水処理施設を設置し、必要に応じてモニタリング等を行うことにより適切に管理・処理し、公共下水道へ排水します。

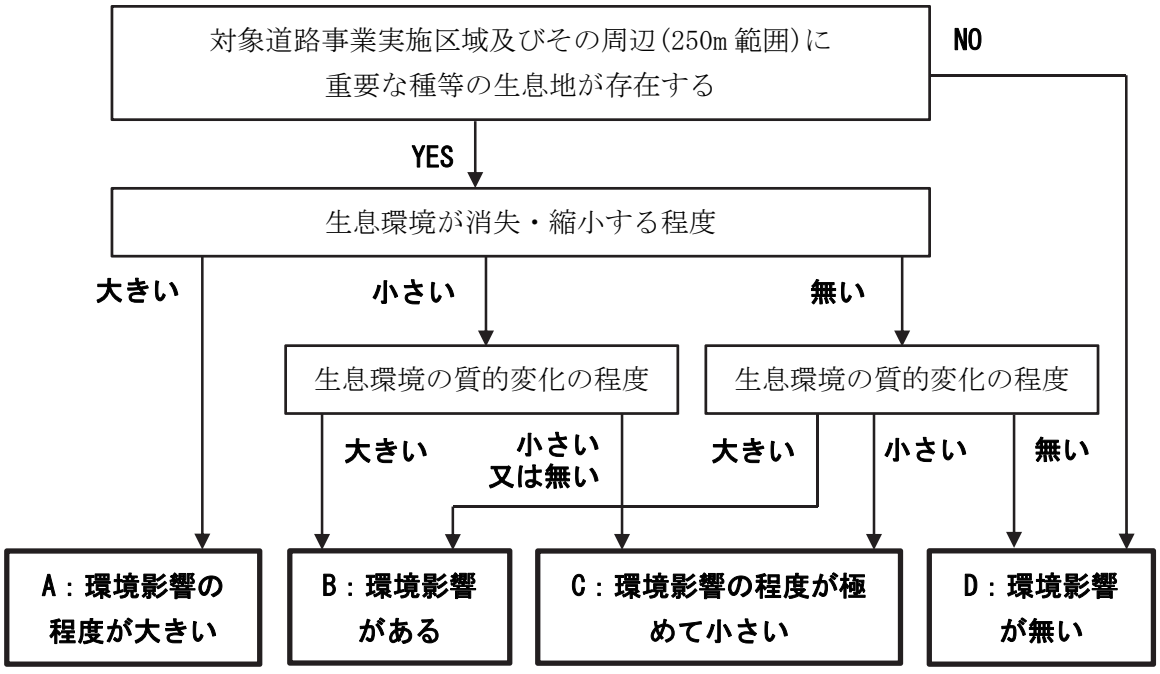


図 8-13-10　動物の予測手順

② 予測地域

予測地域は、調査地域のうち、動物の生息の特性を踏まえて、重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響が考えられる地域としました。

地表部が改変され、直接的な影響を受ける可能性のある地域として「対象道路事業実施区域内※1」を、また工事作業による間接的な影響を受ける可能性のある地域、生息域が分断される可能性のある地域として、「対象道路事業実施区域外※2」を予測地域としました。

※1　対象道路事業実施区域内　　：直接改変を受ける対象道路事業実施区域内（工事中は工事施工ヤード及び工事用道路等の設置を含む範囲）。
※2　対象道路事業実施区域外　　：対象道路事業実施区域端から250ｍの範囲及び250ｍ以遠に区分。

③ 予測の対象時期等

予測の対象時期は、事業特性及び動物の生態的特性を踏まえて重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を的確に把握できる時期としました。

具体的には、工事用道路の建設工事や工事施工ヤードの整備、開削工事、橋梁部の基礎工事等、現状の土地を改変する段階からの工事実施時期、並びに道路施設が完成・供用する時期としました。

④ 予測対象種の選定

予測対象種は、現地調査により対象道路事業実施区域及びその周辺で生息が確認された重要な種及び注目すべき生息地を選定しました。

予測対象とした重要な種は表 8-13-25(1)～(3)に示すとおりで、哺乳類は 3 種、鳥類は 56 種、爬虫類は 1 種、両生類は 1 種、魚類は 8 種、昆虫類は 20 種、クモ類は 4 種、底生動物は 11 種です。

また、注目すべき生息地として、表 8-13-26 に示すコアジサシの集団繁殖地、淀川（西中島）を予測対象としました。

表 8-13-25(1)　予測対象種の選定結果（哺乳類・鳥類）

番号	項目	種名	確認位置	
			豊崎地区	鶴見地区
1	哺乳類	ｶﾔﾈｽﾞﾐ	○	
2		ｷﾂﾈ	○	
3		ｲﾀﾁ属の一種	○	○
1	鳥類	ｶﾝﾑﾘｶｲﾂﾌﾞﾘ	○	○
2		ｻｻｺﾞｲ	○	○
3		ｱﾏｻｷﾞ	○	○
4		ﾁｭｳｻｷﾞ	○	
5		ｵｼﾄﾞﾘ	○	
6		ﾏｶﾞﾓ	○	○
7		ﾖｼｶﾞﾓ	○	
8		ｱﾒﾘｶﾋﾄﾞﾘ	○	
9		ﾎｵｼﾞﾛｶﾞﾓ	○	
10		ﾐｺｱｲｻ		○
11		ﾐｻｺﾞ	○	○
12		ｵｵﾀｶ	○	○
13		ﾊｲﾀｶ	○	○
14		ﾉｽﾘ	○	○
15		ﾁｭｳﾋ	○	
16		ﾊﾔﾌﾞｻ	○	○
17		ﾁｮｳｹﾞﾝﾎﾞｳ	○	○
18		ｸｲﾅ	○	
19		ﾋｸｲﾅ	○	
20		ｵｵﾊﾞﾝ	○	○
21		ｺﾁﾄﾞﾘ	○	
22		ｲｶﾙﾁﾄﾞﾘ	○	
23		ｼﾛﾁﾄﾞﾘ	○	
24		ｹﾘ	○	○
25		ﾊﾏｼｷﾞ	○	
26		ﾂﾙｼｷﾞ	○	
27		ｱｵｱｼｼｷﾞ	○	
28		ｷｱｼｼｷﾞ	○	

表 8-13-25(2)　予測対象種の選定結果（鳥類・爬虫類・両生類・魚類）

番号	項目	種名	確認位置	
			豊崎地区	鶴見地区
29	(鳥類)	ｲｿｼｷﾞ	○	
30		ｿﾘﾊｼｼｷﾞ	○	
31		ﾁｭｳｼｬｸｼｷﾞ	○	
32		ｳﾐﾈｺ	○	
33		ｺｱｼﾞｻｼ	○	○
34		ｺﾐﾐｽﾞｸ	○	
35		ｶﾜｾﾐ	○	○
36		ﾋﾊﾞﾘ	○	
37		ﾋﾞﾝｽﾞｲ	○	
38		ﾋﾚﾝｼﾞｬｸ	○	
39		ｺﾙﾘ		○
40		ﾙﾘﾋﾞﾀｷ		○
41		ﾉﾋﾞﾀｷ	○	○
42		ｵｵﾖｼｷﾘ	○	
43		ﾒﾎﾞｿﾑｼｸｲ		○
44		ｴｿﾞﾑｼｸｲ		○
45		ｾﾝﾀﾞｲﾑｼｸｲ		○
46		ｷｸｲﾀﾀﾞｷ		○
47		ｾｯｶ	○	
48		ｷﾋﾞﾀｷ	○	○
49		ｵｵﾙﾘ		○
50		ｴｿﾞﾋﾞﾀｷ	○	○
51		ｺｻﾒﾋﾞﾀｷ		○
52		ｻﾝｺｳﾁｮｳ		○
53		ﾎｵｱｶ	○	
54		ｶｼﾗﾀﾞｶ	○	
55		ｱｵｼﾞ	○	○
56		ｵｵｼﾞｭﾘﾝ	○	
1	爬虫類	ﾆﾎﾝｽｯﾎﾟﾝ		○
1	両生類	ﾄﾉｻﾏｶﾞｴﾙ	○	○
1	魚類	ﾆﾎﾝｳﾅｷﾞ	○	
2		ｼﾛﾋﾚﾀﾋﾞﾗ	○	
3		ﾜﾀｶ		○
4		ﾊｽ	○	
5		ｱﾕ	○	
6		ﾐﾅﾐﾒﾀﾞｶ	○	
7		ｼﾏﾋﾚﾖｼﾉﾎﾞﾘ		○
8		旧ﾄｳﾖｼﾉﾎﾞﾘ		○

表 8-13-25(3)　予測対象種の選定結果（昆虫類・クモ類・底生動物）

番号	項目	種名	確認位置	
			豊崎地区	鶴見地区
1	昆虫類	ｷｲﾄﾄﾝﾎﾞ		○
2		ｾｽｼﾞｲﾄﾄﾝﾎﾞ		○
3		ｱｵｻﾅｴ	○	
4		ﾎﾝｻﾅｴ	○	
5		ｳﾁﾜﾔﾝﾏ	○	○
6		ｵｵｻｶｻﾅｴ	○	
7		ｺﾌｷﾄﾝﾎﾞ	○	○
8		ﾖﾂﾎﾞｼﾄﾝﾎﾞ		○
9		ｱｷｱｶﾈ	○	
10		ﾉｼﾒﾄﾝﾎﾞ		○
11		ｳｽﾋﾗﾀｺﾞｷﾌﾞﾘ	○	
12		ﾐｽｼﾞﾁｮｳ		○
13		ｳｽｱｵﾘﾝｶﾞ	○	
14		ﾊﾏﾍﾞﾐｽﾞｷﾞﾜｺﾞﾐﾑｼ	○	
15		ｽｼﾞﾋﾗﾀｶﾞﾑｼ		○
16		ﾄﾞｳｶﾞﾈﾌﾞｲﾌﾞｲ		○
17		ｼﾞｭｳｸﾎｼﾃﾝﾄｳ	○	
18		ﾓﾝｽｽﾞﾒﾊﾞﾁ		○
19		ｷｱｼﾊﾅﾀﾞｶﾊﾞﾁﾓﾄﾞｷ	○	○
20		ｷﾊﾞﾗﾊｷﾘﾊﾞﾁ	○	
1	ｸﾓ類	ｷｼﾉｳｴﾄﾀﾃｸﾞﾓ		○
2		ｺｶﾞﾈｸﾞﾓ	○	
3		ｶｺｳｺﾓﾘｸﾞﾓ	○	
4		ﾃｼﾞﾛﾊﾘｹﾞｺﾓﾘｸﾞﾓ	○	
1	底生動物（昆虫類以外）	ﾊﾍﾞｶﾜﾆﾅ	○	
2		ｸﾛﾀﾞｶﾜﾆﾅ	○	
3		ｶﾜｸﾞﾁﾂﾎﾞ	○	
4		ｶﾜｻﾞﾝｼｮｳｶﾞｲ	○	
5		ｳﾐｺﾞﾏﾂﾎﾞ	○	
6		ﾐｽﾞｺﾞﾏﾂﾎﾞ	○	
7		ﾄﾞﾌﾞｶﾞｲ	○	
8		ﾄﾝｶﾞﾘｻｻﾉﾊｶﾞｲ	○	
9		ｲｼｶﾞｲ	○	
10		ﾔﾏﾄｼｼﾞﾐ	○	
11		ﾖﾂﾊﾞｺﾂﾌﾞﾑｼ	○	

表 8-13-26　予測対象とした注目すべき生息地

番号	分類	名称	確認位置	
			豊崎地区	鶴見地区
1	注目すべき生息地	コアジサシの集団繁殖地	○	
2		淀川（西中島）	○	

(2) 予測の結果

① 予測結果の概要

重要な種の予測結果の概要は表 8-13-27(1)～(9)に、注目すべき生息地の予測結果の概要は表 8-13-28 示すとおりです。

生息環境への影響については、図 8-13-10 の手順により、以下のように整理しました。

A：環境影響の程度が大きい【生息環境が消失・縮小する程度が大きい】
B：環境影響がある【生息環境の質的変化の程度が大きい】
C：環境影響の程度が極めて小さい【生息環境の消失・縮小、質的変化の程度が小さい】
D：環境影響が無い【生息環境の消失・縮小、質的変化が無い】

表 8-13-27(1) 重要な種の予測結果概要（哺乳類）

番号	分類	種名	確認位置の環境	確認位置(対象道路事業実施区域との位置関係)			確認位置の改変状況		生息環境への影響	
				区域内	区域外		改変の有無	主な道路構造	工事中	供用後
					区域から 250m 以内	区域から 250m 以遠				
1	哺乳類	ｶﾔﾈｽﾞﾐ	河川の乾性草地、湿性草地等	○	○	○	有	ﾄﾝﾈﾙ部(豊崎)	C	C
2		ｷﾂﾈ	河川の湿性草地、市街地等	○	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
3		ｲﾀﾁ属の一種	河川の湿性草地、低地の樹林地	○	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C

表 8-13-27(2) 重要な種の予測結果概要（鳥類）

番号	分類	種名	確認位置の環境	確認位置(対象道路事業実施区域との位置関係)		確認位置の改変状況		生息環境への影響	
				区域内	区域外	改変の有無	主な道路構造	工事中	供用後
1	鳥類	ｶﾝﾑﾘｶｲﾂﾌﾞﾘ	河川の開放水域(淀川:本流)、低地の開放水域(鶴見緑地)等		○	無		C	C
2		ｻｻｺﾞｲ	河川の市街地、開放水域(淀川:本流)、低地の樹林地、開放水域(鶴見緑地)等	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
3		ｱﾏｻｷﾞ	河川の湿性草地		○	無		D	D
4		ﾁｭｳｻｷﾞ	河川の開放水域(淀川:干潟・止水域)		○	無		D	D
5		ｵｼﾄﾞﾘ	河川の開放水域(淀川:本流)		○	無		D	D
6		ﾏｶﾞﾓ	河川の開放水域(淀川:本流)、低地の開放水域(鶴見緑地)	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
7		ﾖｼｶﾞﾓ	河川の市街地、乾性草地		○	無		D	D
8		ｱﾒﾘｶﾋﾄﾞﾘ	河川の乾性草地		○	無		D	D
9		ﾎｵｼﾞﾛｶﾞﾓ	河川の開放水域(淀川:本流)		○	無		C	C

表 8-13-27(3)　重要な種の予測結果概要（鳥類）

番号	分類	種名	確認位置の環境	確認位置(対象道路事業実施区域との位置関係)		確認位置の改変状況		生息環境への影響	
				区域内	区域外	改変の有無	主な道路構造	工事中	供用後
10	(鳥類)	ﾐｺｱｲｻ	低地の開放水域(鶴見緑地)		○	無		D	D
11		ﾐｻｺﾞ	河川の開放水域(淀川:本流)、湿性草地等	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
12		ｵｵﾀｶ	河川の湿性草地、低地の樹林地等	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
13		ﾊｲﾀｶ	河川の開放水域(淀川:本流)、低地の樹林地等	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
14		ﾉｽﾘ	河川の乾性草地、低地の樹林地等		○	無		D	D
15		ﾁｭｳﾋ	河川の湿性草地、開放水域（淀川：本流）	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
16		ﾊﾔﾌﾞｻ	河川の開放水域（淀川：本流）、市街地	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
17		ﾁｮｳｹﾞﾝﾎﾞｳ	河川の市街地、低地の市街地	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
18		ｸｲﾅ	河川の湿性草地		○	無		D	D
19		ﾋｸｲﾅ	河川の湿性草地		○	無		D	D
20		ｵｵﾊﾞﾝ	河川の開放水域（淀川：本流）、低地の開放水域（鶴見緑地）等	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
21		ｺﾁﾄﾞﾘ	河川の開放水域（淀川:干潟･止水域）、乾性草地	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
22		ｲｶﾙﾁﾄﾞﾘ	河川の開放水域(淀川:干潟･止水域)		○	無		D	D
23		ｼﾛﾁﾄﾞﾘ	河川の市街地、開放水域(淀川:干潟･止水域)		○	無		D	D
24		ｹﾘ	河川の乾性草地、市街地等	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
25		ﾊﾏｼｷﾞ	河川の開放水域(淀川:干潟･止水域)		○	無		C	C
26		ﾂﾙｼｷﾞ	河川の乾性草地		○	無		D	D
27		ｱｵｱｼｼｷﾞ	河川の開放水域(淀川:干潟･止水域)		○	無		C	C
28		ｷｱｼｼｷﾞ	河川の開放水域(淀川:干潟･止水域）、開放水域(淀川：本流)		○	無		C	C
29		ｲｿｼｷﾞ	河川の開放水域(淀川:干潟･止水域)、開放水域(淀川:本流)等	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C

表 8-13-27(4)　重要な種の予測結果概要（鳥類）

番号	分類	種名	確認位置の環境	確認位置(対象道路事業実施区域との位置関係)		確認位置の改変状況		生息環境への影響	
				区域内	区域外	改変の有無	主な道路構造	工事中	供用後
30	(鳥類)	ｿﾘﾊｼｼｷﾞ	河川の開放水域(淀川:干潟･止水域)、市街地		○	無		C	C
31		ﾁｭｳｼｬｸｼｷﾞ	河川の開放水域(淀川:本流)、開放水域(淀川：干潟･止水域)		○	無		C	C
32		ｳﾐﾈｺ	河川の開放水域(淀川:本流)	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	D	D
33		ｺｱｼﾞｻｼ	河川の開放水域(淀川:本流)、低地の開放水域(鶴見緑地)	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
34		ｺﾐﾐｽﾞｸ	河川の開放水域(淀川:本流)		○	無		D	D
35		ｶﾜｾﾐ	河川の開放水域(淀川:干潟･止水域)、低地の開放水域(鶴見緑地)		○	無		C	C
36		ﾋﾊﾞﾘ	河川の乾性草地、湿性草地		○	無		C	C
37		ﾋﾞﾝｽﾞｲ	河川の乾性草地		○	無		C	C
38		ﾋﾚﾝｼﾞｬｸ	河川の樹林地等		○	無		D	D
39		ｺﾙﾘ	低地の樹林地		○	無		D	D
40		ﾙﾘﾋﾞﾀｷ	低地の樹林地		○	無		D	D
41		ﾉﾋﾞﾀｷ	河川の乾性草地、低地の樹林地	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
42		ｵｵﾖｼｷﾘ	河川の湿性草地、乾性草地等	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
43		ﾒﾎﾞｿﾑｼｸｲ	低地の樹林地		○	無		D	D
44		ｴｿﾞﾑｼｸｲ	低地の樹林地、湿性草地		○	無		D	D
45		ｾﾝﾀﾞｲﾑｼｸｲ	低地の樹林地		○	無		D	D
46		ｷｸｲﾀﾀﾞｷ	低地の樹林地		○	無		D	D
47		ｾｯｶ	河川の湿性草地、乾性草地等	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
48		ｷﾋﾞﾀｷ	低地の樹林地		○	無		D	D
49		ｵｵﾙﾘ	低地の樹林地		○	無		D	D
50		ｴｿﾞﾋﾞﾀｷ	河川の市街地、低地の樹林地	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	D	D
51		ｺｻﾒﾋﾞﾀｷ	低地の樹林地		○	無		D	D

表 8-13-27(5)　重要な種の予測結果概要（鳥類）

番号	分類	種名	確認位置の環境	確認位置(対象道路事業実施区域との位置関係)		確認位置の改変状況		生息環境への影響	
				区域内	区域外	改変の有無	主な道路構造	工事中	供用後
52	(鳥類)	ｻﾝｺｳﾁｮｳ	低地の樹林地		○	無		D	D
53		ﾎｵｱｶ	河川の湿性草地		○	無		C	C
54		ｶｼﾗﾀﾞｶ※	豊崎地区	○		—		C	C
54		ｱｵｼﾞ	河川の湿性草地、低地の樹林地等	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
56		ｵｵｼﾞｭﾘﾝ	河川の湿性草地	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C

※　現地調査で確認されましたが、詳細な確認位置が不明である種を示し、対象道路事業実施区域との位置関係、改変状況は不明です。

表 8-13-27(6)　重要な種の予測結果概要（爬虫類・両生類・魚類）

番号	項目	種名	確認位置の環境	確認位置(対象道路事業実施区域との位置関係)			確認位置の改変状況		生息環境への影響	
				区域内	区域外		改変の有無	主な道路構造	工事中	供用後
					区域から250m以内	区域から250m以遠				
1	爬虫類	ﾆﾎﾝｽｯﾎﾟﾝ	低地の開放水域(鶴見緑地)			○	無		D	D
1	両生類	ﾄﾉｻﾏｶﾞｴﾙ	河川の乾性草地、低地の樹林地等		○	○	無		D	D
1	魚類	ﾆﾎﾝｳﾅｷﾞ	河川の開放水域(淀川:本流、干潟･止水域)		○	○	無		C	C
2		ｼﾛﾋﾚﾀﾋﾞﾗ	河川の開放水域(淀川:本流)			○	無		D	D
3		ﾜﾀｶ	河川の開放水域(古川)			○	無		D	D
4		ﾊｽ	河川の開放水域(大川)		○		無		D	D
5		ｱﾕ※	河川の開放水域（大川）	○			無		D	D
6		ﾐﾅﾐﾒﾀﾞｶ	河川の開放水域(淀川:本流、干潟･止水域)等		○	○	無		C	C
7		ｼﾏﾋﾚﾖｼﾉﾎﾞﾘ	低地の開放水域（鶴見緑地）			○	無		D	D
8		ｲﾄｳﾖｼﾉﾎﾞﾘ	低地の開放水域（鶴見緑地）			○	無		D	D

※　現地調査で確認されましたが、詳細な確認位置が不明である種を示し、対象道路事業実施区域との位置関係は不明です。

表 8-13-27(7)　重要な種の予測結果概要（昆虫類）

番号	項目	種名	確認位置の環境	確認位置(対象道路事業実施区域との位置関係)			確認位置の改変状況		生息環境への影響	
				区域内	区域外		改変の有無	主な道路構造	工事中	供用後
					区域から250m以内	区域から250m以遠				
1	昆虫類	ｷｲﾄﾄﾝﾎﾞ	低地の湿性草地		○		無		D	D
2		ｾｽｼﾞｲﾄﾄﾝﾎﾞ	低地の樹林地			○	無		D	D
3		ｱｵｻﾅｴ	河川の開放水域(淀川：本流)			○	無		D	D
4		ﾎﾝｻﾅｴ	河川の開放水域(大川)		○		無		D	D
5		ｳﾁﾜﾔﾝﾏ	低地の開放水域(鶴見緑地)、樹林地			○	無		C	C
6		ｵｵｻｶｻﾅｴ	河川の市街地		○		無		D	D
7		ｺﾌｷﾄﾝﾎﾞ	河川の市街地、湿性草地等		○	○	無		C	C
8		ﾖﾂﾎﾞｼﾄﾝﾎﾞ※	鶴見地区	○			—		D	D
9		ｱｷｱｶﾈ※	豊崎地区	○			—		C	C
10		ﾉｼﾒﾄﾝﾎﾞ※	鶴見地区	○			—		D	D
11		ｳｽﾋﾗﾀｺﾞｷﾌﾞﾘ	河川の湿性草地		○		無		C	C
12		ﾐｽｼﾞﾁｮｳ	低地の樹林地			○	無		D	D
13		ｳｽｱｵﾘﾝｶﾞ	河川の樹林地			○	無		D	D
14		ﾊﾏﾍﾞﾐｽﾞｷﾞﾜｺﾞﾐﾑｼ※	豊崎地区	○			—		C	C
15		ｽｼﾞﾋﾗﾀｶﾞﾑｼ	低地の開放水域(鶴見緑地)			○	無		D	D
16		ﾄﾞｳｶﾞﾈﾌﾞｲﾌﾞｲ	低地の樹林地			○	無		D	D
17		ｼﾞｭｳｸﾎｼﾃﾝﾄｳ	河川の湿性草地	○	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
18		ﾓﾝｽｽﾞﾒﾊﾞﾁ	低地の樹林地			○	無		D	D
19		ｷｱｼﾊﾅﾀﾞｶﾊﾞﾁﾓﾄﾞｷ	低地の樹林地、市街地等		○	○	無		C	C
20		ｷﾊﾞﾗﾊｷﾘﾊﾞﾁ	河川の湿性草地		○		無		C	C

※　現地調査で確認されましたが、詳細な確認位置が不明である種を示し、対象道路事業実施区域との位置関係、改変状況は不明です。

表 8-13-27(8)　重要な種の予測結果概要（クモ類）

番号	項目	種名	確認位置の環境	確認位置(対象道路事業実施区域との位置関係)			確認位置の改変状況		生息環境への影響	
				区域内	区域外		改変の有無	主な道路構造	工事中	供用後
					区域から 250m 以内	区域から 250m 以遠				
1	ｸﾓ類	ｷｼﾉｳｴﾄﾀﾃｸﾞﾓ	低地の樹林地		○		無		D	D
2		ｺｶﾞﾈｸﾞﾓ※	豊崎地区	○			—		C	C
3		ｶｺｳｺﾓﾘｸﾞﾓ※	豊崎地区	○			—		C	C
4		ﾃｼﾞﾛﾊﾘｹﾞｺﾓﾘｸﾞﾓ※	豊崎地区	○			—		C	C

※　現地調査で確認されましたが、詳細な確認位置が不明である種を示し、対象道路事業実施区域との位置関係、改変状況は不明です。

表 8-13-27(9)　重要な種の予測結果概要（底生動物）

番号	項目	種名	確認位置の環境	確認位置(対象道路事業実施区域との位置関係)			確認位置の改変状況		生息環境への影響	
				区域内	区域外		改変の有無	主な道路構造	工事中	供用後
					区域から250m以内	区域から250m以遠				
1	底生動物（昆虫類以外）	ﾊﾍﾞｶﾜﾆﾅ	河川の開放水域(大川、淀川:本流)		○	○	無		D	D
2		ｸﾛﾀﾞｶﾜﾆﾅ	河川の開放水域(大川)			○	無		D	D
3		ｶﾜｸﾞﾁﾂﾎﾞ	河川の開放水域(淀川:干潟･止水域)			○	無		D	D
4		ｶﾜｻﾞﾝｼｮｳｶﾞｲ	河川の市街地(人工物)、開放水域(淀川:干潟･止水域)	○	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
5		ｳﾐｺﾞﾏﾂﾎﾞ	河川の開放水域(淀川:干潟･止水域)	○		○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
6		ﾐｽﾞｺﾞﾏﾂﾎﾞ	河川の開放水域(淀川:干潟･止水域)		○	○	無		C	C
7		ﾄﾞﾌﾞｶﾞｲ	河川の開放水域(大川)		○		無		D	D
8		ﾄﾝｶﾞﾘｻｻﾉﾊｶﾞｲ	河川の開放水域(淀川:本流、大川)			○	無		D	D
9		ｲｼｶﾞｲ	河川の開放水域(淀川：本流、大川)		○	○	無		D	D
10		ﾔﾏﾄｼｼﾞﾐ	河川の開放水域(淀川:本流､干潟･止水域)	○	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
11		ﾖﾂﾊﾞｺﾂﾌﾞﾑｼ	河川の市街地(人工物)、開放水域(淀川:本流)等	○	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C

表 8-13-28　注目すべき生息地の予測結果概要

番号	項目	名称	確認位置の環境	確認位置(対象道路事業実施区域との位置関係)			確認位置の改変状況		生息環境への影響	
				区域内	区域外		改変の有無	主な道路構造	工事中	供用後
					区域から250m以内	区域から250m以遠				
1	注目すべき生息地	コアジサシの集団繁殖地	河川の乾性草地、市街地		○		無		C	C
2		淀川（西中島）	河川の湿性草地		○		無		D	D

② 予測結果

動物の重要な種及び注目すべき生息地の予測結果を以降に示します。

なお、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置については、対象道路区域内を極力利用することで動物の生息環境の改変をできる限り避けた計画としており、改変は道路構造物設置箇所周辺に限られることから、工事中の一時的な改変による環境変化は小さいと考えられます。

また、トンネル開削区間等における土地改変は、区間を移動しながら施工するため、著しい移動阻害は生じないと考えられます。

a) 哺乳類

予測地域に存在すると考えられる重要な哺乳類の予測結果は、表 8-13-29(1)～(3)に示すとおりです。

表 8-13-29(1)　重要な哺乳類の予測結果（カヤネズミ）

項目	内容		
生態	・本州中西部、四国、九州、淡路島、隠岐、対馬等に分布する。 ・低地から山地の草地、畑、休耕地、沼沢地等に生息し、ｲﾈ科植物が密生したところに多い。 ・種子、根菜、昆虫類等を採餌する。 ・5-11 月頃、繁殖のために、ｵｷﾞ、ﾁｶﾞﾔ、ｽｽｷ、ﾖｼ等の高茎草本の葉を編んで、地上巣を作り中で繁殖するという特異な習性をもつ。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の乾性草地、湿性草地等において 59 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 冬季、春季、夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内 3 箇所、対象道路事業実施区域から 250m 以内 24 箇所・250m 以遠 32 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した河川敷高茎草本の改変は、トンネル開削工事、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られるほか、(仮称)豊崎 IC ランプ部は橋梁形式で生息域の分断は無く、本種の生息に適した環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-29(2)　重要な哺乳類の予測結果（キツネ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、九州、淡路島に分布する。 ・低地から山地に広く生息するが、個体数は一般に多くない。 ・ﾉﾈｽﾞﾐ類、鳥類、大型の昆虫等のほか、果実や人家のｺﾞﾐ等も採餌する。 ・3-4 月に平均 4 頭の仔を巣穴の中で出産し、夏まで家族群で生活する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地、市街地等において 7 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内 2 箇所、対象道路事業実施区域から 250m 以内 4 箇所・250m 以遠 1 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した河川敷草地の改変は、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地の一部を改変するが、(仮称)豊崎 IC ランプ部は橋梁形式で生息域の分断は生じない。また、本種の生息に適した環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-29(3)　重要な哺乳類の予測結果（イタチ属の一種）

項目	内容		
生態	・本州、九州、四国、佐渡、隠岐諸島、伊豆大島、淡路島、小豆島、壱岐、五島列島、屋久島、種子島等に分布する。 ・西日本では近年、外来種のﾁｮｳｾﾝｲﾀﾁが優勢になり、ｲﾀﾁは山間部等に追い込まれている。 ・ｶｴﾙ、ﾈｽﾞﾐ類、鳥類、昆虫類等の陸上小動物のほか、水に入りｻﾞﾘｶﾞﾆ等の甲殻類や魚を採餌することも多い。 ・雌は一定の行動圏をもち、土穴等を巣とする。雄はいくつかの雌の行動圏に重なるような行動圏をもつ。九州では年2回繁殖し、一度に1-8頭、平均 3-5 頭の仔を産む。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地、河川の湿性草地等において 31 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 冬季、春季、夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内 2 箇所、対象道路事業実施区域から 250m 以内 11 箇所・250m 以遠 4 箇所
		鶴見	対象道路事業実施区域内から 250m 以内 6 箇所・250m 以遠 8 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した河川敷草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の樹林地、水辺の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地の一部を改変する。豊崎地区では(仮称)豊崎 IC ランプ部は橋梁形式で生息域の分断は生じない。鶴見地区の土工部分では生息地の分断の可能性があるが、土工部の区間は一部に限られることに加え、本種は移動能力に優れ、橋梁構造下部を利用すると考えられることから移動経路は確保される。また、本種の生息に適した環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

b) 鳥類

予測地域に存在すると考えられる重要な鳥類の予測結果は、表 8-13-30(1)～(56)に示すとおりです。

表 8-13-30(1)　重要な鳥類の予測結果（カンムリカイツブリ）

項目	内容		
生態	・全国に主に冬鳥として渡来するが、青森県や滋賀県等で局地的に繁殖している。 ・海岸や大きな河川、湖沼等に生息する。 ・潜水して主に魚類の他水生昆虫や両生類も採餌する。 ・繁殖期は 4-9 月。ヨシ原等の水辺に浮き巣をつくって繁殖する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、低地の開放水域（鶴見緑地）等において 69 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 冬季、春季、夏季、H26 冬季、春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 64 箇所
		鶴見	対象道路事業実施区域外 5 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の水辺の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、鶴見緑地の水域等の改変は生じない。また、本種の生息に適した河川等の水域は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(2)　重要な鳥類の予測結果（ササゴイ）

項目	内容		
生態	・本州、四国、九州に夏鳥として渡来し、南西諸島に冬鳥として渡来する。 ・水田、湖沼、河川等の水辺に生息する。 ・浅瀬で待ち伏せをして小魚やｻﾞﾘｶﾞﾆ、ｶｴﾙ類等を採餌する。 ・繁殖期は 4-7 月。水辺近くのﾔﾅｷﾞや雑木林のほか、公園の林や街路樹に営巣するものもいる。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の市街地、開放水域（淀川：本流）、低地の樹林地、開放水域（鶴見緑地）等において 15 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季、夏季、H26 春季、夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内 1 箇所、対象道路事業実施区域外 12 箇所
		鶴見	対象道路事業実施区域外 2 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した河川浅瀬、湿性草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、鶴見緑地の樹林、水域の改変は生じない。同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した河川、湿性草地は周辺に広く分布し、鶴見緑地の樹林、水域の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(3)　重要な鳥類の予測結果（アマサギ）

項目	内容		
生態	・夏鳥として渡来し、本州、四国、九州の各地で繁殖する。西南日本や琉球諸島では越冬する個体もいる。 ・農耕地や草原、河原、湖沼地等に生息するが、他のｻｷﾞ類と比べると乾いた草地を好む。 ・水田やﾊｽ田の畦道や草原で、ｲﾅｺﾞ、ﾊﾞｯﾀ等の昆虫やｶｴﾙ等をよく採餌する。 ・繁殖期は 4-9 月。ｺｻｷﾞ、ﾁｭｳｻｷﾞ、ﾀﾞｲｻｷﾞ等と混生して集団繁殖することが多く、ﾏﾂ林、雑木林、竹林等の樹上に営巣する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において 1 箇所、及び鶴見地区で確認された。	
	確認時期	H25 春季、H26 春季、夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 1 箇所
		鶴見	対象道路事業実施区域及びその周辺
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、生息に適した湿性草地は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の樹林、水域の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息地の改変は無く、生息に適した水辺環境は周辺に広く分布すること、対象道路と鶴見緑地の樹林、水域とは影響が生じない程度に十分離れていることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(4)　重要な鳥類の予測結果（チュウサギ）

項目	内容		
生態	・本州、四国、九州では夏鳥、九州の一部と沖縄では冬鳥として分布する。 ・平地の農耕地や湿地に生息し、池沼等の開水面では少ない。 ・水辺の草むらや水田で主に昆虫類、そのほか両生・爬虫類、魚類等も採餌する。 ・繁殖期は 4-9 月。水辺付近の雑木林、竹林等に営巣する。他のｼﾗｻｷﾞ類と混生して集団繁殖する事が多い。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）において 4 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季、H26 春季、夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 4 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息地の改変は無く、生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(5)　重要な鳥類の予測結果（オシドリ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州北部では夏鳥、本州南西部、四国、九州、沖縄では冬鳥とされるが、一部で局地的に繁殖しているところがある。 ・山地の池沼や河川、ﾀﾞﾑ湖等に生息するが、渡り期には海岸で見られることもある。 ・雑食性だが、ｼｲ、ｶｼ、ﾅﾗ類等のﾄﾞﾝｸﾞﾘを好む。 ・繁殖期は 4-7 月。森林の水辺付近で樹洞に営巣する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H26 春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 1 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では地表部施工箇所と本種の生息地とは影響が生じない程度に十分離れていることから、環境変化は生じないと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、生息に適した流れの緩やかな水域は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地から影響が生じない程度に十分離れているほか、生息に適した流れの緩やかな水域は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(6)　重要な鳥類の予測結果（マガモ）

項目	内容		
生態	・近年、西日本での繁殖例が増えている。冬季は、北海道、本州、四国、九州、沖縄で多数が越冬する。 ・湖沼の水際の湿性草原に営巣し、付近の水上で餌をとる。冬季は山間のﾀﾞﾑ湖、平地のため池や河川から海岸・内海に至るまでの多様な水域に生息する。 ・草の種子や昆虫等の小動物を採餌する。 ・繁殖期は 4-8 月。水辺の草むらや藪の下の浅い窪みに、草の葉等を敷いた皿型の巣をつくる。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、低地の開放水域（鶴見緑地）等において 52 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 冬季、春季、夏季、H26 冬季、春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内 2 箇所、対象道路事業実施区域外 35 箇所
		鶴見	対象道路事業実施区域外 15 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適したな水域の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の水域等の改変は生じないことから、本種の環境影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息に適した水域の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、鶴見緑地の水域等の改変は無く、同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(7)　重要な鳥類の予測結果（ヨシガモ）

項目	内容		
生態	・主に関東以西の本州、四国、九州で越冬する。北海道の一部では繁殖する。 ・平地の湖沼や貯水池、河川の中流から河口・内海に至る多様な水域の水面だけでなく、これに隣接する陸地にも上がって餌をとる。 ・草の種子、水生植物、水生の小動物等を採餌する。 ・繁殖期は 6-7 月。巣は、水辺の木株や土くれの上の草に覆われたところに、草の葉や茎で皿形につくり、産座に綿毛を敷く。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の市街地、乾性草地において 18 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季、春季、H26 冬季、春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 18 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では地表部施工箇所と本種の生息地とは影響が生じない程度に十分離れていることから、環境変化は生じないと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地から影響が生じない程度に十分離れているほか、生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(8)　重要な鳥類の予測結果（アメリカヒドリ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、九州にしばしば渡来し越冬する。 ・平地の湖沼・河川の中流から河口、海岸の水面・水際に生息し、餌をとる。 ・草本の葉等の植物質を主に採餌する。 ・北ｱﾒﾘｶ北中部で繁殖する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の乾性草地において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H26 冬季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 1 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では地表部施工箇所と本種の生息地とは影響が生じない程度に十分離れていることから、環境変化は生じないと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地から影響が生じない程度に十分離れているほか、生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(9)　重要な鳥類の予測結果（ホオジロガモ）

項目	内容		
生態	・冬季に北海道、本州、四国、九州等での沿岸部や大きな湖沼・河川で越冬する。 ・内海や海岸、河川の下流から河口、琵琶湖や海に近い大きなため池等に生息し、餌をとる。 ・軟体動物、甲殻類、小魚等を採餌する。 ・繁殖期は 5-7 月。ｽｶﾝｼﾞﾅﾋﾞｱ半島からｼﾍﾞﾘｱにかけてのﾕｰﾗｼｱ大陸北部で繁殖する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）において 8 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季、H26 冬季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 8 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した流れの緩やかな水域の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は（仮称）豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した流れの緩やかな水域は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(10)　重要な鳥類の予測結果（ミコアイサ）

項目	内容		
生態	・冬鳥として渡来し、北海道、本州、四国、九州の河川、湖沼、ﾀﾞﾑ湖等で越冬する。 ・琵琶湖や大きなため池、大きな河川の中下流から河口にかけて生息し餌をとる。内海でも見られる。 ・魚類、貝類、甲殻類等を採餌する。 ・繁殖期は 5-7 月。北ｱﾒﾘｶ北部、ｽｶﾝｼﾞﾅﾋﾞｱ半島からｼﾍﾞﾘｱにかけてのﾕｰﾗｼｱ大陸北部で繁殖する。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の開放水域（鶴見緑地）において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季	
	確認位置	豊崎	確認されなかった
		鶴見	対象道路事業実施区域外 1 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、鶴見地区では地表部施工箇所と本種の生息地とは影響が生じない程度に十分離れていることから、環境変化は生じないと考えられる。また、本種の確認された鶴見緑地の水域の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路と本種の確認された鶴見緑地の水域とは影響が生じない程度に十分離れていることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(11)　重要な鳥類の予測結果（ミサゴ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、九州、南西諸島に留鳥として分布し、北日本のものは冬に南部へ移動する。 ・河川、湖沼、海岸等に生息する。 ・ほぼ完全な魚食性。水面上空で低空飛行を行いながら魚を探し、急降下して中型の魚を捕らえる。 ・繁殖期は 3 月中旬から始まり、樹上や尖塔状の岩礁上に枝や樹皮を利用して営巣する。豊富な餌のある場所では巣がかなり接近し、緩やかなｺﾛﾆｰを形成することがある。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、湿性草地等において確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 冬季、春季、H26 冬季、春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内、実施区域外
		鶴見	対象道路事業実施区域外
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の採餌環境である淀川、鶴見緑地の水域の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本地域では本種は主に餌場の一部として利用していると考えられるものの、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な採餌環境である水辺環境の一部を改変するが、同様の環境は周辺に広く分布する。換気塔は高さが 30m～40m となるものの、横断的な大きさはなく、明かり部の橋梁構造は一部区間に限られるため、飛翔経路の著しい分断は生じない。また、本地域では本種は主に餌場の一部として利用していると考えられるものの、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(12)　重要な鳥類の予測結果（オオタカ）

項目	内容		
生態	・留鳥または漂鳥として北海道、本州、四国、九州で繁殖する。 ・低地から山地の森林に広く生息するが、主な生息地は水田や畑と森林が混在する低地から丘陵地である。中には小規模な林や都市公園内の緑地で繁殖するものもいる。 ・林の周辺、農耕地や水辺等の開けた場所で狩りを行い、ｷｼﾞやｶﾗｽ類、ﾊﾄ類等の鳥類が中心だが、ﾘｽやｳｻｷﾞ等の哺乳類も採餌する。 ・繁殖期は 2-7 月。主にｱｶﾏﾂ等の針葉樹に営巣する。早い個体では 1 月に求愛行動を開始し、4-5 月に産卵する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地、低地の樹林地等において確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 冬季、春季、H26 冬季、春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内、実施区域外
		鶴見	対象道路事業実施区域内、実施区域外
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の採餌環境である淀川沿いの樹林、草地環境は一部の改変に留まり、鶴見緑地の樹林環境の改変は生じない。また、本地域では本種は主に餌場の一部として利用していると考えられるものの、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な採餌環境である淀川沿いの草地等の一部を改変するが、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の樹林地の改変は生じない。換気塔は高さが 30m～40m となるものの、横断的な大きさはなく、明かり部の橋梁構造は一部区間に限られるため、飛翔経路の著しい分断は生じない。また、豊崎地区、鶴見地区ともに本種は主に餌場の一部として利用していると考えられるものの、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(13)重要な鳥類の予測結果（ハイタカ）

項目	内容		
生態	・四国以北の丘陵地から山地に通年生息し、北海道と本州の一部で繁殖している。冬季にはほぼ全国で見られる。 ・山地の森林に生息し繁殖する。冬季は平地から山地の林や農耕地、時には市街地にも飛来する。 ・小・中型の鳥類を主に採餌するほか、小哺乳類や昆虫類を採餌することもある。 ・産卵期は 5 月頃。ｱｶﾏﾂやｶﾗﾏﾂなどの針葉樹に営巣する。営巣環境としては、林内空間の閉じた若齢林を好む。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、低地の樹林地等において確認された。	
	確認時期	H25 冬季、H26 冬季、春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内、実施区域外
		鶴見	対象道路事業実施区域内、実施区域外
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の採餌環境である淀川沿いの樹林、草地環境は一部の改変に留まり、鶴見緑地の樹林環境の改変は生じない。また、本地域では本種は越冬や渡りの移動途中の個体が利用していると考えられ、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な採餌環境である河川沿いの草地等の一部を改変するが、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の樹林地の改変は生じない。換気塔は高さが 30m～40m となるものの、横断的な大きさはなく、明かり部の橋梁構造は一部区間に限られるため、飛翔経路の著しい分断は生じない。また、豊崎地区、鶴見地区ともに本種は越冬や渡りの移動途中の個体が利用していると考えられ、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(14)　重要な鳥類の予測結果（ノスリ）

項目	内容		
生態	・中部以北の本州、北海道で主に繁殖するが、中部以西の本州、四国、九州北部等でも少数が繁殖している。冬季は、北海道、本州、四国、九州で広く越冬する。 ・平地から低山にかけての開けた林から林縁部、あるいは農耕地や草地に生息し餌をとる。大きな河川の中流から下流にかけても見られる。 ・ﾈｽﾞﾐ等の小哺乳類を主に採餌するほか、両生爬虫類や昆虫を採餌することもある。 ・産卵期は4月頃。本州と四国では標高500-1300mの山地の落葉広葉樹林、ｱｶﾏﾂ林、ｶﾗﾏﾂ林、または混交林のｱｶﾏﾂ、ｶﾗﾏﾂ等にほぼ円形の巣をつくる。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の乾性草地、低地の樹林地等において確認された。	
	確認時期	H26 冬季、春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外
		鶴見	対象道路事業実施区域外
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の採餌環境である淀川、鶴見緑地の水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本地域では本種は渡りの移動途中の個体が稀に利用していると考えられ、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な生息環境である樹林等は改変しない。換気塔は高さが 30m～40m となるものの、横断的な大きさはなく、明かり部の橋梁構造は一部区間に限られるため、飛翔経路の著しい分断は生じない。また、豊崎地区、鶴見地区ともに本種は渡りの移動途中の個体が稀に利用していると考えられ、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(15)　重要な鳥類の予測結果（チュウヒ）

<table>
<tr><th>項目</th><th colspan="3">内容</th></tr>
<tr><td>生態</td><td colspan="3">・北海道、東北、中部地方を中心に繁殖し、冬季は本州中部以南のﾖｼ原等に広く生息する。
・ﾖｼ原の広がる湖、河川（下流）、潟、埋立地に生息する。
・主にﾈｽﾞﾐ類を捕食するほか、鳥類や魚類、昆虫等を捕食することもある。
・繁殖期は 4-7 月。主にﾖｼ原で繁殖し、地上にﾖｼ等を主材に台座をつくり、ｲﾈ科の植物を産座とする。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">予測地域における確認状況</td><td>確認状況</td><td colspan="2">河川の湿性草地、開放水域（淀川：本流）において確認された</td></tr>
<tr><td>確認時期</td><td colspan="2">H25 冬季、春季、H26 冬季、春季</td></tr>
<tr><td rowspan="2">確認位置</td><td>豊崎</td><td>対象道路事業実施区域内、実施区域外</td></tr>
<tr><td>鶴見</td><td>確認されなかった</td></tr>
<tr><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測</td><td colspan="3">工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の採餌環境である淀川沿いの樹林、草地環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本地域では本種は主に餌場の一部として利用していると考えられるものの、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</td></tr>
<tr><td>道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測</td><td colspan="3">道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な採餌環境である河川沿いの草地等の一部を改変するが、同様の環境は周辺に広く分布する。換気塔は高さが 40m となるものの、横断的な大きさはなく、明かり部の橋梁構造は一部区間に限られるため、飛翔経路の著しい分断は生じない。また、本地域では本種は主に餌場の一部として利用していると考えられるものの、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</td></tr>
</table>

表 8-13-30(16)　重要な鳥類の予測結果（ハヤブサ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、九州で留鳥、沖縄で冬鳥として分布する。 ・海岸地域や内陸の河川、湖沼、農耕地等に生息する。 ・主に小型-中型の鳥類を猛烈なｽﾋﾟｰﾄﾞで急襲して採餌する。 ・産卵期は 3-4 月。主に海岸や河川流域などの開けた環境にある断崖や岩場で営巣する。ﾋﾞﾙ等の人工建造物で繁殖を試みた例も知られている。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、市街地等において確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 冬季、春季、夏季、H26 冬季、春季、夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内、実施区域外
		鶴見	対象道路事業実施区域外
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の採餌環境である淀川沿いの樹林、草地環境は一部の改変に留まり、鶴見緑地の樹林環境の改変は生じない。また、本地域では本種は主に餌場の一部として利用していると考えられるものの、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な採餌環境である河川沿いの草地等の一部を改変するが、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の樹林環境の改変は生じない。換気塔は高さが 30m～40m となるものの、横断的な大きさはなく、明かり部の橋梁構造は一部区間に限られるため、飛翔経路の著しい分断は生じない。また、本地域では本種は主に餌場一部として利用していると考えられるものの、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(17)　重要な鳥類の予測結果（チョウゲンボウ）

項目	内容		
生態	・本州中部以北と北海道で繁殖し、主に本州、四国、九州で越冬する。 ・平地や丘陵の草原、農耕地、海岸の干潟等の開けた場所に生息し、採餌する。河川の中流から河口にかけての開けた場所でも見られる。 ・ﾈｽﾞﾐ等の小哺乳類、鳥類、大型の昆虫類等を採餌する。 ・産卵の大部分は 4-5 月。かつては限られた崖地でのみ営巣していたが、近年、人工建造物での営巣例が増えている。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の市街地、低地の市街地等において確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 冬季、春季、夏季、H26 冬季、春季、夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内、実施区域外（営巣地1箇所）
		鶴見	対象道路事業実施区域内、実施区域外（営巣地1箇所）
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の営巣地が対象道路事業実施区域周辺（事業実施区域から豊崎地区で約 250 m(地表部施工箇所から約 650m)、鶴見地区で約 100 m）で確認されており、対象道路事業実施区域内及びその周辺においても多くの繁殖行動が確認されている。 騒音・振動及び人の存在による工事箇所周辺での繁殖活動への影響が考えられるが、豊崎地区では地表部施工箇所と本種の生息地とは影響が生じない程度に十分離れていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。 また、本種の営巣地の改変は生じないほか、餌場となる淀川の改変はごく一部に限られ、営巣環境となる大川、鶴見緑地の改変は生じない。 これらのことから、工事の実施による本種の営巣・生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の営巣地及びその周辺をトンネル構造で通過するため、改変は生じない。 換気塔は高さが 30m～40m となるものの、横断的な大きさはなく、明かり部の橋梁構造は一部区間に限られるため、飛翔経路の著しい分断は生じない。また、本種の営巣地の改変は生じないほか、餌場となる淀川の改変はごく一部に限られ、営巣環境となる大川、鶴見緑地の改変は生じない。 これらのことから、道路の存在による本種の営巣環境及び生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(18)　重要な鳥類の予測結果（クイナ）

項目	内容		
生態	・主に北海道、及び本州の一部で繁殖し、関東以南の本州、四国、九州で越冬する。 ・平地から低山の湖沼、水田、湿地等の周辺の茂った草地に生息する。 ・草本の種子、昆虫、両生類、甲殻類等、さまざまな物を採餌する。 ・繁殖期は 5-8 月。湿地、水田、ため池のﾖｼ原等で営巣する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H26 春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 1 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、生息に適した湿性草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息地の改変は無く、生息に適した湿性草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(19)　重要な鳥類の予測結果（ヒクイナ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、九州に生息し、本州中部以西では留鳥だが、北日本のものは冬季に暖地へ移動する。 ・平地から低山の湖沼や河川、水田、湿地等の周囲の茂った植生の中に生息する。 ・昆虫類や両生類、小魚、ｲﾈ科植物の種子等を採餌する。 ・繁殖期は 5-8 月。草地の中等に営巣する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 1 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、生息に適した湿性草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息地の改変は無く、生息に適した湿性草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(20)　重要な鳥類の予測結果（オオバン）

項目	内容		
生態	・主に北海道、本州中部以北で繁殖するが、近畿、九州でも少数が繁殖し、本州、四国、九州で越冬する。 ・平地の湖沼、池、河川等に生息する。 ・雑食性で、水面上を泳ぎながら昆虫類や甲殻類のほか、植物の葉や種子を採餌する。 ・繁殖期は 4-8 月。草むらの中の水面に枯れ草を積み重ねて営巣する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、低地の開放水域（鶴見緑地）等において 84 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季、春季、H26 冬季、春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内 2 箇所、対象道路事業実施区域外 67 箇所
		鶴見	対象道路事業実施区域外 15 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した流れの緩やかな水域の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の水域の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息に適した流れの緩やかな水域の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、鶴見緑地の水域の改変は生じない。また、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(21)　重要な鳥類の予測結果（コチドリ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、九州に夏鳥として渡来する。渡りの時期には各地に現れ、九州以南では越冬する個体もいる。 ・河川敷、河川の中洲、河口、干潟、埋め立て地、海岸等の砂礫地や裸地に生息する。 ・昆虫等の小動物を採餌する。 ・繁殖期は 4-7 月。地上に小石や貝殻等を敷いて簡単な巣をつくる。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）、乾性草地において 6 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季、H26 春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内 2 箇所、対象道路事業実施区域外 4 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、橋脚以外に本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(22)　重要な鳥類の予測結果（イカルチドリ）

項目	内容		
生態	・北海道では夏鳥または留鳥、本州、四国、九州では留鳥、沖縄では冬鳥として分布する。 ・大きな河川の中洲、氾濫原や扇状地等の砂礫地に生息し、特に中流域に多い。 ・昆虫類やﾐﾐｽﾞ等の小動物を採餌する。 ・繁殖期は 3-7 月。礫に窪みをつくり営巣する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 1 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では地表部施工箇所と本種の生息地とは影響が生じない程度に十分離れていることから、環境変化は生じないと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地から影響が生じない程度に十分離れているほか、生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(23)　重要な鳥類の予測結果（シロチドリ）

項目	内容		
生態	・北海道では夏鳥、本州、四国、九州、沖縄では留鳥として分布する。 ・大きい河川や砂浜海岸、埋め立て地等の砂礫地に生息する。 ・水生昆虫やﾐﾐｽﾞ、ｺﾞｶｲ類等を採餌する。 ・繁殖期は 4-7 月。地上の浅い窪みに木片や小石を敷いて営巣する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の市街地、開放水域（淀川：干潟・止水域）において 13 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季、春季、H26 冬季、春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 13 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では地表部施工箇所と本種の生息地とは影響が生じない程度に十分離れていることから、環境変化は生じないと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地から影響が生じない程度に十分離れているほか、生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(24)　重要な鳥類の予測結果（ケリ）

項目	内容		
生態	・全国的に観察され、九州以北から本州にかけて繁殖するが局地的である。本州北部の個体は夏鳥として渡来する。 ・水田、河原、荒れ地、芝原、牧草地、灌木が散在する草原など、平坦で開けた場所に生息する。冬や渡り期には、湖沼や河川の水辺、水田、干潟等に現れる。 ・地上で昆虫類や草の種子等を採餌する。 ・繁殖期は 3-6 月。田、畦、河川敷、荒れ地等に枯れ草等を敷いて営巣する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の乾性草地、市街地等において 51 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季、春季、夏季、H26 冬季、春季、夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内 2 箇所、対象道路事業実施区域外 42 箇所
		鶴見	対象道路事業実施区域外 7 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の水域の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息に適した水辺環境の改変は、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、鶴見緑地の水辺環境の改変は生じない。また、同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(25)　重要な鳥類の予測結果（ハマシギ）

項目	内容		
生態	・全国に旅鳥として渡来するほか、本州以南で多数が越冬する。 ・干潟や海岸、大きな河川、内陸の湿地等に群れで生息する。 ・貝類、ｺﾞｶｲ類、甲殻類、ﾐﾐｽﾞ、昆虫等を採餌する。 ・繁殖期は 5-7 月。ﾕｰﾗｼｱ大陸北部や北ｱﾒﾘｶ北部、ｱｲｽﾗﾝﾄﾞ、ｸﾞﾘｰﾝﾗﾝﾄﾞで繁殖する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）において 3 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 3 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な生息環境である水辺環境の一部を改変するが(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(26)　重要な鳥類の予測結果（ツルシギ）

項目	内容		
生態	・国内では、主に渡りの時に通過するが、関東以西では越冬することがある。 ・干潟や河口でも見られるが、水田やﾊｽ田、湖沼等の内陸の淡水湿地に好んで生息する。 ・昆虫類やﾐﾐｽﾞ類等を採餌するほか、ｶｴﾙ等の比較的大きい動物も採餌する。 ・繁殖期は 5-6 月。ｽｶﾝｼﾞﾅﾋﾞｱ半島北部からﾛｼｱ極東北部の高緯度地域で繁殖する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の乾性草地において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 1 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では地表部施工箇所と本種の生息地とは影響が生じない程度に十分離れていることから、環境変化は生じないと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地から影響が生じない程度に十分離れているほか、生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(27)　重要な鳥類の予測結果（アオアシシギ）

項目	内容		
生態	・全国に旅鳥として渡来し、沖縄以南では越冬する個体もいる。 ・干潟や河口、内陸の水田や湿地等に小群で観察されることが多い。 ・昆虫、甲殻類、ﾐﾐｽﾞ等を採餌する。 ・繁殖期は 4-7 月。ｽｶﾝｼﾞﾅﾋﾞｱ半島からｼﾍﾞﾘｱ東部までのﾕｰﾗｼｱ大陸の高緯度地域で繁殖する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）において 4 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 4 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の主要な生息環境である水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な生息環境である水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(28)　重要な鳥類の予測結果（キアシシギ）

項目	内容		
生態	・全国に旅鳥として普通に渡来し、多い時には 100 羽を超える群れをつくることもある。南西諸島では少数が越冬する。 ・干潟や河口、埋立地、砂浜等に生息し、内陸の湿地、河川でもよく見られる。 ・昆虫、甲殻類等を採餌する。 ・繁殖期や繁殖についてはあまりわかっていない。7 月に巣が見つかり、8 月に雛が観察されている。ｼﾍﾞﾘｱで繁殖する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）、開放水域（淀川：本流）において 11 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季、H26 春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 11 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の主要な生息環境である水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な生息環境である水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(29)　重要な鳥類の予測結果（イソシギ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、九州で繁殖し、本州中部以南では越冬する。 ・河川や池沼、干潟、砂浜等、様々な水辺に単独で生息していることが多い。 ・昆虫のほか、軟体動物、甲殻類、ｸﾓ等も採餌する。 ・繁殖期は 4-7 月。地上に砂地を浅く掘り枯れ草等を置いて営巣する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）、開放水域（淀川：本流）等において 63 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 冬季、春季、夏季、H26 冬季、春季、夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内 3 箇所、対象道路事業実施区域外 60 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の主要な生息環境である水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な生息環境である水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(30)　重要な鳥類の予測結果（ソリハシシギ）

項目	内容		
生態	・旅鳥として春と秋に渡来するが、越冬することもある。本州南西部や九州、沖縄等は少数が冬季にも生息する。 ・干潟や河口、岩礁、砂浜、水田等に単独から数羽の群れで渡来し、数十羽の群れになることもある。 ・昆虫、小甲殻類等を採餌する。 ・5-7 月、ｽｶﾝｼﾞﾅﾋﾞｱ半島からｼﾍﾞﾘｱ東部までのﾕｰﾗｼｱ大陸の高緯度地域で繁殖する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）、市街地において 5 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 5 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の主要な生息環境である水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な生息環境である水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(31)　重要な鳥類の予測結果（チュウシャクシギ）

項目	内容		
生態	・春と秋に渡来するが、九州以南では少数が越冬する。 ・干潟や砂浜、岩礁、河口、農耕地等の様々な環境に、単独から数十羽の群れで生息する。 ・昆虫、ｶﾆ、ｶｴﾙ等を採餌する。 ・繁殖期は 6-7 月。ﾕｰﾗｼｱ大陸、北ｱﾒﾘｶ、ｸﾞﾘｰﾝﾗﾝﾄﾞの高緯度地域で繁殖する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、開放水域（淀川：干潟・止水域）において 4 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 4 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した水辺環境の改変は無く、同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(32)　重要な鳥類の予測結果（ウミネコ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、九州、及び周辺の島で繁殖する。非繁殖期は、本州、四国、九州等に広く生息する。 ・沿岸や周辺の離島で集団営巣する。冬季は、本州以南の海岸や河口に多数見られる。 ・魚、さまざまな死骸、生ｺﾞﾐ等を採餌する。 ・繁殖期は 4-7 月。海岸の岩場等の地上で、集団で営巣する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）において 2 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季、夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内 1 箇所、対象道路事業実施区域外 1 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の生息地とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、現地での確認は、本種の主要な生息環境である沿岸部からは遠いため、探餌等のための飛翔確認と考えられる。採餌環境等の一部が(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部の工事によりごく一部が改変されるが、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の主な採餌環境である水辺環境のごく一部を改変するが、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(33)　重要な鳥類の予測結果（コアジサシ）

項目	内容		
生態	・本州、四国、九州、南西諸島に夏季渡来して繁殖する。 ・河川の中洲や湖沼、海岸、埋立地等の砂礫地に生息し、ｺﾛﾆｰを作って繁殖する。 ・水辺を活発に飛び回り、水中にﾀﾞｲﾋﾞﾝｸﾞして小魚を捕らえる。 ・繁殖期は 5-7 月。砂地に窪みを掘り営巣する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、低地の開放水域（鶴見緑地）において 43 箇所で確認された。コアジサシの飛翔等は確認されたものの、コアジサシの繁殖は確認されなかった。	
	確認時期	H25 春季、夏季、H26 春季、夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内 2 箇所、対象道路事業実施区域外 31 箇所
		鶴見	対象道路事業実施区域外 10 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した河川敷の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布すること、鶴見緑地の水域の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息に適した河川敷の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布すること、鶴見緑地の水域の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(34)　重要な鳥類の予測結果（コミミズク）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、九州で越冬する。 ・草原性のﾌｸﾛｳで、農耕地、河川敷、埋立地等開けた環境に生息する。 ・夕方や早朝に主に活動し、ﾈｽﾞﾐや小鳥等を採餌する。 ・繁殖期は 5-8 月。ﾕｰﾗｼｱ大陸の北部や北ｱﾒﾘｶ大陸等で繁殖する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 1 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息地の改変は無く、生息に適した水辺環境は広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(35)　重要な鳥類の予測結果（カワセミ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、沖縄では留鳥として分布する。 ・平地から低山の湖沼、河川、湿地、用水路等の水辺で生息し、海岸や島嶼で見られることもある。 ・水に飛び込んで、魚を採餌する。 ・繁殖期は 3-8 月で。河川や池の岸、土砂採取場跡等の垂直な土質の壁に、深さ 50-100cm の巣穴を堀り卵を産む。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の開放水域（鶴見緑地）、河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）において 19 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 冬季、春季、夏季、H26 夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 6 箇所
		鶴見	対象道路事業実施区域外 13 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の水域等の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路により(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の水域等の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(36)　重要な鳥類の予測結果（ヒバリ）

項目	内容		
生態	・九州以北から北海道までの全国で繁殖する。積雪の多い地方では冬に南下して越冬し、留鳥あるいは漂鳥として生息する。 ・牧場、草原、河原、農耕地、埋立て地に生息するが、丈の低い草が疎らに生え、露出した地面の多い乾燥地を好む。 ・地上を交互歩行しながら餌をあさり、草の実や昆虫を採餌する。 ・4 月初旬から 7 月まで繁殖する。雌だけで地上に巣をつくり、外装にはﾖﾓｷﾞの枯れ葉、ﾀﾞｲｽﾞの枯れ枝、ﾒﾋｼﾊﾞの枯れ葉や茎を用い、内装には主にｲﾈ科の枯れた根を使う。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の乾性草地、湿性草地において 4 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 冬季、春季、夏季、H26 冬季、春季、夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 4 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した河川敷草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した河川敷草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(37)　重要な鳥類の予測結果（ビンズイ）

項目	内容		
生態	・中部以北で主に繁殖し、西日本では局地的に繁殖する。冬季は、北日本のものは南へ移動する。 ・北海道や東北地方では、海岸から山地までに普通に生息する。 ・草本の種子や昆虫等を採餌する。 ・4 月下旬に繁殖地に渡来し、5-8 月までに年 2 回繁殖する。巣は林縁の草の根元、崖、土手の窪み等にある例が多く、皿形か浅い椀形である。外装はｲﾈ科の枯れた茎や葉を主材にしてつくり、内装にはﾔﾏﾄﾞﾘｾﾞﾝﾏｲの綿毛や植物の細根、または菌糸束を利用する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の乾性草地において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 1 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した河川敷草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した河川敷草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(38)　重要な鳥類の予測結果（ヒレンジャク）

項目	内容		
生態	・全国に広く渡来する。 ・冬季に全国の低山から平野部、農耕地、市街地等に渡来する。 ・樹木の果実を採餌する。 ・ｼﾍﾞﾘｱ、中国北部、ｱﾑｰﾙ川周辺、ｳｽﾘｰで繁殖する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の樹林地等において 3 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 3 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では地表部施工箇所と本種の生息地とは影響が生じない程度に十分離れていることから、環境変化は生じないと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、生息に適した樹林環境に変化は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地から影響が生じない程度に十分離れているほか、生息に適した樹林環境に変化は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(39)　重要な鳥類の予測結果（コルリ）

項目	内容		
生態	・本州中部以北に夏鳥として渡来し、本州中部以南では渡りの時期に渡来する。 ・低山から亜高山帯の落葉広葉樹林、針葉樹林の混交林に生息する。地上近くの下枝がよく繁った林を好む。春秋の渡り期には山麓の林を通過するので、平地の森林や公園等で見られることがある。 ・昆虫やｸﾓ等の小動物を採餌する。 ・繁殖期は 5-7 月。比較的高地の落葉広葉樹林、特に低木やｻｻが繁茂した林内で営巣し餌をとる。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H26 夏季	
	確認位置	豊崎	確認されなかった
		鶴見	対象道路事業実施区域外 1 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の主要な生息環境である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(40)　重要な鳥類の予測結果（ルリビタキ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国等で繁殖し、本州、四国、九州で越冬する。 ・亜高山帯の針葉樹林で繁殖し、平地から山地の林、都市公園等で越冬する。 ・昆虫や樹木の果実等を採餌する。 ・繁殖期は 5-8 月。巣は、岩の間や下、樹木の根の間や下等の、穴蔵のような隠れたところを選ぶ。巣は椀形で、外装は蘚類、地衣類、草等、内装は落ち葉、ｼﾀﾞ類の仮根、獣毛等でつくる。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季	
	確認位置	豊崎	確認されなかった
		鶴見	対象道路事業実施区域外 1 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の主要な生息環境である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(41)　重要な鳥類の予測結果（ノビタキ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州北・中部では夏鳥、本州南西部、四国、九州、沖縄では旅鳥とされるが、一部の高原では繁殖する。 ・背の低い草原に生息し、潅木や草の根元で営巣する。渡りの時期には平地の水田や河原を通過し、潅木の先や杭、草の葉先等に止まることが多い。 ・昆虫等を採餌する。 ・繁殖期は 5-8 月。巣は草むらの中の窪みや石の下の窪み等、地上の隠されたところにつくり、たいてい土くれ、石、草等からなるひさし型のｶﾊﾞｰがある。巣は椀形で、外装は草の茎や枯れ葉、根等でつくり、内装は細い茎や根、植物の綿毛、獣毛、羽毛等でつくる。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地、河川の乾性草地において 2 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内 1 箇所
		鶴見	対象道路事業実施区域外 1 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の主要な生息地である、河川の乾性草地の一部が改変されるもののごく一部に限られるほか、鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な生息環境である河川の乾性草地の一部が改変されるもののごく一部に限られるほか、鶴見緑地の樹林地の改変は生じない。また、本種の生息に適した乾性草地、樹林環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(42)　重要な鳥類の予測結果（オオヨシキリ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、九州等に夏季渡来して繁殖する。 ・河川や休耕田等のﾖｼ原に生息する。 ・草地内を移動しながら鱗翅類の幼虫やｸﾓ類等を採餌する。 ・繁殖期は 5-8 月。ﾖｼの茎に営巣する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地、乾性草地等において 62 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季、夏季、H26 春季、夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内 5 箇所、対象道路事業実施区域外 57 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息する湿性草地、乾性草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した湿性草地、乾性草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(43)　重要な鳥類の予測結果（メボソムシクイ）

項目	内容		
生態	・北海道では夏鳥、本州、四国、九州では夏鳥または旅鳥として分布する。 ・主として亜高山帯から高山帯にかけての針葉樹林や針広混交林、落葉広葉樹林に生息する。 ・昆虫等を採餌する。 ・繁殖期は 6-8 月。亜高山帯の針葉樹林や標高の高い地域の針広混交林の林内で営巣する。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において 4 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 春季	
	確認位置	豊崎	確認されなかった
		鶴見	対象道路事業実施区域外 4 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の主要な生息環境である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(44)　重要な鳥類の予測結果（エゾムシクイ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、九州等に夏季渡来して繁殖する。 ・亜高山帯から高山帯にかけての針葉樹林や落葉広葉樹林及び針広広葉樹林に生息する。 ・昆虫等を採餌する。 ・繁殖期は 6-8 月。倒木の根元や崖地の窪み等の地上に、横に出入りのある球状の巣をつくる。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地、湿性草地において 2 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H26 夏季	
	確認位置	豊崎	確認されなかった
		鶴見	対象道路事業実施区域外 2 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の主要な生息環境である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(45)　重要な鳥類の予測結果（センダイムシクイ）

項目	内容		
生態	・夏鳥として北海道、本州、四国、九州に渡来する。 ・平地から山地の雑木林等の落葉広葉樹林に生息する。 ・主に昆虫類を採餌する。 ・繁殖期は 5-7 月。地上の窪みに営巣する。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において 3 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H26 夏季	
	確認位置	豊崎	確認されなかった
		鶴見	対象道路事業実施区域外 3 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の主要な生息環境である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(46)　重要な鳥類の予測結果（キクイタダキ）

項目	内容		
生態	・中部以北の本州、北海道等で繁殖し、北海道、本州、四国、九州等で越冬する。 ・平地から山地にかけての針葉樹林・針広混交林の林内・林縁に生息し餌をとる。 ・針葉樹の枝先で、昆虫やｸﾓを採餌する。 ・繁殖期は 6-8 月。針葉樹の枝に、ｺｹ、ｸﾓの糸、樹皮等で椀形の巣をつくる。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季	
	確認位置	豊崎	確認されなかった
		鶴見	対象道路事業実施区域外 1 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の主要な生息環境である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(47)　重要な鳥類の予測結果（セッカ）

項目	内容		
生態	・留鳥として、本州、四国、九州、南西諸島に分布し、北方の個体は冬に暖地に移動する。 ・平地から山地の草原や農耕地に生息する。 ・草地内を移動しながら昆虫類、ｸﾓ類を採餌する。 ・繁殖期は 4-9 月。ｲﾈ科植物をｸﾓの糸でつづって営巣する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地、乾性草地等において 68 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季、春季、夏季、H26 冬季、春季、夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内 6 箇所、対象道路事業実施区域外 62 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息する湿性草地、乾性草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。湿性草地、乾性草地環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した湿性草地、乾性草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(48)　重要な鳥類の予測結果（キビタキ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、九州で夏鳥として分布する。 ・平地から山地の広葉樹林に生息し、樹冠下の空間が広がる高木の林を好む。渡りの時期には市街地の公園でも観察される。 ・飛翔昆虫や葉上の昆虫等を飛びながら採餌する。 ・繁殖期は 5-7 月。樹洞や樹幹の割れ目に営巣する。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において 16 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 2 箇所
		鶴見	対象道路事業実施区域外 14 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では地表部施工箇所と本種の生息地とは影響が生じない程度に十分離れていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地である河川沿いの樹林地や鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の主要な生息環境である河川沿いの樹林地や鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(49)　重要な鳥類の予測結果（オオルリ）

項目	内容		
生態	・夏鳥として北海道、本州、四国、九州に渡来する。 ・低山帯から亜高山帯の幅広く分布し、様々なﾀｲﾌﾟの森林に生息する。渡りの時期には市街地の公園でも観察される。 ・主に昆虫を採餌する。 ・繁殖期は 5-8 月。主に渓流に面した崖の窪みに営巣する。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において 3 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 春季、H26 春季	
	確認位置	豊崎	確認されなかった
		鶴見	対象道路事業実施区域外 3 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の主要な生息環境である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(50)　重要な鳥類の予測結果（エゾビタキ）

項目	内容		
生態	・通過個体が定期的に渡来する。秋の渡り時に主に見られ、春の記録は稀である。 ・平地から山地にかけての山林またはその林縁部に出現し、餌をとる。 ・主に飛翔昆虫を採餌するほか、木の実も採餌する。 ・中国東北部、ｳｽﾘｰ、ｻﾊﾘﾝ、千島列島、ｶﾑﾁｬｯｶ半島で繁殖する。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地、河川の市街地において 6 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H26 夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内 1 箇所
		鶴見	対象道路事業実施区域外 5 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区の生息地は市街地であり移動途中のものと考えられること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、豊崎地区の本種の生息地が改変されるが市街地であり移動途中のものと考えられること、本種の主要な生息地である鶴見緑地の樹林地の改変は無く、本種の生息環境である樹林環境の変化は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は豊崎地区の本種の生息地を改変するが市街地であり移動途中のものと考えられること、本種の主要な生息環境である鶴見緑地の樹林地の改変は無く、本種の生息に適した樹林環境の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(51)　重要な鳥類の予測結果（コサメビタキ）

項目	内容		
生態	・夏鳥として北海道、本州、四国、九州に渡来する。 ・平地から低山の様々なﾀｲﾌﾟの森林に生息する。 ・横枝にとまって、空中に飛び出し飛翔昆虫を採餌する。 ・繁殖期は 5-7 月。高木の枝上に営巣する。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において 5 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季	
	確認位置	豊崎	確認されなかった
		鶴見	対象道路事業実施区域外 5 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の主要な生息環境である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(52)　重要な鳥類の予測結果（サンコウチョウ）

項目	内容		
生態	・本州、四国、九州、南西諸島等に夏季渡来して繁殖する。 ・平地から 1000m 以下の山地に生息し、沢沿いの明るい広葉樹林やｽｷﾞ、ﾋﾉｷの植林地で見られる。 ・主に昆虫を採餌する。 ・繁殖期は 5-8 月。樹木の枝の股にｺｹやｱｶﾏﾂの葉等を利用して営巣する。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎	確認されなかった
		鶴見	対象道路事業実施区域外 1 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の主要な生息環境である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-30(53)　重要な鳥類の予測結果（ホオアカ）

項目	内容		
生態	・北日本の草地、西南日本では高原で繁殖する。 ・北海道、本州、四国、九州で繁殖し、本州、四国、九州で越冬する。 ・繁殖期には昆虫類、ｸﾓ類等を採餌し、非繁殖期には、草本の種子等を採餌する。 ・繁殖期は 5-7 月。巣は草むらの間や草株の上、藪の枝の上等に置くようにつくり、草や葉の茂みにうまく隠されている。巣は椀形で、外装には枯れ草、細根を、内装には細い茎や根、ｼﾀﾞ類の仮根、獣毛等を使う。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域外 1 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した湿性草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した湿性草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(54)　重要な鳥類の予測結果（カシラダカ）

項目	内容		
生態	・冬鳥として全域に現れ、本州以南で越冬する。 ・冬は低地や低山帯の農耕地、雑木林、疎林、湖畔や川辺のﾖｼ原や藪地で見られ、秋・春は亜高山帯の湿地周辺に現れる。 ・主としてｲﾈ科、ｶﾔﾂﾘｸﾞｻ科、ﾀﾃﾞ科、ﾏﾒ科等の種子を採餌するほか、昆虫も採餌する。 ・繁殖期は 5-7 月。ﾕｰﾗｼｱ大陸の高緯度地方で繁殖する。		
予測地域における確認状況	確認状況	豊崎地区において確認された。	
	確認時期	H26 春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域及びその周辺
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した湿性草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した河川の湿性草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(55)　重要な鳥類の予測結果（アオジ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州で繁殖し、主に本州以南で越冬する。 ・冬季は平地から低山にかけての林内や林縁あるいは湖沼・河川・農耕地のﾖｼ原を含む草原に生息し餌をとる。 ・昆虫、植物の種子等を採餌する。 ・繁殖期は 5-7 月。地上 1-2m ぐらいの藪の中の枝の叉上に乗せるようにつくる。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地、低地の樹林地等において 48 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季、春季、H26 冬季、春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内 6 箇所、対象道路事業実施区域外 26 箇所
		鶴見	対象道路事業実施区域外 16 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息する湿性草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、鶴見緑地の改変は生じない。同様の環境は周辺に広く分布し、鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した湿性草地は周辺に広く分布し、鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-30(56)　重要な鳥類の予測結果（オオジュリン）

項目	内容		
生態	・北海道に夏鳥として渡来し、本州中部以南で越冬する。 ・湖沼、河川敷、農耕地等のﾖｼ原に生息する。 ・嘴でﾖｼの葉鞘をはがしたり茎を割って、中にいる昆虫を採餌する。 ・繁殖期は 5-7 月。巣は草株の根元の地上や草株の上、藪の小枝の中等に置くようにつくる。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において 24 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季、春季、H26 冬季、春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内 6 箇所、対象道路事業実施区域外 18 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息する湿性草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。同様の環境は周辺に広く分布しすることから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した湿性草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

c） 爬虫類

調査地域に存在すると考えられる重要な爬虫類の予測結果は、表 8-13-31 に示すとおりです。

表 8-13-31　重要な爬虫類の予測結果（ニホンスッポン）

項目	内容		
生態	・日本の固有亜種。北海道を除く本土に在来分布する。奄美諸島のものは移入種。 ・平地から低山地の緩やかな流れや池沼、湖沼等に生息する。 ・主に昼間活動して魚、甲殻類、昆虫類、両生類等を採餌する。 ・4-6 月に交尾し、6-8 月、岸に穴を掘って 10-40 個を産卵する。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の開放水域（鶴見緑地）において 2 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季、夏季	
	確認位置	豊崎	確認されなかった
		鶴見	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 2 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である鶴見緑地の水域を改変することはなく、周辺には同様の環境が分布する。また、トンネル・掘割工事による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする鶴見緑地の水域から影響が生じない程度に十分離れており、周辺には同様の環境が分布する。また、地下構造物による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

d） 両生類

調査地域に存在すると考えられる重要な両生類の予測結果は、表 8-13-32 に示すとおりです。

表 8-13-32　重要な両生類の予測結果（トノサマガエル）

項目	内容		
生態	・本州、四国、九州に分布する。 ・平地、丘陵地に生息し、4-6 月に水田、浅い池等で繁殖する。 ・ｸﾓ、昆虫、ﾑｶﾃﾞ等のほか、ｶｴﾙも採餌する。 ・4-6 月に 1 回、水田、溝、池等の浅い止水で繁殖する。1,800-3,000 個の卵塊を水底に産む。幼生は 6 月下旬-9 月に変態し、上陸する。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地、河川の乾性草地等において 9 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 春季、夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域から 250m 以内 2 箇所
		鶴見	対象道路事業実施区域から 250m 以内 6 箇所・250m 以遠 1 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である鶴見緑地の水域、湿性草地及び豊崎地区の河川敷湿地環境を改変することはなく、周辺には同様の環境が分布する。また、トンネル・掘割工事による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な生息環境を改変することはなことはなく、周辺には同様の環境が分布する。地下構造物による鶴見緑地の水域等の水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

e) 魚類

予測地域に存在すると考えられる重要な魚類の予測結果は、表 8-13-33(1)～(8)に示すとおりです。

表 8-13-33(1)　重要な魚類の予測結果（ニホンウナギ）

項目	内容		
生態	・北海道（日高地方、石狩川）、本州、四国、九州、沖縄に分布する。 ・仔魚は黒潮にのって4-5ヶ月後に体の透明なｼﾗｽｳﾅｷﾞへと変態しながら日本の沿岸に現われ、やがてｸﾛｺ（体色が黒くなった幼魚）となって河川を遡る。一生を河口域で過ごすものもいる。河川を遡ったものは、そこで 5-10 数年間を過ごし、成熟したものは秋に海に下る。 ・夜行性で、暗くなると泳ぎ出て水生昆虫類、魚類等を採餌する。 ・産卵期は 4-12 月、産卵場はﾌｨﾘﾋﾟﾝ東方海域といわれる。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、開放水域（淀川：干潟・止水域）において 2 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎(淀川･大川)	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所・250m 以遠 1 箇所
		鶴見(大池･古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息環境である河川の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。また、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、上下流にも生息に適した河川環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-33(2)　重要な魚類の予測結果（シロヒレタビラ）

項目	内容		
生態	・濃尾平野を中心とする伊勢湾周辺域と琵琶湖から岡山県高梁川水系に至る本州中西部の瀬戸内周辺域に分布する。 ・砂礫底の河川ならびに湖沼に生息する。 ・付着性藻類を主食とする雑食性魚。 ・4 月下旬-7 月、ﾀﾃﾎﾞｼ、ｾﾀｲｼｶﾞｲ、ﾄﾞﾌﾞｶﾞｲ等に産卵する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 夏季	
	確認位置	豊崎(淀川･大川)	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所
		鶴見(大池･古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である淀川の改変は確認箇所下流の(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、影響が生じない程度に十分離れている。河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。また、上下流にも生息に適した河川環境が分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地から影響が生じない程度に十分離れているほか、上下流にも生息に適した河川環境が分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-33(3)　重要な魚類の予測結果（ワタカ）

項目	内容		
生態	・琵琶湖水系の固有種とされるが、江戸期までは三方湖（福井県）にも分布していたとの記録がある。現在では、除草目的や湖産ｱﾕの放流に混じって移殖されたものが、関東平野、北陸地方、岡山平野、島根県（宍道湖）、山口県、福岡県等、国内各地に生息している。 ・本流ではあまり確認されず、河川敷に点在するﾜﾝﾄﾞ等で多く見られる。 ・暖期には水草を好んで食べ、特に夏季には水生植物を飽食する。ｴﾋﾞ類、水生昆虫等も採餌する。 ・産卵期は 6-8 月。産卵数は多く、移植地で相当数の繁殖が見られる。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（古川）において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 夏季	
	確認位置	豊崎(淀川･大川)	確認されなかった
		鶴見(大池･古川)	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である古川を改変することはなく、周辺の土工事に際しては、必要に応じて裸地の整形を行うことのほか、仮設沈砂池の設置により適切に管理・処理し、公共下水道へ排水することから濁水による環境変化は生じない。これらのことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地から影響が生じない程度に十分離れているほか、上下流にも生息に適した河川環境が分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-33(4)　重要な魚類の予測結果（ハス）

項目	内容		
生態	・琵琶湖水系のほか、三方湖（福井県）にも生息するが、近年、三方湖では生息が確認されていない。日本固有亜種。かつて盛んに行われた琵琶湖産稚ｱﾕの放流に混じって移殖された結果、現在では、北海道を除く各地の河川、湖沼での生息が確認されている。 ・日本産ｺｲ科魚類の中では数少ない魚食性の魚であり、体長 18cm 以上の成魚ではほぼ魚類専食となる。ただし、体長 7cm 以下のものは、動物ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝを専食する。 ・産卵期の 5 月下旬-8 月中旬になると成魚は産卵のため接岸または流入河川に遡上し、流れの緩やかな砂または砂礫地で産卵する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（大川）において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季	
	確認位置	豊崎(淀川･大川)	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所
		鶴見(大池･古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地である大川では地表部の工事は行わないことから河川への影響は生じない。また、本種の生息環境は広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が確認された大川を地下構造で通過することから生息河川の改変は生じない。また、上下流にも生息に適した河川環境が分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-33(5)　重要な魚類の予測結果（アユ）

項目	内容		
生態	・北海道西部以南の日本各地に分布する（奄美大島・沖縄島のものは別亜種）。 ・全長 8-10cm の個体が集団で遡上し、石礫のある瀬で定着する。 ・石に付着した珪藻類を採餌する際、櫛状の歯によって、はみあとができる。 ・産卵期は、北方では 8 月下旬-9 月、南方では 10 月下旬-12 月。孵化した仔魚は海に下ったあと、春になると遡上する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（大川）において確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎(淀川･大川)	対象道路事業実施区域及びその周辺
		鶴見(大池･古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地である大川では地表部の工事は行わないことから河川への影響は生じない。また、本種の生息環境は広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が確認された大川を地下構造で通過することから生息河川の改変は生じない。また、上下流にも生息に適した河川環境が分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-33(6)　重要な魚類の予測結果（ミナミメダカ）

項目	内容		
生態	・岩手県南部以南の本州太平洋側、四国、九州及び対馬や屋久島等周辺の島嶼、京都府から山口県までの日本海側、奄美諸島、沖縄諸島に分布する。 ・平野部の河川や湖沼、水田地帯の用水路等に生息し、止水や緩流域を好む。 ・水面付近で群れを作り動物ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝや小型の落下昆虫等を採餌する。 ・産卵期は 4 月中旬-8 月頃。産卵は早朝に雌雄がﾍﾟｱとなって行われる。雌は受精後の卵をしばらく腹に付けたまま泳ぎ、やがて水草等に産み付ける。5-6 月に生まれた個体の一部は夏の終わりまでに成熟するが、多くは翌年春に成熟し、産卵後に死亡する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、開放水域（淀川：干潟・止水域）において 3 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 春季、夏季	
	確認位置	豊崎(淀川･大川)	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所・250m 以遠 2 箇所
		鶴見(大池･古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息環境である河川の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。また、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、上下流にも生息に適した河川環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-33(7)　重要な魚類の予測結果（シマヒレヨシノボリ）

項目	内容		
生態	・自然分布域は、瀬戸内海沿岸地域の中・東部から大阪湾を経て紀伊水道に至る沿岸地域と推察される。 ・池や沼、それにつながる水路、河川では中流域から下流域のﾜﾝﾄﾞ、入り江状の河岸、堰堤上流の溜まり、河川敷にある池、本流の暖流部等の止水域に生息し、泥底を好む。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の開放水域（鶴見緑地）において 8 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 春季	
	確認位置	豊崎(淀川･大川)	確認されなかった
		鶴見(大池･古川)	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 8 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である鶴見緑地の水域を改変することは無い。また、トンネル・掘割工事による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする鶴見緑地の水域から影響が生じない程度に十分離れており、周辺には同様の環境が分布する。また、地下構造物による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-33(8)　重要な魚類の予測結果（旧トウヨシノボリ）

項目	内容		
生態	・未熟個体のため同定が困難であったため、型不明の旧トウヨシノボリとした。ただし、シマヒレヨシノボリの可能性がある。 ・生態については、シマヒレヨシノボリを参照。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の開放水域（鶴見緑地）において 3 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 夏季	
	確認位置	豊崎(淀川･大川)	確認されなかった
		鶴見(大池･古川)	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 3 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である鶴見緑地の水域を改変することは無い。また、トンネル・掘割工事による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする鶴見緑地の水域から影響が生じない程度に十分離れており、周辺には同様の環境が分布する。また、地下構造物による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

f） 昆虫類

予測地域に存在すると考えられる重要な昆虫類の予測結果は、表 8-13-34(1)～(20)に示すとおりです。

表 8-13-34(1)　重要な昆虫類の予測結果（キイトトンボ）

項目	内容		
生態	・本州、四国、九州に分布し、佐渡島、隠岐、見島、壱岐、対馬、五島列島、甑島列島、大隅諸島等の島々をふくむ広い地域に生息している。 ・成虫・幼虫ともに主に平地ないし低山地の抽水植物や沈水植物が茂る池沼や、湿地の浅い滞水・水田・水郷のほとんど流れを感じない溝川等に生息する。 ・幼虫・成虫とも肉食。草間を低く飛んで餌を探し、草にとまっている小虫や、ｸﾓの幼生を追い立てて狩る性質がある。 ・水辺の抽水植物の水面にただよう生葉や沈水植物等にとまり、その水面直下の生態組織内に産卵する。水面に浮かぶ柔らかい植物の枯死組織に産卵することもある。静岡県では 5 月中旬-9 月上旬、三重県北部や愛知県西部では、5 月下旬頃-9 月まで見られる。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の湿性草地において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H26 夏季	
	確認位置	豊崎	確認されなかった
		鶴見	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である鶴見緑地の水域及び湿性草地を改変することはなく、溜池及び周辺の湿地環境の改変も生じない。また、トンネル・掘割工事による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする鶴見緑地の水域から影響が生じない程度に十分離れており、溜池及び周辺の湿地環境の改変も生じない。また、地下構造物による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-34(2)　重要な昆虫類の予測結果（セスジイトトンボ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、九州に分布し、佐渡島、見島、五島列島、甑島列島等の島々にも生息している。 ・主に平地や丘陵地の抽水植物や浮葉植物あるいは沈水植物が茂る池沼や湖、水郷のほとんど流れの無い溝川等に生息する。 ・幼虫・成虫とも肉食。 ・主に浮葉植物や沈水植物の水面直下の生態組織内へ産卵するが、水面にただよう植物の柔らかい枯死組織内へ産むこともある。しばしば雄とともに完全に水中に潜って潜水産卵する。東海地方では 5 月初旬から 9 月末まで、四国南部では 10 月まで見られるが、盛夏の候に最も多い。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 夏季、H26 夏季	
	確認位置	豊崎	確認されなかった
		鶴見	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である鶴見緑地の水域及び周辺樹林等を改変することはなく、溜池及び周辺の樹林環境の改変も生じない。また、トンネル・掘割工事による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする鶴見緑地の水域及び周辺樹林等から影響が生じない程度に十分離れており、溜池及び周辺の樹林環境の改変も生じない。また、地下構造物による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-34(3)　重要な昆虫類の予測結果（アオサナエ）

項目	内容		
生態	・日本特産種で本州、四国、九州に分布する。 ・平地から丘陵地の川の中流域に生息する。 ・幼虫・成虫とも肉食。 ・水面上でﾎﾊﾞﾘﾝｸﾞし、腹端に卵塊を作って、その重みで落下する産卵を行う（停止飛翔産卵）。また、卵塊が出来るたびに打水産卵を行う場合もある。東海地方では 4 月下旬-7 月下旬まで見られる。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地は影響が生じない程度に十分離れているほか、本種の生息に適した河川環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地から影響が生じない程度に十分離れており、また、本種の生息に適した河川環境は改変されないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-34(4)　重要な昆虫類の予測結果（ホンサナエ）

項目	内容		
生態	・日本特産種で北海道、本州、四国、九州に分布する。 ・平地から丘陵地の川の中流域に生息する。 ・幼虫・成虫とも肉食。 ・成熟した雄は川岸の土の上に静止して雌を待つ。雌は単独で河畔の植物等に静止し、腹端に卵塊を作って飛び立ち、1-2 回打水産卵する。東海地方では 4 月初旬-6 月末頃まで見られ、5 月の連休明けくらいに最も多い。近畿地方では 4 月中旬-7 月下旬の記録があり、琵琶湖北部では 5 月中旬に羽化のﾋﾟｰｸを迎える。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（大川）において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地である大川では地表部の工事は行わないことから河川への影響は生じない。また、本種の生息環境は広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が確認された大川を地下構造で通過することから生息河川の改変は生じない。また、生息に適した河川環境は広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-34(5)　重要な昆虫類の予測結果（ウチワヤンマ）

項目	内容		
生態	・青森から鹿児島にいたる本州、四国、九州に分布し、粟島・佐渡島・壱岐・平戸島・五島列島等の島々にも産する。 ・主に平地や丘陵地の抽水植物や浮葉植物が茂る大きく深い池沼や湖等に生息し、水郷地域のﾖｼやﾏｺﾓ・ｶﾞﾏ等が生える溝川にも産する。 ・幼虫・成虫とも肉食。 ・腹端で浮遊物を断続的に打って産卵する。東海地方では 5 月下旬-9 月中旬まで見られ、滋賀県では 11 月の採集記録もある。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の開放水域（鶴見緑地）、樹林地において 7 箇所、及び豊崎地区で確認された。	
	確認時期	H25 夏季、H26 夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域及びその周辺
		鶴見	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 7 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息に適した河川等の水域の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の水域及び湿性草地を改変することはなく、溜池及び周辺の湿地環境の改変も生じない。また、トンネル・掘割工事による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の水域及び周辺樹林地から影響が生じない程度に十分離れており、溜池及び周辺の樹林環境の改変も生じない。また、地下構造物による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-34(6)　重要な昆虫類の予測結果（オオサカサナエ）

項目	内容		
生態	・琵琶湖とこれに流入・流出する河川に分布・生息する種であるが、三重県の雲出川でも記録がある。 ・幼虫は河川の本流部に生息する。 ・幼虫・成虫とも肉食。 ・岸辺の植物の葉上にとまって産卵弁の間に卵塊を蓄え、適度な卵塊ができると水面を訪れて打水産卵する。また長時間一定水域の上を数十 cm 以下の低空で敏速に飛びまわりながら周期的に打水産卵することもある。成虫は 6 月上旬-10 月上旬の記録があるが、7 月下旬-9 月上旬に多い。雄は水面を低く飛んで雌を探す。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の市街地において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地である大川では地表部の工事は行わないことから河川への影響は生じない。また、本種の生息環境は広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が確認された大川を地下構造で通過することから生息河川の改変は生じない。また、生息に適した河川環境は広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-34(7)　重要な昆虫類の予測結果（コフキトンボ）

項目	内容		
生態	・北海道の一部、本州、四国、九州、南西諸島に分布する。 ・ヨシ等のある開放的な池沼や緩やかな流れ、河川敷等に生息する。 ・幼虫・成虫とも肉食。 ・水面をただよう浮遊物等に腹端を連続的に打って産卵する。東海地方では 5 月中旬-10 月初め頃まで見られる。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の市街地、湿性草地等において 5 箇所、及び鶴見地区で確認された。	
	確認時期	H25 春季、夏季、H26 夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所・250m 以遠 4 箇所
		鶴見	対象道路事業実施区域及びその周辺
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息に適した河川等の水域の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の水域及び湿性草地を改変することはなく、溜池及び周辺の湿地環境の改変も生じない。また、トンネル・掘割工事による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の水域から影響が生じない程度に十分離れており、溜池及び周辺の湿地環境の改変も生じない。また、地下構造物による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-34(8)　重要な昆虫類の予測結果（ヨツボシトンボ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、九州に分布する。 ・平地から山地のﾖｼ、ﾋﾒｶﾞﾏ等の抽水植物が繁茂する水が涸れないような池沼に生息し、幼虫は水底の植物遺体の間に潜んでいる。 ・幼虫・成虫とも肉食。 ・繁茂する抽水植物の間に潜り込んだり、その際のごく浅い水面上を 10cm 前後の高さでﾎﾊﾞﾘﾝｸﾞしながら、腹端で連続飛水して産卵する。東海地方では 4 月下旬-6 月下旬、また高知県では 4 月初旬-6 月中旬にかけて出現する。		
予測地域における確認状況	確認状況	鶴見地区において確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎	確認されなかった
		鶴見	対象道路事業実施区域及びその周辺
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である鶴見緑地の水域及び湿性草地を改変することはなく、溜池及び周辺の湿地環境の改変も生じない。また、トンネル・掘割工事による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする鶴見緑地の水域から影響が生じない程度に十分離れており、溜池及び周辺の湿地環境の改変も生じない。また、地下構造物による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-34(9)　重要な昆虫類の予測結果（アキアカネ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、九州に分布する。 ・平地から低山地の水田や湿地、池沼等に生息し、幼虫は沈積物の陰や泥の上等にうずくまっている。羽化した個体は山地の頂上付近や渓流沿い等に移動して成熟を待ち、秋に羽化場所に戻って生息活動を行う。 ・幼虫・成虫とも肉食。 ・腹端で水面や水際の湿った泥面を連続的に打ちつけ、ときには少しずつ前方へ移動しながら継続する。東海地方では通常 6 月上旬-12 月中旬まで見られ、5 月初めの羽化記録もある。		
予測地域における確認状況	確認状況	豊崎地区において確認された。	
	確認時期	H24 秋季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域及びその周辺
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息に適した河川等の水域の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した河川等の水域は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-34(10)　重要な昆虫類の予測結果（ノシメトンボ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、九州に分布し、南千島の国後島・飛島・粟島・佐渡島・隠岐・見島・壱岐・対馬・天草諸島・甑島列島等の島々にも産する。 ・主に平地から低山地の水際に植物が繁茂する水深の浅い開放的な池沼や水田、溝川等に生息する。 ・幼虫・成虫とも肉食。 ・抽水植物の繁茂する水域や穂をたれた稲田に飛来し、植物のすぐ上を停滞気味に超ｽﾛｰﾃﾝﾎﾟで飛びながら、草丈すれすれの空間を連続的に腹端で打って卵をふりとばすようにばらまく。東海地方では6月中旬-11月末頃に見られ、7-10月に多い。		
予測地域における確認状況	確認状況	鶴見地区において確認された。	
	確認時期	H25 夏季	
	確認位置	豊崎	確認されなかった
		鶴見	対象道路事業実施区域及びその周辺
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である溜池や湿性草地を改変することはなく、トンネル・掘割工事による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする溜池や湿地環境の改変は生じない。また、地下構造物による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-34(11)　重要な昆虫類の予測結果（ウスヒラタゴキブリ）

項目	内容		
生態	・本州、四国、九州、南西諸島に分布する。 ・照葉樹林の林縁部やﾏﾝﾄ群落、広葉樹の葉間に生息する。 ・卵鞘は光沢のない灰褐色で、葉面に付着されると考えられる。年に 2 世代くらいで、幼虫でも冬を越すと考えられる。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息に適した湿性草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布するほか、樹林環境の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した湿性草地は周辺に広く分布するほか、樹林環境の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-34(12)　重要な昆虫類の予測結果（ミスジチョウ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、九州、奥尻、対馬に分布する。 ・主に山地の樹林等に生息する。 ・地上で給水したり、獣糞に集まる。幼虫はｶｴﾃﾞ科のｲﾀﾔｶｴﾃﾞ、ﾔﾏﾓﾐｼﾞ等を採餌する。4 齢幼虫で越冬する。 ・成虫は年 1 回、5-6 月に出現し、梢付近を飛ぶ。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H26 夏季	
	確認位置	豊崎	確認されなかった
		鶴見	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である樹林等から影響が生じない程度に十分離れており、樹林環境の改変も生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする樹林等から影響が生じない程度に十分離れており、樹林環境の改変も生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-34(13)　重要な昆虫類の予測結果（ウスアオリンガ）

項目	内容		
生態	・近畿地方以西の本州、四国、九州、対馬に分布する。 ・低山地から山地の落葉広葉樹林、照葉樹林に生息する。 ・成虫は年 2 回、6-9 月に出現する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の樹林地において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である淀川右岸樹林等を改変することはなく、周辺の樹林環境の改変も生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする淀川右岸樹林等から影響が生じない程度に十分離れており、周辺の樹林環境の改変も生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-34(14)　重要な昆虫類の予測結果（ハマベミズギワゴミムシ）

項目	内容		
生態	・本州、九州に分布する。 ・河口付近のｱｼ原に多い。		
予測地域における確認状況	確認状況	豊崎地区において確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域及びその周辺
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息に適した水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息に適した水辺の改変は、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-34(15)　重要な昆虫類の予測結果（スジヒラタガムシ）

項目	内容		
生態	・本州、四国、九州に分布する。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の開放水域（鶴見緑地）において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎	確認されなかった
		鶴見	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である鶴見緑地の水域を改変することはなく、溜池及び周辺の湿地環境の改変も生じない。また、トンネル・掘割工事による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする鶴見緑地の水域から影響が生じない程度に十分離れており、溜池及び周辺の湿地環境の改変も生じない。また、地下構造物による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-34(16)　重要な昆虫類の予測結果（ドウガネブイブイ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、九州、種子島、屋久島、対馬に分布する。 ・ブドウ・スギ等の害虫として知られ、その葉を食害する。 ・また、夜間燈火によく飛来する。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 夏季	
	確認位置	豊崎	確認されなかった
		鶴見	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である樹林環境を改変することは無いことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする樹林環境から影響が生じない程度に十分離れており、樹林環境の改変も生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-34(17)　重要な昆虫類の予測結果（ジュウクホシテントウ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、九州に分布する。 ・河川のﾖｼ原等に生息する。 ・成虫、幼虫ともにﾖｼにつくｱﾌﾞﾗﾑｼ類等を採餌する。 ・成虫は 4-8 月に見られる。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において 14 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季、夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内 1 箇所、対象道路事業実施区域から 250m 以内 3 箇所・250m 以遠 10 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息に適した水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-34(18)　重要な昆虫類の予測結果（モンスズメバチ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、九州に分布する。 ・営巣場所は比較的大きな樹木の空洞が多く、人家の屋根裏等につくることもある。いずれの場合も閉鎖されて暗い空間を選ぶ。 ・餌は大型の昆虫類で、ｾﾐ類を最も好む。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季	
	確認位置	豊崎	確認されなかった
		鶴見	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である樹林環境を改変することは無いことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする樹林環境から影響が生じない程度に十分離れており、樹林環境の改変も生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-34(19)　重要な昆虫類の予測結果（キアシハナダカバチモドキ）

項目	内容		
生態	・本州、四国、九州に分布する。 ・海岸や河川下流域の砂地に生息する。 ・ﾊﾞｯﾀ類を狩り、地中に営巣する。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地、市街地等において 7 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 夏季、H26 夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域から 250m 以内 2 箇所・250m 以遠 1 箇所
		鶴見	対象道路事業実施区域から 250m 以内 2 箇所・250m 以遠 2 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息に適した水辺や樹林地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した水辺や樹林地は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-34(20)　重要な昆虫類の予測結果（キバラハキリバチ）

項目	内容		
生態	・本州、九州に分布する。 ・夏季出現し、地中に営巣する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H26 夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息に適した湿性草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した湿性草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

g) クモ類

予測地域に存在すると考えられる重要なクモ類の予測結果は、表 8-13-35(1)～(4)に示すとおりです。

表 8-13-35(1)　重要なクモ類の予測結果（キシノウエトタテグモ）

項目	内容		
生態	・東北地方南部以南の本州、四国、九州に分布する。 ・人家近くの崖地や、神社・仏閣の石垣の間、旧家の庭先等に、横穴を掘って生息する。横穴の入口には、糸で裏打ちされた開閉式の蓋がある。 ・近くを通る昆虫やﾜﾗｼﾞﾑｼを捕獲し、横穴に引き込んで摂食する。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季	
	確認位置	豊崎	確認されなかった
		鶴見	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地は、影響が生じない程度に十分離れている、また、本種の生息に適した樹林等の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地から影響が生じない程度に十分離れており、また、本種の生息に適した樹林等の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-35(2)　重要なクモ類の予測結果（コガネグモ）

項目	内容		
生態	・本州中・南部、四国、九州、南西諸島に分布する。 ・樹枝間や草間、人家の軒下等に大きな垂直円網を張る。 ・成熟期は 6-7 月。卵のうは扁平で木の葉状のものである。		
予測地域における確認状況	確認状況	豊崎地区において確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域及びその周辺
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息環境である河川敷草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は、周辺にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、上下流側にも生息に適した河川敷草地が広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-35(3)　重要なクモ類の予測結果（カコウコモリグモ）

項目	内容		
生態	・本州中部以南、九州に分布する。 ・河口付近の葦の草間に生息する。 ・成体は 3 月下旬-6 月に見られる。		
予測地域における確認状況	確認状況	豊崎地区において確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域及びその周辺
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息環境である河川敷草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、本種の生息に適した河川敷草地は、周辺にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、上下流側にも生息に適した河川敷草地が広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-35(4)　重要なクモ類の予測結果（テジロハリゲコモリグモ）

項目	内容		
生態	・本州、九州に分布する。 ・平地から山地にかけて生息する。畑地や草原の湿った場所や池の縁等に見られる。 ・成体は 4-8 月に見られる。		
予測地域における確認状況	確認状況	豊崎地区において確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域及びその周辺
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息環境である河川敷草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、本種の生息に適した河川敷草地は、周辺にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、上下流側にも生息に適した河川敷草地が広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

h) 底生動物（昆虫類以外）

予測地域に存在すると考えられる重要な底生動物（昆虫類以外）の予測結果は、表 8-13-36(1)～(11)に示すとおりです。

表 8-13-36(1)　重要な底生動物の予測結果（ハベカワニナ）

項目	内容		
生態	・琵琶湖・淀川水系の固有種である。 ・砂礫地に生息し、穏やかな流れの礫間の砂地にかたまっている。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（大川）、開放水域（淀川：本流）において 3 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季、春季	
	確認位置	豊崎(淀川･大川)	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所・250m 以遠 2 箇所
		鶴見(大池･古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地である大川及び淀川大堰上流側では地表部の工事は行わないことから河川への影響は生じない。また、本種の生息環境下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が確認された大川及び淀川大堰上流側を地下構造で通過することから生息河川の改変は生じない。また、上下流にも生息に適した河川環境が分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-36(2)　重要な底生動物の予測結果（クロダカワニナ）

項目	内容		
生態	・本州（東海地方、近畿地方、中国地方東部）に分布する。 ・流れの緩やかなところや止水域に生息し、泥底や礫底、ときには沈水植物等に付着している。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（大川）において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎(淀川･大川)	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所
		鶴見(大池･古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地である大川では地表部の工事は行わないことから河川への影響は生じない。また、本種の生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が確認された大川を地下構造で通過することから生息河川の改変は生じない。また、本種の生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-36(3)　重要な底生動物の予測結果（カワグチツボ）

項目	内容		
生態	・東京湾、東北から九州北部に分布する。 ・淡水の影響する内湾奥部や潟湖、河口汽水域の干潮時、浅場となる泥上やｱﾅｱｵｻやｼｵｸﾞｻ等の葉上に生息し、ｳﾐｺﾞﾏﾂﾎﾞとしばしば混生する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H26 冬季	
	確認位置	豊崎(淀川･大川)	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所
		鶴見(大池･古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地の干潟・止水域を改変することはなく、周辺の河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。これらのことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地の干潟・止水域から影響が生じない程度に十分離れていることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-36(4)　重要な底生動物の予測結果（カワザンショウガイ）

項目	内容		
生態	・青森以南の本州、四国、九州に分布する。 ・河川の汽水域、ｱｼ原の泥上。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の市街地(人工物)、開放水域（淀川：干潟・止水域）等において 7 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季、春季、H26 冬季、秋季	
	確認位置	豊崎(淀川･大川)	対象道路事業実施区域内 1 箇所、対象道路事業実施区域から 250m 以内 3 箇所・250m 以遠 3 箇所
		鶴見(大池･古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息環境である河川の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。また、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-36(5)　重要な底生動物の予測結果（ウミゴマツボ）

項目	内容		
生態	・本州（太平洋側は宮城県以南、日本海側は新潟県以南）、四国、九州に分布する。 ・内湾や河口の汽水域の砂泥や岩礫上、ﾋﾄｴｸﾞｻ等の葉上に生息する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）において 2 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季、H26 冬季	
	確認位置	豊崎(淀川･大川)	対象道路事業実施区域内 1 箇所、対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所
		鶴見(大池･古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息環境である河川の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。また、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-36(6)　重要な底生動物の予測結果（ミズゴマツボ）

項目	内容		
生態	・本州（太平洋側は青森県以南、日本海側は新潟県以南）、四国、九州に分布する。 ・汽水域の最奥部で、僅かに潮の影響がある場所のﾖｼ原泥底に生息する。内陸の良好な状態の水田等に海進時の遺存的な個体群が存在していることもある。 ・繁殖期は 6-8 月と推定されている。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）において 6 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季、H26 冬季	
	確認位置	豊崎(淀川･大川)	対象道路事業実施区域から 250m 以内 3 箇所・250m 以遠 3 箇所
		鶴見(大池･古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息環境である河川の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。また、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-36(7)　重要な底生動物の予測結果（ドブガイ）

項目	内容		
生態	・水のある池、川の流れ込み、水田の用水路等の泥底に生息する。 ・水中の有機物やプランクトンをろ過して食べる。グロキディウム幼生は、メダカ、ヨシノボリなどのヒレ等に寄生して育つ。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（大川）において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季	
	確認位置	豊崎(淀川･大川)	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所
		鶴見(大池･古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地である大川では地表部の工事は行わないことから河川への影響は生じない。また、本種の生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が確認された大川を地下構造で通過することから生息河川の改変は生じない。また、本種の生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-36(8)　重要な底生動物の予測結果（トンガリササノハガイ）

項目	内容		
生態	・東海地方・福井県以西の本州、四国、九州北部に分布する。 ・河川や池沼の砂泥底の流れのあるところに生息する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、開放水域（大川）において 2 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎(淀川･大川)	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 2 箇所
		鶴見(大池･古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地である大川及び淀川大堰上流側では地表部の工事は行わないことから河川への影響は生じない。また、本種の生息環境下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が確認された大川及び淀川大堰上流側を地下構造で通過することから生息河川の改変は生じない。また、上下流にも生息に適した河川環境が分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-36(9)　重要な底生動物の予測結果（イシガイ）

項目	内容		
生態	・北海道南部から本州、四国、九州にかけて全面的に分布する。 ・池沼、河川、用水路等の砂泥底、砂礫泥底に生息する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、開放水域（大川）において 4 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季、春季	
	確認位置	豊崎(淀川･大川)	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所・250m 以遠 3 箇所
		鶴見(大池･古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地である大川及び淀川大堰上流側では地表部の工事は行わないことから河川への影響は生じない。また、本種の生息環境下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が確認された大川及び淀川大堰上流側を地下構造で通過することから生息河川の改変は生じない。また、上下流にも生息に適した河川環境が分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-36(10)　重要な底生動物の予測結果（ヤマトシジミ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、九州に広く分布する。 ・河川の河口周辺の汽水域や海岸沿いの汽水湖に生息する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）、開放水域（淀川：本流）において 33 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季、春季、H26 冬季、秋季	
	確認位置	豊崎(淀川･大川)	対象道路事業実施区域内 7 箇所、対象道路事業実施区域から 250m 以内 16 箇所・250m 以遠 10 箇所
		鶴見(大池･古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息環境である河川の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。また、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-36(11)　重要な底生動物の予測結果（ヨツバコツブムシ）

項目	内容		
生態	・内湾域の汀線付近の転石や漂着物の下、または泥岩や木材等に穿孔する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の市街地(人工物)、開放水域（淀川：本流）等において 7 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季、H26 秋季	
	確認位置	豊崎(淀川･大川)	対象道路事業実施区域内 1 箇所、対象道路事業実施区域から 250m 以内 5 箇所・250m 以遠 1 箇所
		鶴見(大池･古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息環境である河川の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。また、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

i） 注目すべき生息地

予測地域に存在する注目すべき生息地の予測結果は、表 8-13-37(1)～(2)に示すとおりです。

表 8-13-37(1)　注目すべき生息地の予測結果（コアジサシの集団繁殖地）

項目	内容		
生態等	・本州、四国、九州、南西諸島に夏季渡来して繁殖する。 ・河川の中洲や湖沼、海岸、埋立地等の砂礫地に生息し、ｺﾛﾆｰを作って繁殖する。 ・水辺を活発に飛び回り、水中にﾀﾞｲﾋﾞﾝｸﾞして小魚を捕らえる。 ・繁殖期は 5-7 月。砂地に窪みを掘り営巣する。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）において 33 箇所で確認された。コアジサシの飛翔等は確認されたものの、コアジサシの集団繁殖地及びその周辺における本種の繁殖は確認されなかった。	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域から 250m 以内
		鶴見	－
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、コアジサシの集団繁殖地の改変は生じないほか、本種の生息に適した河川敷の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布することから、コアジサシの集団繁殖地及びコアジサシの生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、コアジサシの集団繁殖地の近傍はトンネル構造となるため、改変は生じない。また、対象道路による生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、同様の環境は周辺に広く分布することから、コアジサシの集団繁殖地及びコアジサシの生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

注）生態、確認状況は、コアジサシの集団繁殖地周辺におけるコアジサシのものを示しています。

表 8-13-37(2)　注目すべき生息地の予測結果（淀川（西中島））

項目	内容		
生態等	・淀川区西中島のヨシ原にはヒヌマイトトンボが広範囲にわたり生息している。城北公園の北側のワンド群や本流に近接したところは、トンボ類や水生昆虫が豊富である。		
予測地域における確認状況	確認状況	ウチワヤンマ、コフキトンボ等の昆虫、ヤマトシジミ等の底生動物が確認されたが、ヒヌマイトトンボは確認されなかった。	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域から 250m 以内
		鶴見	－
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、淀川（西中島）の改変は生じないほか、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。 これらのことから、淀川（西中島）への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、淀川（西中島）は淀川を挟んで対象道路の対岸に位置し、改変は生じないことから、淀川（西中島）への影響は無いものと予測される。		

3) 環境保全措置の検討

(1) 環境保全措置の検討の状況

工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路の存在及び換気塔の存在に係る動物に関する影響について、事業者の実行可能な範囲内で、環境影響をできる限り回避又は低減することを目的として表 8-13-38 に示すとおり、環境保全措置の検討を行いました。

表 8-13-38　環境保全措置の検討の状況

環境保全措置		実施の適　否	適否の理由
回避・低減	低騒音型・低振動型建設機械の使用	適	低騒音型・低振動型の建設機械を使用することにより、対象道路事業実施区域及び周辺を生息範囲とする動物種への影響を低減することが見込まれます。
	動物の一時的移動に配慮した段階的施工	適	河川敷における植生の伐採等の施工の際、段階的な施工を行うことにより、一時回避する動物種の移動時間、移動経路の確保が見込まれます。
	工事従事者への講習・指導	適	工事区域外への立ち入りや重要な種の分布地への立ち入りを制限することにより、人為的な攪乱による影響の低減が見込まれます。

(2) 環境保全措置の実施主体、方法その他の環境保全措置の実施の内容

環境保全措置としては、「低騒音型・低振動型建設機械の使用」、「動物の一時的移動に配慮した段階的施工」及び「工事従事者への講習・指導」を実施します。

環境保全措置の実施主体は事業者です。環境保全措置の実施内容等の検討結果は表 8-13-39(1)～(3)に示すとおりです。

なお、環境保全措置の具体的な位置、仕様等については、事業実施の施工計画段階で有識者、関係機関等の意見を踏まえた上で検討することとします。

表 8-13-39（1）　環境保全措置の検討結果

実施内容	種類	低騒音型・低振動型建設機械の使用
	位置	地表部工事箇所
保全措置の効果		対象道路事業実施区域及び周辺を生息範囲とする種への影響を低減することができます。
他の環境への影響		なし

表 8-13-39（2）　環境保全措置の検討結果

実施内容	種類	動物の一時的移動に配慮した段階的施工
	位置	(仮称)豊崎ICランプ部施工箇所
保全措置の効果		河川敷を生息環境とする種の移動時間、移動経路の確保が期待できます。
他の環境への影響		なし

表 8-13-39（3）　環境保全措置の検討結果

実施内容	種類	工事従事者への講習・指導
	位置	(仮称)豊崎ICランプ部施工箇所
保全措置の効果		人為的な攪乱による影響を低減できます。
他の環境への影響		なし

4） 評価

（1） 評価の手法

① 回避又は低減に係る評価

工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在及び換気塔の存在に係る動物に関する影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて、見解を明らかにすることにより行いました。

（2） 評価の結果

① 回避又は低減に係る評価

対象道路は、主にトンネル構造を採用するとともに、明かり部・換気所については極力既存道路の敷地を利用し動物の生息環境の改変をできる限り避けた計画としています。また、明かり部については主に橋梁構造とし、土工部の区間は一部に限られるほか、トンネル開削区間等における土地改変は、区間を移動しながら施工するため、動物の移動経路の分断をできる限り避けた計画としています。さらに、換気所については、極力地下構造とすることで地上部への構造物の出現を極力避け、換気塔の幅も極力抑えた計画としています。

工事施工ヤード及び工事用道路等については、対象道路事業実施区域内及び既存道路を極力利用することで動物の生息環境の改変をできる限り避けた計画としているほか、河川内の橋脚の設置を極力回避するとともに、止水性の高い適切な仮締切工法の採用、必要に応じて仮設沈砂池等の設置を行うことで、水生動物の生息環境への影響をできる限り避けた計画としています。

予測の結果、重要な哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、クモ類、底生動物及び注目すべき生息地への影響は無い又は極めて小さいと予測されました。

また、環境保全措置として、表 8-13-39 に示す「低騒音型・低振動型建設機械の使用」、「動物の一時的移動に配慮した段階的施工」、「工事従事者への講習・指導」を実施することとしています。

これらのことから、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在及び換気塔の存在に係る動物に関する影響は、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されていると評価します。

なお、予測し得ない影響が生じた場合は、必要に応じ有識者等の助言を得ながら別途対策を講じることとします。

第14節 植物

対象道路事業実施区域及びその周辺には重要な種及び群落が確認されており、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在及び換気塔の存在に係る植物への影響が考えられるため、調査、予測及び評価を行いました。

14.1 工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在及び換気塔の存在に係る植物

1） 調査

（1） 調査の手法

① 調査した情報

a） 植物の生育の状況

植物相(維管束植物、藻類)及び植生の状況について調査しました。

b） 重要な種及び群落の状況

重要な種及び群落の状況について調査しました。

② 調査手法

a） 植物の生育の状況

植物の生育の状況の調査は、表 8-14-1 に示す現地調査により実施しました。

表 8-14-1　現地調査の手法

項目		調査手法	調査手法の解説
植物相	維管束植物	直接観察及び採取	調査地域内を踏査して、出現する種（シダ植物以上）を目視により確認し、種名を記録した。なお、現地での同定が困難な種については、採集し持ち帰って同定を行った。また、重要な種を確認した時は、確認位置及び生育状況等を記録した。
	藻類	直接観察及び採取	調査地域の主要な河川及び池を対象に踏査し、出現する種（藻類）を目視により確認し、種名を記録した。必要に応じてサンプルを採集し、分析室に持ち帰り、分析することにより、生育種の確認・記録を行った。
植生		植生調査（植物社会学的方法）	調査地域内に成立する代表的な植生について、各群落の構成種の状況を把握することを目的として、Braun- Blanquet(1964)に基づく植物社会学的手法（コドラート法）を用いて実施した。植物種の出現状況（被度・群度）、階層構造、優占種等を植生調査票に記録した。これらの結果をもとに群落を区分し、現存植生図を作成した。また、重要な植物群落の抽出を行った。

b) 重要な種及び群落の状況

(a) 重要な種及び群落の生態

重要な種及び群落の生態については、表 8-14-2 に示す図鑑、研究論文、その他の資料の収集により整理しました。

表 8-14-2　既存資料一覧

資料名	発行者	発行年月又は資料確認時点
日本の野生植物草本Ⅰ単子葉類	平凡社	昭和 57 年 1 月
日本のスゲ	文一総合出版	平成 17 年 12 月
門真市ホームページ （門真市紹介　名所、史跡、文化財）	門真市	平成 27 年 3 月現在
レッドデータブック 2014－日本の絶滅のおそれのある野生動物	(株)ぎょうせい	平成 27 年 2 月 平成 27 年 3 月
植物群落レッドデータ・ブック	(財)日本自然保護協会	平成 8 年 4 月
大阪府における保護上重要な野生生物－大阪府レッドデータブック－	大阪府	平成 12 年 3 月
兵庫の貴重な自然　兵庫県版レッドデータブック 2010（植物・植物群落）	(財)ひょうご環境創造協会	平成 22 年 3 月
京都府レッドデータブック上巻　野生生物編	京都府	平成 14 年 4 月
滋賀県で大切にすべき野生生物－滋賀県レッドデータブック 2010 年版－	滋賀県	平成 23 年 3 月

(b) 重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況

重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況については、表 8-14-3 及び表 8-14-4 に示す選定基準に該当する種及び群落について、「a) 植物の生育の状況」の調査と併せて行いました。

表 8-14-3　重要な植物種の選定基準

番号	文献及び法律名	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号） 「大阪府文化財保護条例」（昭和 44 年大阪府条例第 5 号） 「大阪市文化財保護条例」（平成 11 年大阪市条例第 5 号）	国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 府天：府指定天然記念物 市天：市指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年法律第 75 号）	国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
③	「レッドデータブック 2014　8 植物Ⅰ」（平成 27 年 3 月、環境省） 「レッドデータブック 2014　9 植物Ⅱ」（平成 27 年 2 月、環境省）	EX：我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW：野生絶滅（飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種） CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類（絶滅の危機に瀕している種） CR：絶滅危惧ⅠA 類（ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種） EN：絶滅危惧ⅠB 類（ⅠA 類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種） VU：絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種） NT：準絶滅危惧（現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種） DD：情報不足（評価するだけの情報が不足している種） LP：絶滅のおそれのある地域個体群（地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群）
④	「大阪府レッドリスト 2014」（平成 26 年 3 月、大阪府）	絶滅：絶滅（本府ではすでに絶滅したと考えられる種） Ⅰ類：絶滅危惧Ⅰ類（絶滅の危機に瀕している種） Ⅱ類：絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種） 準絶：準絶滅危惧（存続基盤が脆弱な種） 不足：情報不足（評価するだけの情報が不足している種） 要注：要注目（注目を要する種）
⑤	「改訂・近畿地方の保護上重要な植物－レッドデータブック近畿 2001－」（平成 13 年、レッドデータブック近畿研究会）	絶滅：絶滅種（近畿地方では絶滅したと考えられる種） 近Ａ：絶滅危惧種Ａ（近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種） 近Ｂ：絶滅危惧種Ｂ（近い将来における絶滅の危険性が高い種） 近Ｃ：絶滅危惧種Ｃ（絶滅の危険性が高くなりつつある種） 近準：準絶滅危惧種（生育条件の変化によっては「絶滅危惧種」に移行する要素をもつ種）

表 8-14-4　重要な群落の選定基準

番号	文献及び法律名	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号） 「大阪府文化財保護条例」（昭和 44 年大阪府条例第 5 号） 「大阪市文化財保護条例」（平成 11 年大阪市条例第 5 号）	国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 府天：府指定天然記念物 市天：市指定天然記念物
②	「植物群落レッドデータ・ブック」（平成 8 年、（財）日本自然保護協会）	保護上重要な群落として選定された植物群落 ランク 4：緊急に対策必要 ランク 3：対策必要 ランク 2：破壊の危惧 ランク 1：要注意
③	「第 3 回自然環境保全基礎調査　自然環境情報図大阪府」（平成元年、環境庁）	特定植物群落のうち以下の区分に該当するもの A：原生林もしくはそれに近い自然林 B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群 C：比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群 D：砂丘、断崖地、塩沢地、池沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの G：乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群 H：その他、学術上重要な植物群落または個体群
④	「第 4 回自然環境保全基礎調査　自然環境情報図大阪府」（平成 7 年、環境庁）	巨樹･巨木林

③ 調査地域

調査地域は、対象道路事業実施区域及びその端部から概ね 250ｍの範囲を目安としました。全域を踏査した上で、地表を改変しない又は自然度が低い都市域は対象外とし、調査地域を 2 地区（豊崎、鶴見）設定しました。

なお、植物の特性及び地形や植生の連続性を考慮しながら適宜拡大・縮小しました。

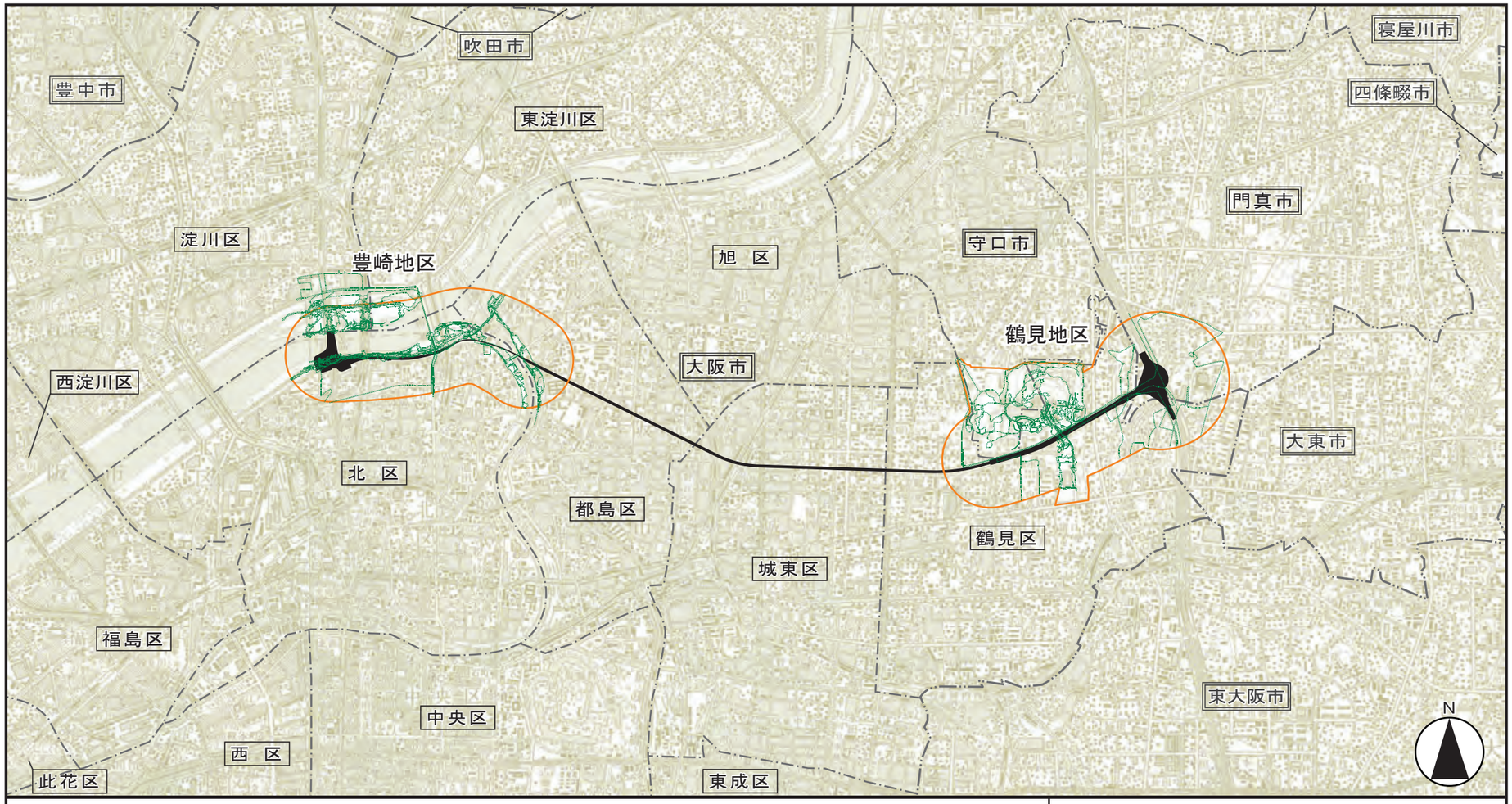
また、植生図の作成範囲については、現地調査結果に加えて、空中写真等を用いて都市域を含めて対象としました。

調査地域を図 8-14-1～図 8-14-3 に示します。

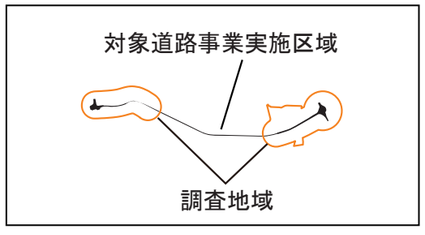
④ 調査地点

調査地点及び調査ルートは、調査対象植物の生態的な特性、周辺の地形状況、植生の連続性を踏まえ、調査地域に生育する植物を効率よく把握できる場所を設定しました。

調査地点及び調査ルートは、図 8-14-1～図 8-14-3 に示すとおりです。



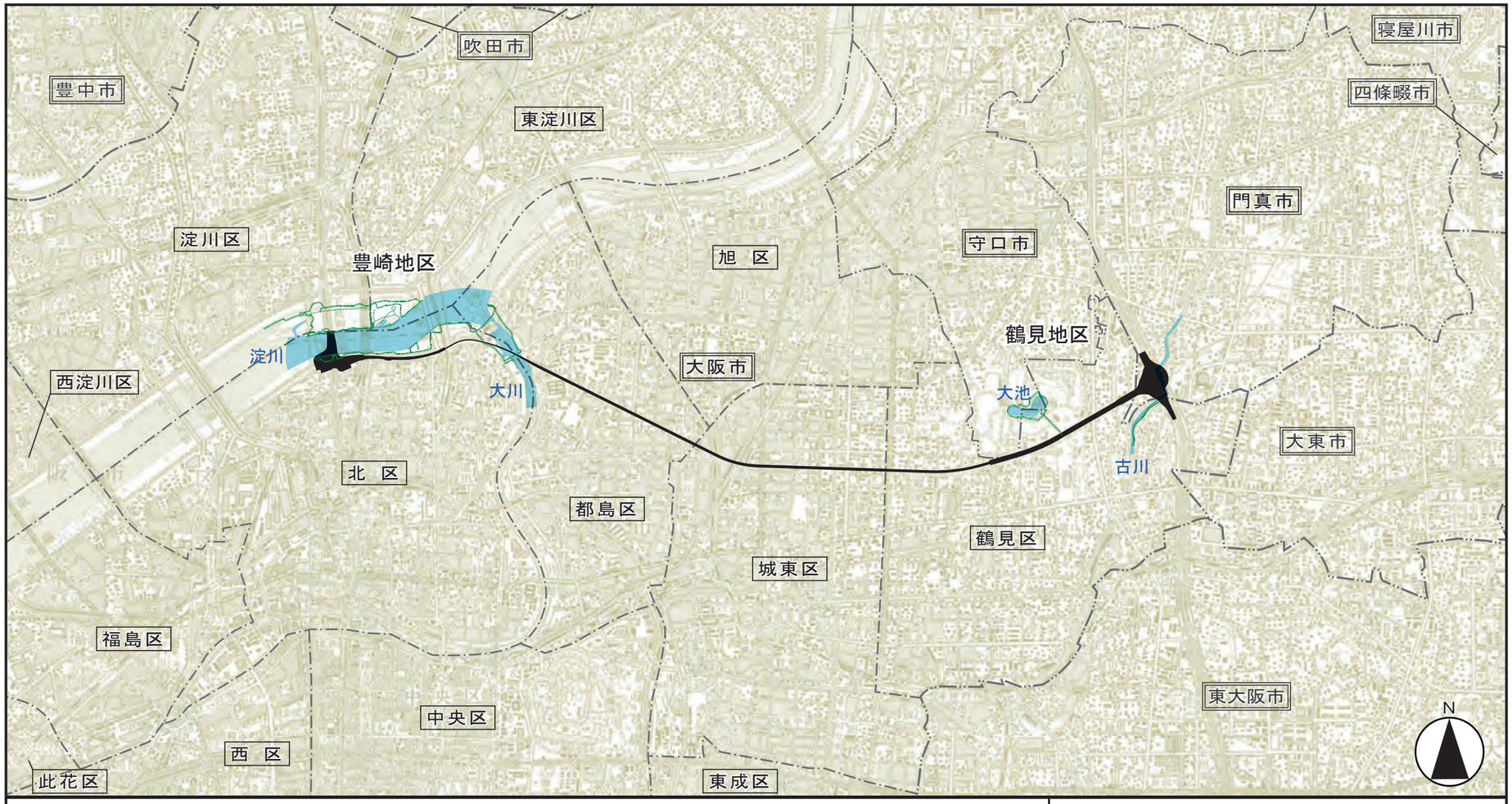
凡　　例		
記 号	名　　称	備 考
.....	踏査ルート	



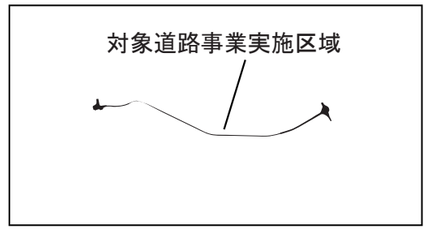
1000m　0　1　2km

Scale 1:50,000

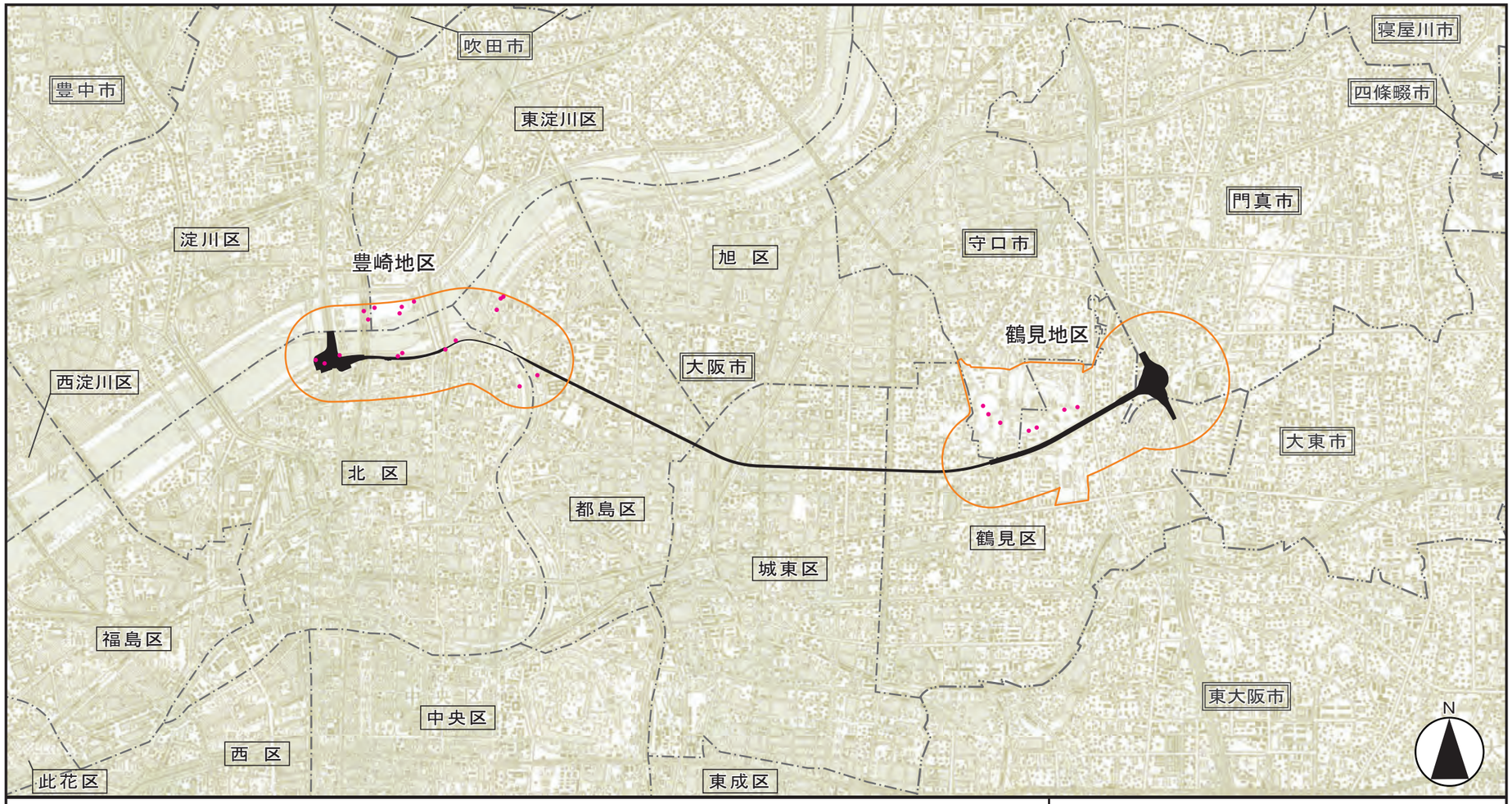
図名	図8-14-1　植物相（維管束植物）調査位置図



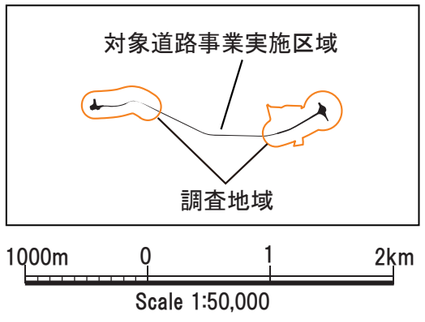
凡　　例		
記 号	名　　称	備 考
.....	踏査ルート	
	調査対象河川	



図名	図8-14-2　植物相（藻類）調査位置図



凡　　例		
記 号	名　　称	備 考
●	植生調査地点	



図名	図8-14-3　植生調査位置図

⑤ 調査期間及び時期

調査期間は、平成 24 年 10 月～平成 26 年 1 月までとしました。

調査時期等は、調査対象となる植物の生態的な特性を考慮し設定しました。

各項目の調査時期は、表 8-14-5 に示すとおりです。

表 8-14-5　調査時期

項目		調査手法	調査時期
植物相	維管束植物	直接観察及び採取	秋季：平成 24 年 10 月 9～11 日 春季：平成 25 年 5 月 13～15 日 夏季：平成 25 年 7 月 24～26 日
	藻類	直接観察及び採取	冬季：平成 25 年 1 月 21～22 日 補足：平成 26 年 1 月 30～31 日※
植生		植生調査 （植物社会学的方法）	秋季：平成 24 年 10 月 9～12 日 春季：平成 25 年 5 月 13～15 日

※重要な種の分布状況の詳細把握のため、実施した補足調査。

(2) 調査の結果

① 植物の生育の状況

現地調査結果の概要は、表 8-14-6(1)～(2)に示すとおりです。

表 8-14-6(1) 現地調査結果の概要（植物相）

項目		確認種数	重要な種
植物相	維管束植物	126 科 752 種	ミゾコウジュ、ウラギク、エゾウキヤガラ、ミコシガヤ、ワンドスゲ、シオクグの 6 種
	藻類	22 科 54 種	アヤギヌ、ホソアヤギヌ、タニコケモドキ、シャジクモの 4 種

表 8-14-6(2) 現地調査結果の概要（植生）

項目	群落等数	確認された群落分類
植生	24 群落等	河辺林、河川植生、二次草原、低木群落、樹林地、耕作地、市街地等、開放水域

a) 植物相(維管束植物)の状況

現地調査の結果、表 8-14-7 に示すとおり、126 科 752 種の維管束植物が確認されました。

確認された維管束植物は、スギナ、オニヤブソテツ、エノキ、カラムシ、イタドリ、ヨウシュヤマゴボウ、シロザ、ヒカゲイノコズチ、センニンソウ、アオツヅラフジ、ドクダミ、マメグンバイナズナ、オヘビイチゴ、ネムノキ、カタバミ、エノキグサ、センダン、ハゼノキ、ニシキギ、ノブドウ、アレチウリ、メマツヨイグサ、ノチドメ、テイカカズラ、ガガイモ、ヘクソカズラ、コヒルガオ、クコ、トキワハゼ、オオバコ、スイカズラ、ヨモギ、イヌツユクサ、メリケンカルカヤ、ヒメガマ、メリケンガヤツリ等でした。

表 8-14-7　植物相(維管束植物)確認種数一覧

No.	分類			科数	種数	調査時期		
						H24	H25	
						秋季	春季	夏季
1	シダ植物			10	17	7	11	11
2	裸子植物			7	21	14	18	8
3	被子植物	双子葉植物	離弁花類	70	344	185	261	178
4			合弁花類	24	184	80	145	93
5		単子葉植物		15	186	88	116	106
合計				126 科	752 種	100 科 374 種	112 科 551 種	105 科 396 種

注1) 分類（目名・科名・種名）は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　平成26年度生物リスト」（国土交通省、平成27年）に準拠しました。

注2) 調査時期の数値は、種数を示しています。

b) 植物相(藻類)の状況

現地調査の結果、表 8-14-8 に示すとおり、22 科 54 種の藻類が確認されました。

確認された藻類は、カサネイタランソウ、クセノコックス、サヤユレモ、アヤギヌ、シオミドロ、スジタルケイソウ、オビモドキケイソウ、ウスバアオノリ、イカダモ、サヤミドロ、ヒザオリ、シャジクモ等でした。

表 8-14-8　植物相(藻類)確認種数一覧

No.	綱名	目数	科数	種数	調査時期	
					H25	H26
					冬季	冬季
1	藍藻綱	3	3	10	10	2
2	紅藻綱	1	2	3	3	2
3	褐藻綱	1	1	1	1	1
4	珪藻綱	2	8	25	25	
5	緑藻綱	6	7	14	14	4
6	車軸藻綱※	1	1	1	1	
合計	6 綱	14 目	22 科	54 種	14 目 22 科 54 種	5 目 7 科 9 種

注1) 分類（目名・科名・種名）は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　平成26年度生物リスト」（国土交通省、平成27年）に準拠しました。

注2) 調査時期の数値は、種数を示しています。

※車軸藻綱は、魚類調査時(H25.7)に確認されました。

c） 植生の状況

現地調査の結果、表 8-14-9(1)～(2)に示すとおり、24 の群落等が確認されました。

確認された群落分類は、河辺林、河川植生、二次草原、低木群落、樹林地、耕作地、市街地等、開放水域でした。

現存植生図を図 8-14-4 に示します。

表 8-14-9(1)　植物群落の概要

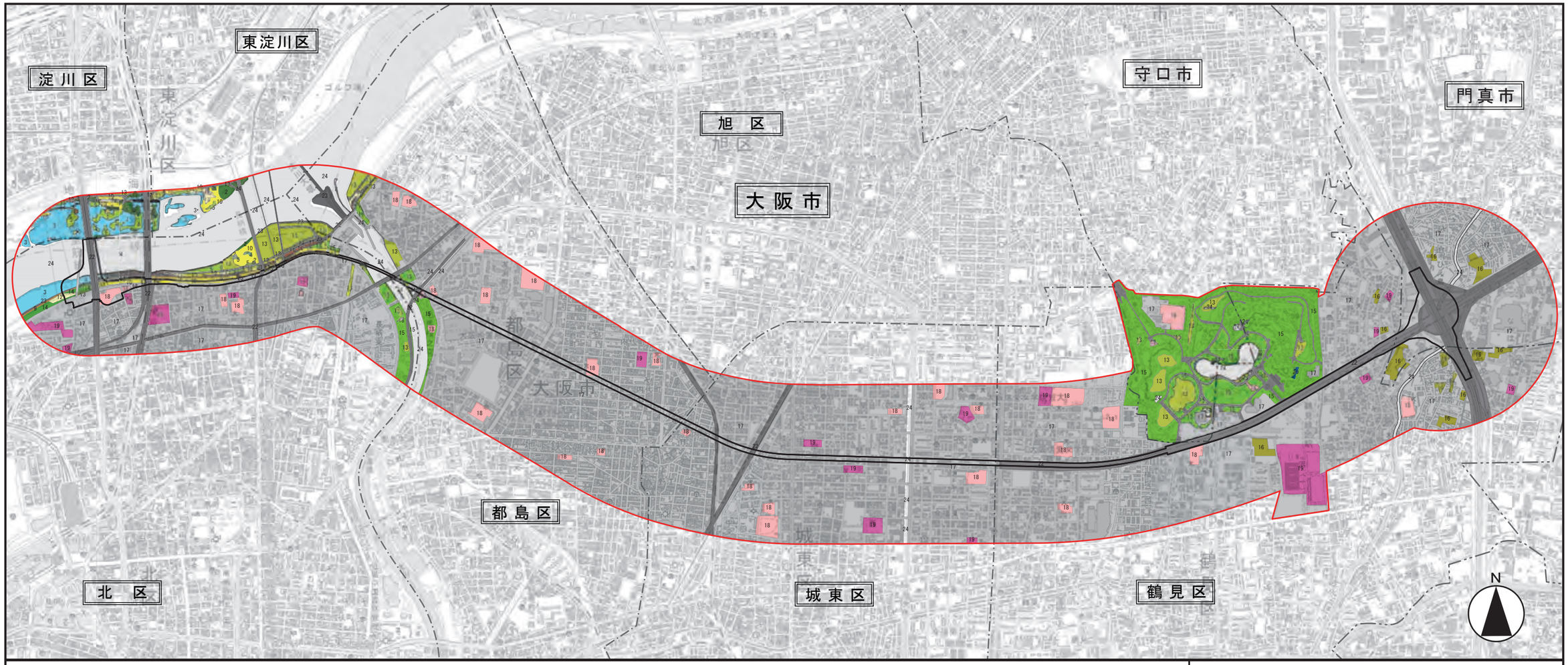
凡例番号	群落分類	群落名	階層構造と主要構成種	分布状況等
1	河辺林	ジャヤナギーアカメヤナギ群集	・高木層：ジャヤナギ、アカメヤナギ ・草本層：ヨシ、オギ等	淀川右岸河川敷のやや地盤高の低い湿潤な立地に分布
2		センダン群落	・高木層：センダン ・亜高木層：ムクノキ ・低木層：センダン、ムクノキ、ヤブツバキ	主に淀川右岸河川敷に分布
3	河川植生	ヨシ群落	・草本層：ヨシ	淀川右岸及び左岸の河川敷の水際に広く分布するほか、鶴見緑地公園の池にも小規模な群落が分布
4		セイタカヨシ群落	・草本層：セイタカヨシ、セイタカアワダチソウ、ヨモギ、ノイバラ	淀川左岸の河川敷に分布
5		オギ群集	・草本層：オギ、ヨモギ	淀川右岸及び左岸の河川敷に広く分布
6		ホザキノフサモ群落	・草本層：ホザキノフサモ	淀川右岸水路に分布
7	二次草原	オオイヌタデーオオクサキビ群落	・草本層：クサネム、オオクサキビ	淀川右岸の河川敷に分布
8		コセンダングサ群落	・草本層：コセンダングサ	淀川大堰付近に分布
9		メヒシバーエノコログサ群落	・草本層：メヒシバ、アキメヒシバ、ヨモギ	淀川左岸の堤防上に分布
10		セイタカアワダチソウ群落	・草本層：セイタカアワダチソウ、ヨモギ	淀川右岸及び左岸の河川敷から堤防法面、鶴見緑地公園の池周辺に分布
11		セイバンモロコシ群落	・草本層：セイバンモロコシ	淀川左岸の堤防上に分布
12		チガヤ群落	・草本層：チガヤ	淀川右岸及び左岸の河川敷から堤防法面に分布
13		人工草地	・草本層：ネズミムギ、コメツブツメクサ等	淀川右岸及び左岸の河川敷や堤防法面、鶴見緑地公園に分布
14	低木群落	クズ群落	・草本層：クズ	主に淀川左岸の河川堤防上に分布

表 8-14-9(2)　植物群落の概要

凡例番号	群落分類	群落名	階層構造と主要構成種	分布状況等
15	樹林地	植栽樹林群	・高木層：アカマツ、コナラ、アラカシ、シラカシ、クスノキ、ケヤキ、ソメイヨシノ、アキニレ等 ・亜高木層：クスノキ ・低木層：シラカシ、マテバシイ、ムクノキ、エノキ、トウネズミモチ、アオキ、サルスベリ、ニシキギ ・草本層：メヒシバ、エノコログサ、ヒメジョオン、ヨモギ、ヒメムカシヨモギ、ギョウギシバ、ヤブラン	淀川支流の大川沿いの公園や鶴見緑地公園にみられる植栽樹林
16	耕作地	(畑地)畑地雑草群落	－	主要地方道大阪中央環状線周辺に点在
17	市街地等	市街地	－	市街地
18		裸地・造成地	－	人工的に整備された裸地､学校のグラウンド等
19		植栽・残存樹林群をもった公園	－	市街地に点在する緑地公園等
20		人工湿地（自然体験観察園）	－	鶴見緑地内にある人工湿地。自然体験観察園として水田、溜池、ハス田が分布する。
21		自然裸地	－	淀川河川敷にみられる小規模な裸地
22		幹線道路・線路等	－	主要な幹線道路や高速道路､線路等
23		コンクリート構造物	－	淀川や淀川支流の大川の河川構造物(護岸､堤等)
24	開放水域	－	－	河川や池等の水面

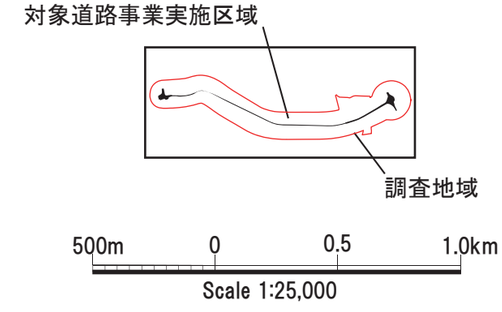
注1)凡例番号は、図8-14-4の凡例番号を示しています。

注2)表中の階層構造と主要構成種は、Braun- Blanquet(1964)に基づく植物社会学的手法（コドラート法）に基づく調査を用いて、現地調査時の植生の生育種状況を高木層は概ね8m 以上、亜高木層は概ね5m 以上、低木層は概ね0.7～5m、草本層は、地表上から概ね0.5m の高さのところに葉を茂られている植物群と区分した。



凡例

記号	番号	名称	記号	番号	名称	記号	番号	名称
	1	ジャヤナギーアカメヤナギ群集		9	メヒシバーエノコログサ群落		17	市街地
	2	センダン群落		10	セイタカアワダチソウ群落		18	裸地・造成地
	3	ヨシ群落		11	セイバンモロコシ群落		19	植栽・残存樹林をもった公園
	4	セイタカヨシ群落		12	チガヤ群落		20	人工湿地（自然体験観察園）
	5	オギ群集		13	人工草地		21	自然裸地
	6	ホザキノフサモ群落		14	クズ群落		22	幹線道路・線路等
	7	オオイヌタデーオオクサキビ群落		15	植栽樹林群		23	コンクリート構造物
	8	コセンダングサ群落		16	畑地（畑地雑草群落）		24	開放水域



図名　図8-14-4　現存植生図

② 重要な種及び群落の状況

a) 重要な種の状況

現地調査で確認された種のうち、重要な植物は、維管束植物 6 種、藻類 4 種です。

現地調査で確認された重要な植物を表 8-14-10(1)～(2)に示します。

表 8-14-10(1)　現地調査により確認された重要な植物（維管束植物）

No.	分類	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
1	種子植物	ｼｿ科	ﾐｿﾞｺｳｼﾞｭ			NT	準絶	近C
2		ｷｸ科	ｳﾗｷﾞｸ			NT	準絶	近準
3		ｶﾔﾂﾘｸﾞｻ科	ｴｿﾞｳｷﾔｶﾞﾗ					近B
4			ﾐｺｼｶﾞﾔ				準絶	近C
5			ﾜﾝﾄﾞｽｹﾞ			VU	Ⅰ類	近A
6			ｼｵｸｸﾞ				準絶	近C
合計		3 科	6 種	0 種	0 種	3 種	5 種	6 種

注）選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表8-14-3に示すとおりです。

表 8-14-10(2)　現地調査により確認された重要な植物（藻類）

No.	綱名	目名	科名	種名	選定基準			
					①	②	③	④
1	紅藻綱	ｲｷﾞｽ目	ｺﾉﾊﾉﾘ科	ｱﾔｷﾞﾇ			NT	準絶
2				ﾎｿｱﾔｷﾞﾇ			NT	準絶
3			ﾌｼﾞﾏﾂﾓ科	ﾀﾆｺｹﾓﾄﾞｷ			NT	
4	車軸藻綱	ｼｬｼﾞｸﾓ目	ｼｬｼﾞｸﾓ科	ｼｬｼﾞｸﾓ※			VU	
合計	2 綱	2 目	3 科	4 種	0 種	0 種	4 種	2 種

注）選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表8-14-3に示すとおりです。

※シャジクモは、魚類調査時(H25.7)に確認されました。

b） 重要な群落の状況

既存資料調査の結果、調査地域では「大阪府文化財保護条例」（昭和 44 年大阪府条例第 5 号)に基づく「葎島のくす」が記録されています。

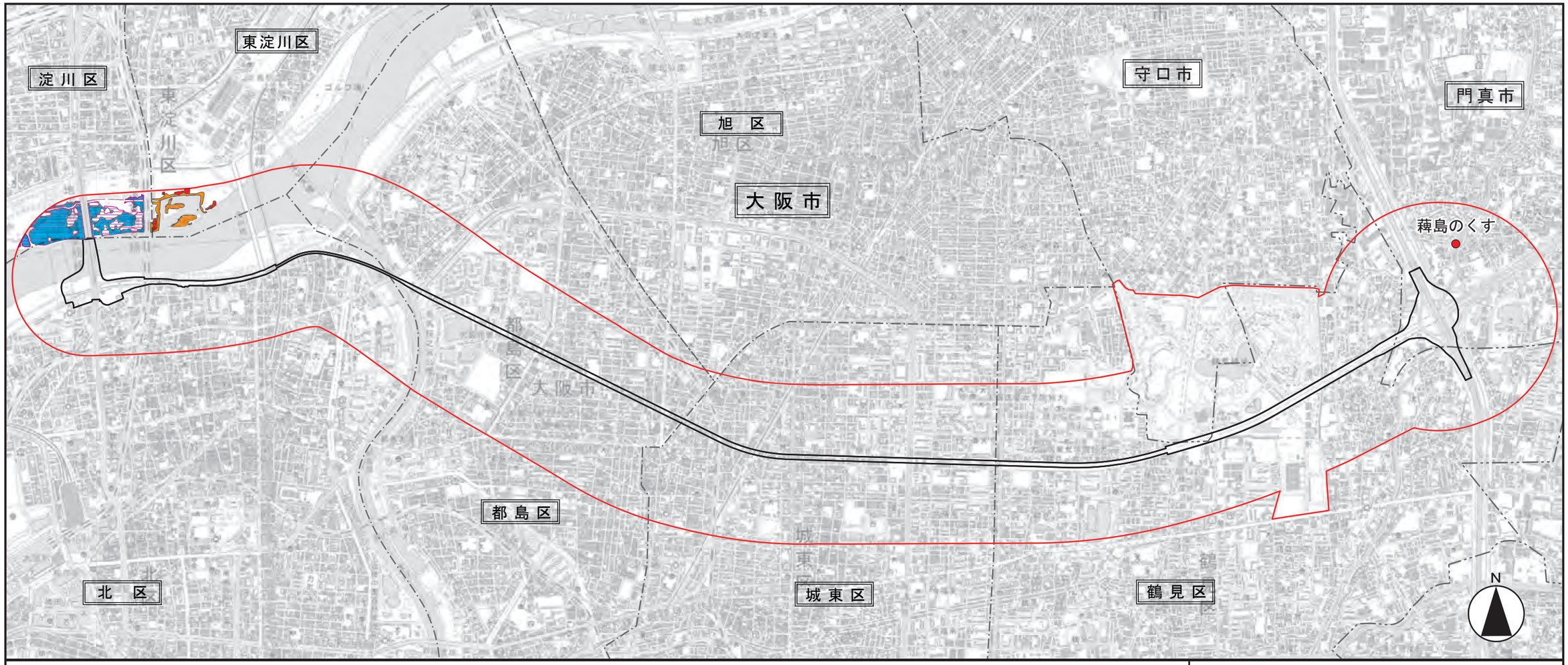
現地調査の結果、「植物群落レッドデータ・ブック」（平成 8 年、(財)日本自然保護協会）に該当する葎島のくす、オギ群落（オギ群集）、ヨシ群落（カモノハシ・ヨシ群落）、ヨシ群落（カサスゲ群集及びヨシ群落）、西中島の低湿地植物群落が確認されました。

既存資料調査及び現地調査により確認された重要な植物群落等を表 8-14-11 に、確認位置を図 8-14-5 に示します。

表 8-14-11　既存資料調査及び現地調査により確認された重要な植物群落等

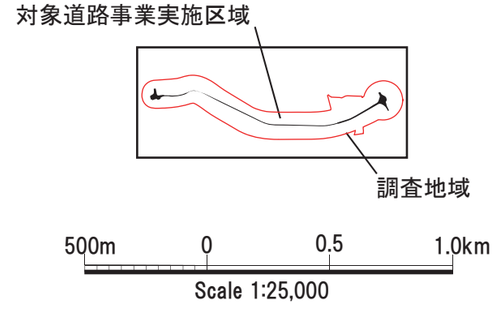
No.	群落等名（文献・資料における名称）	該当する群落･群集	所在地	選定基準			
				①	②	③	④
1	葎島のくす	葎島のくす	門真市	府天			
2	ｵｷﾞ群落（ｵｷﾞ群集）	ｵｷﾞ群集	大阪市東淀川区		ﾗﾝｸ 2		
3	ﾖｼ群落（ｶﾓﾉﾊｼ･ﾖｼ群落）	ﾖｼ群落	大阪市淀川区		ﾗﾝｸ 3		
4	ﾖｼ群落（ｶｻｽｹﾞ群集及びﾖｼ群落）	ﾖｼ群落	大阪市東淀川区		ﾗﾝｸ 2		
5	西中島の低湿地植物群落	ｼﾞｬﾔﾅｷﾞｰｱｶﾒﾔﾅｷﾞ群落、ﾖｼ群落、ｵｷﾞ群集、ﾎｻﾞｷﾉﾌｻﾓ群落	大阪市淀川区		ﾗﾝｸ 3		

注）選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表8-14-4に示すとおりです。



凡　　例			
番号	記 号	名　　称	所在地
1	●	稗島のくす	門真市
2	■	オギ群落（オギ群落）	大阪市東淀川区
3	■	ヨシ群落（カモノハシ・ヨシ群落）	大阪市淀川区
4	■	ヨシ群集（カサスゲ群集及びヨシ群落）	大阪市東淀川区
5	▤	西中島の低湿地植物群落	大阪市淀川区

出典：大阪府指定文化財一覧表（大阪府ホームページ）



図名	図8-14-5　重要な植物群落等の分布

2） 予測

（1） 予測の手法

① 予測手法

植物の重要な種及び群落について、「道路環境影響評価の技術手法」に基づき、分布又は生育環境の改変の程度を踏まえた解析により行いました。

工事施工ヤード及び工事用道路等の設置位置、道路構造別の道路の存在位置、換気塔の存在位置と重要な種・群落等の生育地の分布範囲から、生育地・生育基盤が消失・縮小する区間及びその程度を把握しました。

また、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路の存在及び換気塔の存在による対象種の生態を踏まえた生育環境の質的変化の程度（濁水※、地下水位の変化）についても把握しました。なお、道路構造物による日照変化の影響については、豊崎地区の高架部は幅員の狭いランプ部であること、鶴見地区は鶴見緑地から離れていること、換気塔については高さはあるものの、細い形状であることから、著しい日照変化は生じないと考え、生育環境の質的変化の把握対象外としました。

次に、それらが重要な種・群落等に及ぼす影響の程度を、科学的知見を参考に定性的に予測しました。

予測手順を図 8-14-6 に示します。

※濁水による環境変化については、以下の工事計画を基に予測を行いました。
- 河川内における橋梁基礎工事においては、改変面積を極力抑え、止水性の高い仮締切工法を採用するとともに、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行います。
- 土工事及びトンネル工事（開削工法）に伴う裸地等の表土から降雨等により発生する濁水については、必要に応じて裸地の整形、仮設沈砂池の設置、モニタリング等を行うことにより適切に管理・処理し、公共下水道へ排水します。
- シールド工法によるトンネル工事に伴って発生する濁水及び湧水については、濁水処理施設を設置し、必要に応じてモニタリング等を行うことにより適切に管理・処理し、公共下水道へ排水します。

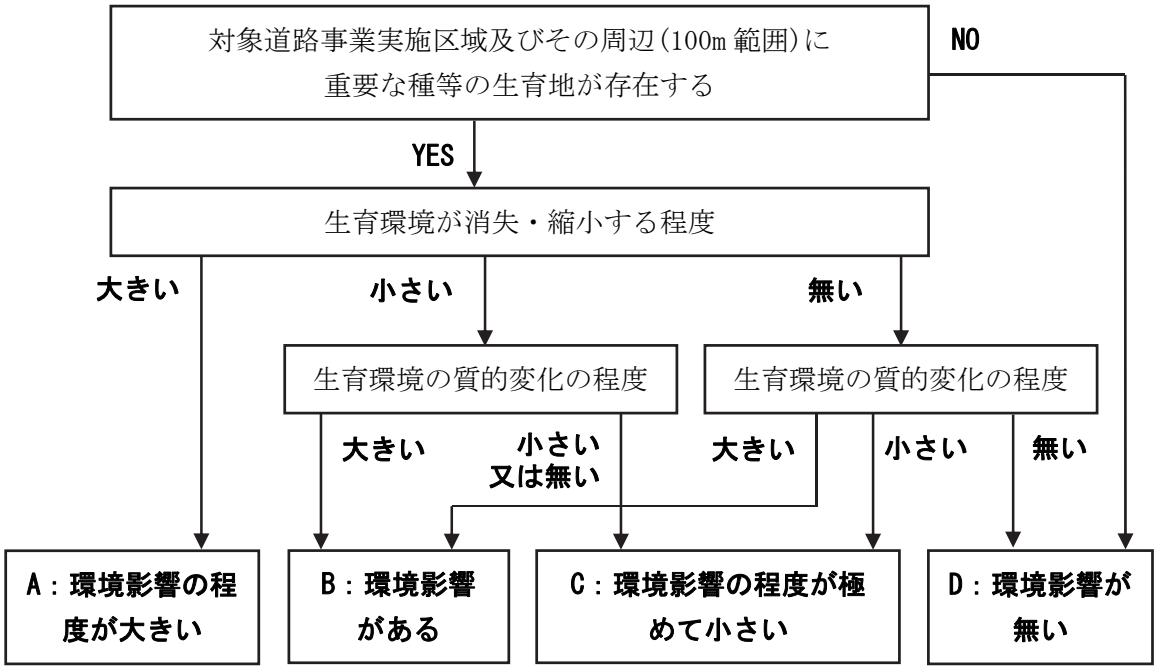


図 8-14-6　植物の予測手順

② 予測地域

予測地域は、調査地域のうち、植物の生育の特性を踏まえて、重要な種及び群落等に係る環境影響が考えられる地域としました。

地表部が改変され、直接的な影響を受ける可能性のある地域として「対象道路事業実施区域内※1」を、また工事作業による間接的な影響を受ける可能性のある地域として、「対象道路事業実施区域外※2」を予測地域としました。

※1　対象道路事業実施区域内　：直接改変を受ける対象道路事業実施区域内（工事中は工事施工ヤード及び工事用道路等の設置を含む範囲）。
※2　対象道路事業実施区域外　：対象道路事業実施区域端から100mの範囲及び100m以遠に区分。

③ 予測対象時期等

予測の対象時期は、事業特性及び重要な種及び群落等の生態的特性を踏まえて、重要な種及び群落等に係る環境影響を的確に把握できる時期としました。

具体的には、工事用道路の建設工事や工事施工ヤードの整備、開削工事、橋梁部の基礎工事等、現状の土地を改変する段階からの工事実施時期並びに道路施設が完成・供用する時期としました。

④ 予測対象種等の選定

予測対象種等は、現地調査により対象道路事業実施区域及びその周辺で生育が確認された重要な種及び群落、既存資料において対象道路事業実施区域及びその周辺における分布が示されている群落及び生育地を選定しました。

予測対象種等は、表 8-14-12 に示すとおりで、維管束植物 6 種、藻類 4 種及び植物群落 5 群落等です。

表 8-14-12　予測対象種

番号	項目	種　名	確認位置	
			豊崎地区	鶴見地区
1	維管束植物	ﾐｿﾞｺｳｼﾞｭ	○	
2		ｳﾗｷﾞｸ	○	
3		ｴｿﾞｳｷﾔｶﾞﾗ		○
4		ﾐｺｼｶﾞﾔ	○	
5		ﾜﾝﾄﾞｽｹﾞ	○	
6		ｼｵｸｸﾞ	○	
7	藻類	ｱﾔｷﾞﾇ	○	
8		ﾎｿｱﾔｷﾞﾇ	○	
9		ﾀﾆｺｹﾓﾄﾞｷ	○	
10		ｼｬｼﾞｸﾓ	○	
11	植物群落	葎島のくす		○
12		ｵｷﾞ群落(ｵｷﾞ群集)	○	
13		ﾖｼ群落(ｶﾓﾉﾊｼ・ﾖｼ群落)	○	
14		ﾖｼ群落(ｶｻｽｹﾞ群集及びﾖｼ群落)	○	
15		西中島の低湿地植物群落	○	

(2) 予測の結果

① 予測結果の概要

重要な種及び群落等の予測結果の概要は表 8-14-13 に示すとおりです。

生育環境への影響については、図 8-14-6 の手順により、以下のように整理しました。

A：環境影響の程度が大きい【生育環境が消失・縮小する程度が大きい】
B：環境影響がある【生育環境の質的変化の程度が大きい】
C：環境影響の程度が極めて小さい【生育環境の消失・縮小、質的変化の程度が小さい】
D：環境影響が無い【生育環境の消失・縮小、質的変化が無い】

表 8-14-13　重要な種の予測結果概要

番号	分類	種名	確認位置の環境	確認位置（対象道路事業実施区域との位置関係）			確認位置の改変状況		生息環境への影響	
				区域内	区域外		改変の有無	主な道路構造	工事中	供用後
					区域から100m 以内	区域から100m 以遠				
1	維管束植物	ﾐｿﾞｺｳｼﾞｭ	河川の乾性草地		○	○	無		D	D
2		ｳﾗｷﾞｸ	河川の湿性草地	○	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
3		ｴｿﾞｳｷﾔｶﾞﾗ	低地の公園			○	無		D	D
4		ﾐｺｼｶﾞﾔ	河川の乾性草地､湿性草地		○	○	無		D	D
5		ﾜﾝﾄﾞｽｹﾞ	河川の湿性草地		○		無		D	D
6		ｼｵｸｸﾞ	河川の湿性草地	○	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
7	藻類	ｱﾔｷﾞﾇ	河川の湿性草地	○			有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
8		ﾎｿｱﾔｷﾞﾇ	河川の湿性草地､消波ﾌﾞﾛｯｸ等	○	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
9		ﾀﾆｺｹﾓﾄﾞｷ	河川の湿性草地､消波ﾌﾞﾛｯｸ等	○	○	○	有	ﾗﾝﾌﾟ部(豊崎)	C	C
10		ｼｬｼﾞｸﾓ	開放水域(淀川本流､大川)			○	無		D	D
11	植物群落等	葎島のくす	低地の市街地			○	無		D	D
12		ｵｷﾞ群落(ｵｷﾞ群集)	河川の湿性草地			○	無		D	D
13		ﾖｼ群落(ｶﾓﾉﾊｼ・ﾖｼ群落)	河川の湿性草地		○	○	無		D	D
14		ﾖｼ群落(ｶｻｽｹﾞ群集及びﾖｼ群落)	河川の湿性草地			○	無		D	D
15		西中島の低湿地植物群落	河川の湿性草地		○	○	無		D	D

② 予測結果

植物の重要な種及び群落の予測結果を以降に示します。

なお、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置については、対象道路区域内を極力利用することで植物の生育環境の改変をできる限り避けた計画としており、改変は道路構造物設置箇所周辺に限られることから、工事中の一時的な改変による環境変化は小さいと考えられます。

a) 維管束植物

調査地域に存在する重要な維管束植物の予測結果は、表 8-14-14(1)～(6)に示すとおりです。

表 8-14-14(1)　重要な維管束植物の予測結果（ミゾコウジュ）

項目	内容		
生態	・本州、四国、九州、沖縄に分布する。 ・越年草で、湿った草地や水田畦、河原等に生育する。 ・5-6 月、茎の上部に花穂を出し、淡紫色で唇形の小花をつける。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の乾性草地において 2 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季、夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域から 100m 以内 1 箇所・100m 以遠 1 箇所(淀川)
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による本種の生育環境の消失・縮小及び変化は生じない。周辺の土工事に際しては、必要に応じて裸地の整形を行うことのほか、仮設沈砂池の設置により適切に管理・処理し、公共下水道へ排水することから濁水による環境変化は生じない。これらのことから、本種の生育環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	生育地はいずれも対象道路事業実施区域から 50m 以上離れているため生育環境の消失・縮小及び変化はなく、本種の主要な生育環境である淀川の乾性草地は残されることから、本種の生育環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-14-14(2)　重要な維管束植物の予測結果（ウラギク）

項目	内容		
生態	・北海道（東部）、本州（関東以西の太平洋側）、四国、九州に分布する。 ・越年草で、海浜（塩性湿地）に生育する。 ・花期は 8-11 月。多数の頭花をゆるい散房状につける。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において 23 箇所で確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 春季、夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内 7 箇所、対象道路事業実施区域から 100m 以内 4 箇所・100m 以遠 12 箇所(淀川)
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による本種の生育環境の消失・縮小は、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られるほか、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。これらのことから、本種の生育環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	対象道路事業実施区域は本種の生育地 23 箇所のうち 7 箇所を通過するが、改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、残りの 16 箇所の生育地については、対象道路事業実施区域外にあるほか、本種の生育可能な河川の湿性草地は道路事業実施区域外にも広く分布している。 これらのことから、本種の生育環境の消失・縮小及び変化は一部に限られ、本種の生育環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-14-14(3)　重要な維管束植物の予測結果（エゾウキヤガラ）

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。 ・多年草で、海岸近くの湿地等に生育する。 ・果は 7-10 月に熟す。花序は頭状に密集する 1-6 個の無柄の小穂からなる。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の公園において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎	確認されなかった
		鶴見	対象道路事業実施区域から 100m 以遠 1 箇所(鶴見緑地)
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置箇所は、本種の生育地から影響が生じない程度に十分離れており、本種の生育環境の消失・縮小及び変化は生じない。また、トンネル・掘割工事による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生育環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	生育地は対象道路事業実施区域から 100m 以上離れているため生育環境の消失・縮小及び変化はなく、地下構造物による鶴見緑地の水域の水位低下等の質的変化も僅かであり、本種の主要な生育環境である鶴見緑地内の湿性草地は残されることから、本種の生育環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-14-14(4)　重要な維管束植物の予測結果（ミコシガヤ）

項目	内容		
生態	・近畿地方以北の本州に分布する。 ・多年草で、暖温帯から冷温帯にかけての平地や河川の縁等、やや湿った草地に生育する。 ・果期は 5-7 月。花序は狭卵形で長さ 3-6cm、上方に雄花、下方に雌花をつける。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の乾性草地、湿性草地において 9 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域から 100m 以内 7 箇所・100m 以遠 2 箇所(淀川)
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による本種の生育環境の消失・縮小及び変化は生じない。周辺の土工事に際しては、必要に応じて裸地の整形を行うことのほか、仮設沈砂池の設置により適切に管理・処理し、公共下水道へ排水することから濁水による環境変化は生じない。これらのことから、本種の生育環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	生育地はいずれも対象道路事業実施区域から約 40m 以上離れているため生育環境の消失・縮小及び変化はなく、本種の主要な生育環境である淀川の乾性草地、湿性草地は残されることから、本種の生育環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-14-14(5)　重要な維管束植物の予測結果（ワンドスゲ）

項目	内容		
生態	・本州（近畿地方）、九州に分布する。 ・多年草で、河川下流や湖縁に生育する。 ・果期は 4-5 月。上部 2-4 個の小穂は雄性、長さ 3-6cm。下方の小穂は雌性、長さ 3-6cm。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域から 100m 以内 1 箇所(淀川)
		鶴見	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による本種の生育環境の消失・縮小及び変化は生じない。周辺の土工事に際しては、必要に応じて裸地の整形を行うことのほか、仮設沈砂池の設置により適切に管理・処理し、公共下水道へ排水することから濁水による環境変化は生じない。これらのことから、本種の生育環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	生育地は対象道路事業実施区域から 50m 離れているため生育環境の消失・縮小及び変化はなく、本種の主要な生育環境である淀川の湿性草地は残されることから、本種の生育環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-14-14(6)　重要な維管束植物の予測結果（シオクグ）

<table>
<tr><th>項目</th><th colspan="3">内容</th></tr>
<tr><td>生態</td><td colspan="3">・北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。
・多年草で、海水の出入りする河口付近の湿地に生育する。
・果期は 5-6 月。上方の 2-4 個の小穂は雄性で、ときに一部血赤色を帯びる。下方の 1-2 個は雌性で、長楕円形をなし、長さ 1-2cm、雌花の鱗片はさび色で先はとがる。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">予測地域における確認状況</td><td>確認状況</td><td colspan="2">河川の湿性草地において 28 箇所で確認された。</td></tr>
<tr><td>確認時期</td><td colspan="2">H24 秋季、H25 春季</td></tr>
<tr><td rowspan="2">確認位置</td><td>豊崎</td><td>対象道路事業実施区域内 6 箇所、対象道路事業実施区域から 100m 以内 5 箇所・100m 以遠 17 箇所(淀川)</td></tr>
<tr><td>鶴見</td><td>確認されなかった</td></tr>
<tr><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測</td><td colspan="3">工事の実施による本種の生育環境の消失・縮小は、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られるほか、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。これらのことから、本種の生育環境への影響は極めて小さいものと予測される。</td></tr>
<tr><td>道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測</td><td colspan="3">対象道路事業実施区域は本種の生育地 28 箇所のうち 6 箇所を通過するが、改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、残りの 22 箇所の生育地については、対象道路事業実施区域外にあるほか、本種の生育可能な河川の湿性草地は道路事業実施区域外にも広く分布している。これらのことから、本種の生育環境の消失・縮小及び変化は一部に限られ、本種の生育環境への影響は極めて小さいものと予測される。</td></tr>
</table>

b) 藻類

調査地域に存在する重要な藻類の予測結果は、表 8-14-15(1)～(4)に示すとおりです。

表 8-14-15(1)　重要な藻類の予測結果（アヤギヌ）

項目	内容		
生態	・本州太平洋岸、瀬戸内海、九州に分布する。 ・河口域等の潮間帯のﾖｼの茎上等に生育する。 ・体は細線状で扁平で、叉状様に分岐し、分岐部分で僅かにくびれることもあり、幅 1-2mm で、分岐は 1.3-3mm の間隔で生ずる。分岐点の下面から出る仮根糸により付着する。分岐点の上の中心細胞から内生枝を生ずる。質は薄い膜質で、乾燥するとき紙に付着しない。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において 1 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季	
	確認位置	豊崎(淀川･大川)	対象道路事業実施区域内 1 箇所(淀川)
		鶴見(大池･古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による本種の生育環境である河川の湿性草地の消失・縮小は、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られるほか、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。これらのことから、本種の生育環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	対象道路事業実施区域は本種の生育地 1 箇所を通過するが、改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生育可能な河川の湿性草地は道路事業実施区域外にも広く分布している。 これらのことから、本種の生育環境の消失・縮小及び変化は一部に限られ、本種の生育環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-14-15(2)　重要な藻類の予測結果（ホソアヤギヌ）

項目	内容		
生態	・本州太平洋岸、瀬戸内海、九州、南西諸島に分布する。 ・河口域等の汽水域の潮間帯に生育する。 ・体は細い線状で扁平で横に這い、不規則な叉状様に分岐し、分岐点でくびれ、副出枝を出して多叉状分岐するように見える部分もある。分岐部分の下面から仮根糸を出して付着する。分岐から次の分岐までの葉片は長さ 2-5mm、幅はふつう 0.5mm 以下になる。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地、消波ブロック等において 25 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季、H26 冬季	
	確認位置	豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域内 3 箇所、対象道路事業実施区域から 100m 以内 11 箇所・100m 以遠 11 箇所(淀川)
		鶴見(大池・古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による本種の生育環境である河川の湿性草地、消波ブロックの消失・縮小は、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られるほか、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。これらのことから、本種の生育環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	対象道路事業実施区域は本種の生育地 25 箇所のうち 3 箇所を通過するが、改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、22 箇所の生育地については、対象道路事業実施区域外にあるほか、本種の生育可能な河川の湿性草地、消波ブロックは道路事業実施区域外にも広く分布している。これらのことから、本種の生育環境の消失・縮小及び変化は一部に限られ、本種の生育環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-14-15(3)　重要な藻類の予測結果（タニコケモドキ）

項目	内容		
生態	・本州太平洋岸中部、九州、南西諸島に分布する。 ・河口域等の汽水域の潮間帯に生育する。 ・体は匍匐し、斜上する側枝を持ち、緩く芝生状。主軸は無限生長し、長さ 10-40㎜になり、有限生長の側枝は長さ 2-3㎜で 1-2 回互生的に分枝する。中軸細胞あたり 2 段の周心細胞がある。稔性の枝では 5 個の周心細胞がある。古い匍匐部を除いて皮層を持たない。最末の小枝を除いては多管になる。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地、消波ブロック等において 20 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 冬季、H26 冬季	
	確認位置	豊崎(淀川･大川)	対象道路事業実施区域内 4 箇所、対象道路事業実施区域から 100m 以内 5 箇所・100m 以遠 11 箇所(淀川)
		鶴見(大池･古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による本種の生育環境である河川の湿性草地、消波ブロックの消失・縮小は、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られるほか、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。これらのことから、本種の生育環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	対象道路事業実施区域は本種の生育地 20 箇所のうち 4 箇所を通過するが、改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、16 箇所の生育地については、対象道路事業実施区域外にあるほか、本種の生育可能な河川の湿性草地、消波ブロックは道路事業実施区域外にも広く分布している。これらのことから、本種の生育環境の消失・縮小及び変化は一部に限られ、本種の生育環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-14-15(4)　重要な藻類の予測結果（シャジクモ）

項目	内容		
生態	・国内全域に広く分布する。 ・湖沼、ため池などの水深の深い環境に生育する一方で、水田などの浅い水環境にも生育する。 ・藻体は 5-40cm、主軸（茎）の太さは 300-1000μm。主軸から 8-11 本の小枝（輪生枝）が出て、外見はｼﾀﾞ植物のｽｷﾞﾅに似る。卵胞子は黒く、長さ 500-750μ、幅 300-450μあり、らせん縁は 7-12 本。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域において 2 箇所で確認された。	
	確認時期	H25 夏季(魚類調査時)	
	確認位置	豊崎(淀川･大川)	対象道路事業実施区域から 100m 以遠 2 箇所(淀川･大川)
		鶴見(大池･古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置箇所は、本種の生育地から影響が生じない程度に十分離れており、本種の生育環境の消失・縮小及び変化は生じないことから、本種の生育環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	生育地は対象道路事業実施区域から 100m 以上離れているため生育環境の消失・縮小及び変化はなく、本種の主要な生育環境である淀川・大川の開放水域は残されることから、本種の生育環境への影響は無いものと予測される。		

c） 植物群落等

調査地域に存在する重要な植物群落等の予測結果は、表 8-14-16(1)～(5)に示すとおりです。

表 8-14-16(1)　重要な植物群落等の予測結果（葎島のくす）

項目	内容		
生態	・樹高約 10 メートル、幹周 7 メートルで、地上 1 メートル余りで三幹にわかれ、枝は四方に広がる。生育は良好。 ・市内の樹木では薫蓋クスに次ぐ規模があり、推定樹齢は約 400 年である。 ・民家に所在するクスとしては珍しい巨樹であることから、昭和 45 年 2 月 20 日、大阪府の天然記念物に指定されている。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の市街地において 1 箇所確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 春季	
	確認位置	豊崎	―
		鶴見	対象道路事業実施区域から 100m 以遠
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置箇所は、本個体の生育地から影響が生じない程度に十分離れており、本個体の生育環境の消失・縮小及び変化は生じないことから、本個体の生育環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	生育地は対象道路事業実施区域から 100m 以上離れており、本個体の生育環境の消失・縮小及び変化は生じないことから、本個体の生育環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-14-16（2）　重要な植物群落等の予測結果（オギ群落（オギ群集））

項目	内容		
生態	・北海道、本州、四国、九州に分布する。 ・河川中流部の高水敷や湖畔に成立する大型の多年生草原。 ・上層にｵｷﾞを密生し、下層に僅かに他の植物を伴うことが多い。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域から 100m 以遠
		鶴見	―
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置箇所は、本群落の生育地から影響が生じない程度に十分離れており、本群落の生育環境の消失・縮小及び変化は生じないことから、本群落の生育環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	群落の分布地は対象道路事業実施区域から 100m 以上離れており、本群落の消失・縮小及び変化は生じないことから、本群落の生育環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-14-16(3)　重要な植物群落等の予測結果（ヨシ群落（カモノハシ・ヨシ群落））

項目	内容		
生態	・世界の暖帯から亜寒帯に広く分布する。 ・河川の沖積地や湖沼の岸、河口付近の塩湿地、湿原、放棄水田跡地等、幅広い立地に優占群落を形成する。 ・密生した単層の群落をつくるが上層にﾊﾝﾉｷやﾔﾅｷﾞ類を、下層にｼﾛﾈやその他の種を伴うことも多い。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域から 100m 以内
		鶴見	－
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による本群落の消失・縮小は生じないほか、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。これらのことから、本群落の生育環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	群落の分布地は対象道路事業実施区域外であり、本群落の消失・縮小及び変化は生じないことから、本群落の生育環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-14-16(4)　重要な植物群落等の予測結果（ヨシ群落（カサスゲ群集及びヨシ群落））

項目	内容		
生態	・世界の暖帯から亜寒帯に広く分布する。 ・河川の沖積地や湖沼の岸、河口付近の塩湿地、湿原、放棄水田跡地等幅広い立地に優占群落を形成する。 ・密生した単層の群落をつくるが上層にﾊﾝﾉｷやﾔﾅｷﾞ類を、下層にｼﾛﾈやその他の種を伴うことも多い		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域から 100m 以遠
		鶴見	－
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置箇所は、本群落の生育地から影響が生じない程度に十分離れており、本群落の生育環境の消失・縮小及び変化は生じないことから、本群落の生育環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	群落の分布地は対象道路事業実施区域から 100m 以上離れており、本群落の消失・縮小及び変化は生じないことから、本群落の生育環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-14-16(5)　重要な植物群落等の予測結果（西中島の低湿地植物群落）

項目	内容		
生態	・河口付近等の砂質の沿岸のうち、海水または汽水に浸る場所に見られる群落複合。砂浜植物群落複合に隣接していたり、その一部として含まれていることもある。 ・塩分濃度や満潮時の海面との位置関係に対応して、耐塩性のある湿地植物からなる草本群落または低木群落（ﾏﾝｸﾞﾛｰﾌﾞ）が配列している。 ・特殊な立地であるため、そこに特有の植物が多く、群落の破壊が種の絶滅に直結しやすい。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 春季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域から 100m 以内
		鶴見	－
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による本群落の消失・縮小は生じないほか、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。これらのことから、本群落の生育環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	群落の分布地は対象道路事業実施区域外であり、本群落の消失・縮小及び変化は生じないことから、本群落の生育環境への影響は無いものと予測される。		

3) 環境保全措置の検討

(1) 環境保全措置の検討の状況

工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路の存在及び換気塔の存在に係る植物に関する影響について、事業者の実行可能な範囲内で、環境影響をできる限り回避又は低減することを目的として表 8-14-17 に示すとおり、環境保全措置の検討を行いました。

表 8-14-17　環境保全措置の検討の状況

環境保全措置		実施の適　否	適否の理由
回避・低減	工事従事者への講習・指導	適	工事区域外への立ち入りや重要な種の分布地への立ち入りを制限することにより、人為的な攪乱による影響の低減が見込まれます。

(2) 環境保全措置の実施主体、方法その他の環境保全措置の実施の内容

環境保全措置としては、「工事従事者への講習・指導」を実施します。

環境保全措置の実施主体は事業者です。環境保全措置の実施内容等の検討結果は表 8-14-18 に示すとおりです。

表 8-14-18　環境保全措置の検討結果

実施内容	種類	工事従事者への講習・指導
	位置	(仮称)豊崎ICランプ部施工箇所
保全措置の効果		人為的な攪乱による影響を低減できます。
他の環境への影響		なし

4） 評価

(1) 評価の手法

① 回避又は低減に係る評価

工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在及び換気塔の存在に係る植物に関する影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて、見解を明らかにすることにより行いました。

(2) 評価の結果

① 回避又は低減に係る評価

対象道路は、主にトンネル構造を採用するとともに、明かり部・換気所については極力既存道路の敷地を利用し植物の生育環境の改変をできる限り避けた計画としています。工事施工ヤード及び工事用道路等については、対象道路事業実施区域内及び既存道路を極力利用することで植物の生育環境の改変をできる限り避けた計画としているほか、河川内の橋脚の設置を極力回避するとともに、止水性の高い適切な仮締切工法の採用、必要に応じて仮設沈砂池等の設置を行うことで、水生植物の生育環境への影響をできる限り避けた計画としています。

予測の結果、重要な種及び群落への影響は無い又は極めて小さいと予測されました。

また、環境保全措置として、表 8-14-18 に示す「工事従事者への講習・指導」を実施することとしています。

これらのことから、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在及び換気塔の存在に係る植物に関する影響は、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されていると評価します。

なお、予測し得ない影響が生じた場合は、必要に応じ有識者等の助言を得ながら別途対策を講じることとします。